

横浜市青少年に関する調査報告書

令和3年3月

横浜市こども青少年局青少年育成課

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 報告書の構成.....	1
第2章 ヒアリング調査	2
1 調査の概要.....	2
(1) 調査の概要	2
(2) 調査結果の見方・留意点.....	3
2 ヒアリング調査結果	4
(1) 不安に思うことや悩みについて.....	4
(2) ゲーム・SNS・インターネットについて.....	8
(3) 悩みごとの相談について.....	11
(4) 10代・20代に対する情報提供について.....	15
第3章 アンケート調査	22
1 調査の概要.....	22
(1) 調査対象.....	22
(2) 調査期間.....	22
(3) 調査方法.....	22
(4) 調査項目.....	22
(5) 配布・回収状況.....	23
(6) 集計結果の表示方法・留意事項.....	23
2 アンケート調査結果	25
(1) 回答者の属性.....	25
(2) インターネットやSNS、ゲーム等の利用状況について.....	25
(3) 現在困っていることや悩んでいることについて.....	44

(4) 横浜市の施策について	54
第4章 調査結果のまとめ.....	68
調査結果に関する留意点.....	68
(1) 困っていることや不安に思うこと、悩みについて	68
(2) ゲーム・SNS・インターネットについて.....	68
(3) 悩みごとの相談について.....	70
(4) 10代・20代に対する情報提供について.....	72
(5) 調査から得られた知見	75
参考資料.....	79

第1章 調査の概要

1 調査の目的

青少年の抱える課題を把握し、困難に陥る前に予防することを目的に、ひきこもり、依存症、インターネットトラブル等、多様化する青少年を取り巻く課題等について、ヒアリング調査とアンケート調査を行う。調査結果を分析し、今後の青少年施策等に反映するための基礎資料とする。

2 調査の概要

本調査では、ヒアリング調査とアンケート調査を、令和2年9月から10月にかけて実施した。なお、本調査の実施は、株式会社浜銀総合研究所に委託し実施した。

ヒアリング調査は、調査への協力を承諾いただいた横浜市内の一部の高校及び大学に通学する概ね16歳から22歳までの男女個人15人を対象として、令和2年9月に実施した。

アンケート調査は、調査への協力を承諾いただいた横浜市内の高校及び大学10校に通学する生徒・学生を対象に実施した。令和2年10月に、調査協力校に調査票を配布し、インターネット回答または調査票回答による方法で回収を行った。

3 報告書の構成

本報告書は、第2章でヒアリング調査結果、第3章でアンケート調査結果について報告し、第4章で、ヒアリング調査結果とアンケート調査結果を踏まえたまとめを掲載している。なお、報告書の末尾に参考資料として、アンケート調査票と、単純集計結果を掲載した。

第 2 章 ヒアリング調査

1 調査の概要

(1) 調査の概要

ア 調査対象

横浜市内の一部の高校及び大学に通学する概ね 16 歳から 22 歳までの男女個人 15 人を対象とした。

イ 調査期間

令和 2 年 9 月 11 日から 9 月 30 日に実施した。

ウ 実施方法

横浜市が、市内の高校及び大学に協力者の募集を依頼し調整の上、ヒアリング調査協力者を決定した。アンケート調査の予備調査として、協力者にアンケート調査票（案）への記入の協力を依頼し、ヒアリング時にアンケート調査票への回答状況と、ヒアリング調査項目に関する聞き取りを行った。ヒアリングは、協力者の希望に応じて、対面による聞き取りと、オンラインによる聞き取りの方法を併用した。調査協力者には、協力への謝礼（Q U O カード）を配布した。

エ 調査項目

「不安に思うことや悩んでいること」、「悩みごと等の相談相手」、「利用してみたいと思う相談の場」、「ふだん使っている情報入手の方法」、「横浜市の広報物に対する認知」、「青少年向けの情報提供方法に関する意見」、「ゲームや SNS 等の使用状況・トラブル」について、意見を伺った。

(2) 調査結果の見方・留意点

- ヒアリング調査結果では、「ヒアリングで把握した代表的な意見」として、調査協力者から聴取した内容の要約を掲載している。全ての発言内容を掲載しているわけではない。
- 「ヒアリングで把握した代表的な意見」では、協力者から聞かれた意見を集約し、類似の意見を述べた人数を「(件)」として示している。これらは、10代・20代の調査協力者やその友人等について話された、定性的な特徴や価値観を示す「質的なデータ」であり、横浜市の高校生・大学生全体の傾向を表す「定量的なデータ」ではない点に留意が必要である。

2 ヒアリング調査結果

(1) 不安に思うことや悩みについて

ア 現在、悩んでいることや心配なこと(新型コロナウイルス関連を除く)

「現在、悩んでいることや心配なこと」への回答として、「就職のこと」、「学校での勉強や成績のこと」、「友人や仲間との人間関係」等の意見が多く挙げられた。

具体的な回答内容をみると、「就職のこと」では、就職活動や関連する実習がうまくいか不安という声が挙げられた。「学校での勉強や成績のこと」では、進学に向けて成績が不十分という悩みが複数挙げられた。「友人や仲間との人間関係」では、友人がいじめを受けていたり、周囲で SNS に関するトラブルが起こったという回答が聞かれた。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【就職のこと】(4件)

- 新型コロナに関係なく、就職のことは不安。もうすぐ教育実習だが、うまくできるのか不安。(将来の就職に関する不安 計3件)
- 就職活動をしたがうまくいかなかった。

【学校での勉強や成績のこと】(3件)

- 担任の先生からは「わからなければ聞け」と言われたが、自分から聞きに行くのは怖い。自分で調べればわかることもあるのに、聞かなくてはいけないと考えると聞きづらい。
- 進学のための学力をつけるためには、学校の授業だけでは間に合わない。勉強のやる気がどうしても出ない。勉強のやる気が起きないので、相談をすることもない。
- 成績上位者のクラスに入れなかったことについて悩んでいた。

【友人や仲間との人間関係】(3件)

- 友人の人間関係についてよく相談を受ける。集団でいじめを受けている友人がいる。また、友人から、SNS 等で知り合ったゲーム関連のコミュニティの仲間からいじめを受けていると相談を受けた。友人に、そのゲームの利用を控えるようにアドバイスしているが、友人がゲームに依存している状況であり、聞き入れてもらえない。
- 周りに問題を起こす人が多く、自分は友達の問題に巻き込まれる側。高校1～2年の時は特に問題が多かった。周囲で Twitter の裏アカウント関連でトラブルがあったと聞いた。自分も裏アカウントを持っている。「裏アカウントを作らず、相談したいことがあるなら先生に相談して」と言われたが、先生に言えないこともあるので作ってしまう。5 個くらい裏アカウントを持っている

友人がいる。

- 個々人の部活動に対する意欲にばらつきがあり問題が生じた。部活のことで悩んだ時は、部活の友人に相談した。

【進学のこと】（2件）

- 自分の志望している学校への入学が、今の成績のままだと難しい。進路志望先を変更しようか悩んでいる。
- 悩んでいるというほどではないが、大学受験のことが気になっている。センター試験が共通テストに変わることや、新型コロナの影響で、大学の募集定員や学費が変わったりしないか気になっている。

【気分や体調のこと】（2件）

- 肩こりが激しく、頭痛がする。整体にも行ったが、改善しなかった。
- よく腹痛が起こる。足をつる癖がついてしまい、部活動の大会に出ることが難しくなった。また、それによって部活動に対するモチベーションが上がらなくなってしまっている。

【その他】

- 身の回りの家事は全て自分でやっており、また親の収入が安定しないことで、たびたび親と衝突する。自分に収入があればよいが、稼ぐことをメインにすると、自分のやりたいことができないというジレンマがある。
- 恋愛について悩んでいる。充実していないと感じる。もっと出会いがあったらいいと思う。
- 体重が増えて悩んでいる。ひきこもりがちになったことがひとつの要因だと思う。
- はっきりした悩みはないがなんとなく不安。誰かに真剣に話したことはない。同年代の友達と直接会ったとき、もしくはLINEで「不安だよな」などと話すことはある。

イ 新型コロナウイルスの流行に関連する不安や悩み

「新型コロナウイルスの流行に関連して悩んでいること、心配なこと」への回答として、「就職のこと」、「学校での勉強や成績のこと」、「友人や仲間との人間関係」等の意見が多く挙げられた。

「就職のこと」では、新型コロナウイルスの流行により、インターンシップが中止となったこと、昨年までの採用スケジュールと異なること、友人間での就職活動に関する情報交換が難しいこと等が具体的な内容として挙げられた。「学校での勉強や成績のこと」では、オン

ライン授業となったことで課題が増えたことや質問がしにくくなったこと、授業の遅れが心配などの回答が複数あった。「友人や仲間との人間関係」では、友人との人間関係が作りにくいこと、ひとりでいる時間が増えたこと等の回答が聞かれた。また、少数ではあるが、アルバイト収入が減少したことで生活が厳しいという回答があった。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【就職・インターンシップのこと】（7件）

- 新型コロナウイルスで、就職活動に影響が出ているので不安に思っている。採用人数が減らされるという情報を聞き、漠然とした不安がある。インターンシップの予定が中止になっていて、自分が予定していたよりも参加できておらず、予定が狂ってしまったと感じる。就職関連の情報は友達からの情報も多かったが、大学に行かないと友達と情報交換する機会がない。わざわざ聞くような機会がないので、情報が入ってこない。大学に行かないと、周りの友達がどのくらい進んでいるのか、進捗がわからないのが一番怖いと感じる。（インターンシップに関する意見 計5件）
- 就職について不安を感じる。教員を考えているが、教員採用試験は夏ごろにある。例年だったら、3年の秋学期に大学が「教員対策講座」を開いて、実践的な対策ができる。今年は、大学からの講座に関する情報がまだ発表されていない。対策講座では、面接の練習や、模擬授業の対策があるが、来年もコロナウイルスの影響が続いたら、オンラインで対策をすることになる。本番とは違った対策になってしまうのか、十分な対策ができるのかと不安がある。
- 友人から、Webでの選考が多く、スケジュールが全体的に後ろ倒しになったと聞いた。

【学校での勉強や成績のこと】（6件）

- 秋学期もオンライン授業になった。大学に行けずオンライン授業になると、ちゃんとした勉強ができるのか不安。また、オンラインになって、課題の量が増えたことも不安。オンラインの授業でも、Zoomを使った双方向の授業は対面の授業とあまり変わらないが、動画が配信され、それを見るだけという授業は質問もしにくい。空いている時間に動画で授業を見る形になって、見ないといけない動画が溜まってしまう。スケジュール管理をして、授業を受けていかななくてはいけないので、大学に行っただけの対面授業との違いを感じる。他の学生との交流がないので、ひとりで授業に向き合うことになる。「この課題どうした?」、「これどう思う?」というやり取りがなくて孤独を感じる。友達とは、LINEでお互いに聞き合うことがある。（オンライン授業に関する意見 計3件）
- 勉強の遅れが気になった。学校では、昨年の期末テストが中止になり成績の付けられ方がどうなるのか、今年に入ってから、短縮授業等で授業時間が短くなった。勉強で周りについていけないのか、不安になった。（勉強の遅れに関する意見 計3件）

【友人や仲間との人間関係】（4件）

- 友人と遊ぶことができる時間が少なくなった。新しい人間関係も作りにくい。人と会う機会が減り、一人でいる時間が増えることが、心理的な負担だと感じることもある。（友人と会うことに関する意見 計3件）
- 現在は生活するのに必要最低限の金額しかアルバイトで得ることができず、友人と遊ぶためのお金を用意できない。心にゆとりがないと感じる。

【進学のこと】（3件）

- 進学を志望している学校の入学試験に（部活動に関連する）実技試験があるが、新型コロナウイルスの流行により、部活動の練習時間の確保が難しかった。
- 進学した後のことが不安である。新型コロナウイルスの影響で、大学や専門学校がオンライン授業だけになっており、実技等が受けられるのか不安を感じている。また、オンライン授業なのに通常の授業料等を支払わなければいけないことが心配である。
- スポーツ推薦をねらっているため、大会が開催されなかったことがマイナスに影響した。

【家族関係】（3件）

- 新型コロナウイルスをうつしてしまうことが怖くて、実家に帰ることができなかった。（帰省に関する意見 計2件）
- （新型コロナウイルスの外出自粛期間も）父が会社に行かないといけなかった。母は勤め先で、契約内容等のトラブルから退職した。

【収入や生活費のこと】（2件）

- 自分の生活費は、自分のアルバイト代で賄っている。飲食店でアルバイトをしていたため、新型コロナウイルスの流行により、収入が減少した。（アルバイト収入に関する意見 計2件）

【気分や体調のこと】（2件）

- 通学に混む時間帯の公共交通機関を利用することで、自分がコロナにかかるのではないかと心配だった。喉が乾燥していて咳がしたいのに、周りの目が気になってできない。コロナが心配なので出かけないようにしていた。持病があり、軽い運動なら大丈夫と言われてはいたが、コロナに感染したときのことを考えると、運動したくても無理にはできないので、家にこもっていた。菓子等を食べるが増えた。（新型コロナウイルス感染に関する不安 計2件）

【その他】

- コロナによっていろいろなことが変わっているが、自分の適応力が不安。大学2年生でやりたかったことや、大学の4年間でやりたかったこと等、想定との違いが出てきてしまっている。描いていたプランは、就職活動関連で言えば、大学2年生のうちは業種を絞るために1dayインター

ンシップをいろいろ見ておき、3年生で長期のもの等をしっかり経験したかった。現実では、業種が絞れていない。また、大学2年生が一番遊べる時期だと思っていたのに、友達とも会えず、外出もできないことが不満。海外旅行をしたいと思っていた。

- 部活動の活動日が制限されるなど、授業以外の大学生活のことで困っている。
- コロナに対するデマ情報がよくあったのが困った。よく考えれば違うと分かるけど、すぐには何が正確な情報なのかわからない。適切な情報が得にくかった。
- 学校がいつ始まるかわからなかったため、アルバイトのスケジュールを立てるのが大変だった。アルバイト先のスーパーでは、新型コロナウイルスの影響でお客さんがピリピリしていて、クレームが増えた。スーパーでの呼び込みで大声を張らなければいけない状況のときにクレームを受けた。

(2) ゲーム・SNS・インターネットについて

ア ゲームや SNS 等の使用状況

ヒアリング対象者に、同世代の知人等で、「大切な予定や必ずやらなくてはいけないと思っているのに、それを後回しにしてまでもやめられない状態が続いている」のではと思うことがあるかを尋ねた。

やらなくてはいけないことを後回しにし、つい熱中してしまうものとして、「ゲーム」、「SNS」、「動画サイト」が、多く回答された。新型コロナウイルスの流行期間に通学する必要がなくなり、ゲームや動画サイトにより過度に時間を使っている、昼夜逆転をしている例が複数挙げられた。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【SNS・動画サイト】(9件)

- SNS について、やらなくてはいけない課題があるけど、先にスマホを見てしまうことはほぼ毎日ある。
- 動画サイトを見ている時間は1日あたり5時間くらいが平均だと思う。動画を最後まで見ると時間がかかる。見たい動画が終わっても、次のオススメ動画をそのまま見てしまったりする。
- SNS やゲーム、YouTube や TikTok 等の動画サイトに熱中しすぎる人は多い。新型コロナウイルス流行の影響もあるかと思う。

【ゲーム】(6件)

- 知り合いで夜遅くまでゲームをしていて、昼夜逆転をしている人はいる。大学がオンライン授業

になり、早起きをしなくてよくなったので、朝4時くらいにやっと寝るという状態と聞いた。(ゲームで昼夜逆転している 計2件)

- 学校に携帯用ゲーム機を持ってきている生徒はいる。授業中にゲームをやってしまうことがある。(授業中にゲームをしてしまう 計2件)
- 知人の話で、例えば月に1万円くらい、気付いたらゲームに課金してしまったという話を聞くことがあった。
- 周りの友人だが、ゲームとYouTubeをやめられない人がいる。その友人は、新型コロナウイルス流行前は通学する必要があるのが良かったが、流行後はゲームをやりすぎて、オンラインの授業を受けそびれてしまい、結果として単位を落としてしまった。睡眠時間が2～3時間になってもゲームをやめようと思っていないようだった。どうしてなのかを訊いても、わからないと言っていた。そういった状況を聞いて助けになろうとしても、一緒に頑張ろうと思えるものがあったり、本人に直そうという意思があれば良いが、本人が「別にいいか」と思っていると難しい。一人暮らしだと余計にはまってしまいやすいと思う。

【その他】

- パチンコにのめり込んで留年したという人がいると聞いたことがある。

イ インターネットや SNS の利用によるトラブル

自分だけでなく、知人が巻き込まれた例を含めて、インターネットや SNS の利用によるトラブルを経験あるいは聞いたことがあるかを尋ねた。友人・知人を含めるとトラブルを見聞きしたことがあると回答した方は半数を超えており、青少年にとって身近な問題となっていることが伺えた。

具体的なトラブルとして、「アカウントを乗っ取られた」、「悪口を言われた(書き込まれた)」、「個人情報(写真を含む)を勝手に公開された」、「知らない人から性的なアプローチを受けた」などが回答された。

トラブルを経験したことがないと回答した方は、投稿せず閲覧するだけの利用にする、知り合いだけの限定公開に設定するなど、SNS等の利用方法を制限していると述べていた。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【アカウントを乗っ取られた】(3件)

- 友達で、アカウントを乗っ取られたと聞いたことがある。「乗っ取られたので、アカウントを変えました」と聞いた。(アカウントを乗っ取られた 計3件)

【悪口を言われた（書き込まれた）】（2件）

- ゲームの動画配信をしている友人から、SNS等で知り合ったゲーム配信のコミュニティの仲間からいじめを受けていると相談を受けた。
- 知り合いで、「トラブル」というほどではないが、SNSに情報を投稿したことで、裏で悪口を言われたと聞いたことがある。

【個人情報（写真を含む）を勝手に公開された】（2件）

- 部活動の集まりで撮影された写真を、何の断りもなくSNSに投稿された。自分が嫌な思いをしたので許可を取る体制にした。
- オンラインゲームで知り合った人に暴言を吐いたら、Twitterで個人情報をさらされたと友人が言っていた。

【知らない人から性的なアプローチを受けた】（2件）

- Instagramでアカウントを公開していると、フォローをしていない人でも見られるのだが、公開アカウントで友達と一緒に写った写真を投稿した際にDM（ダイレクトメッセージ）で性的なメッセージを受け取ったことがある。外国人から外国語でメッセージが来たため、翻訳してみるとそのような内容のメッセージだった。友人に相談したが、放置で良いと言われ、削除・ブロックという対処をしたが、嫌な気持ちがあった。
- 友人に、外国人から裸の写真を送られてきたという人がいる。送られてきた本人は、大して気にしていない様子だった。また、通報しようかという話にはなったが、できなかった。

【その他のトラブル】

- タバコを吸っている画像等をInstagramに投稿し、停学処分を受けた生徒がいる。
- 個人情報が漏れたようで、自宅に営業の訪問員が来たことがある。その時には、親に対応してもらった。
- 学校を特定された友人がいる。制服の写真でわかるのだと思われる。

【インターネットやスマートフォン等の利用でトラブルを経験したことはない】（5件）

- インターネットやSNSの利用で、トラブルを経験したことはない。友人がトラブルに巻き込まれているという話も聞いたことはない。トラブルに巻き込まれないよう、SNS等は気を付けて利用している。高校生の時に、夏休み前等に学校で注意喚起がされていたからだと思う。（インターネットやSNSによるトラブルの経験はない 計3件）
- インターネットやSNSの利用について、自分を見るだけにしている。コメントは書き込まないし、写真をネット上にあげることはないので、トラブルを経験していない。また、知り合いだけが見られる限定公開の設定にしているので、知らない人からメッセージが来たり、悪口を言われ

るようなこともない。(SNS を限定公開にしている 計2件)

(3) 悩みごとの相談について

ア 悩みごとの相談相手

「悩みごとの相談相手」では、親や友達等の身近な人に相談をするという回答が多く挙げられた。身近な人に相談する要因として、「ふだん話している仲の良い人」、「同じ境遇にいる」など、悩みの相談のしやすさが重要であることが伺える。また、「大人目線の意見をくれる」、「自分とは異なる意見を持っている」ことを相談相手として重視する意見もあった。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【親や友達等の身近な人に相談する】(8件)

- 悩みはないが、もし悩みを相談するとしたら、両親に相談すると思う。両親以外で相談する人は、学校の仲の良い先輩。家族以外の他の大人に相談することは基本的にない。相談しやすいのは、ふだん話している仲の良い人で、いきなり知らない人に相談しようとは思わない。知らない人に相談する内容でもない、自分でも消化できる内容だと思う。(ふだん話している人に相談する 計3件)
- 母が一番の相談相手で、相談すると気持ちが落ち着く。学費のことは心配しなくてよいと言われて安心して。大人目線の意見をくれる。(大人目線の意見をくれる 計2件)
- 就職活動をしたがうまくいかなかった。就職のことについては、部活動の友人や、就職活動をサポートしてくれる会社等に相談した。部活のことで悩んだ時は、部活の友人に相談した。自分とは異なる考えを持っている人等に意見をもらった。
- 悩んでいるときは、家族(母)や友人等、情報をくれそうな人に手当たり次第に相談する。中学生の時に通っていた塾の先生に相談することもある。
- はっきりした悩みはなくなんとなく不安だが、誰かに真剣に話したことはない。同年代の友達と直接会ったとき、もしくはLINEで「不安だね」などと話すことはある。家族には相談していない。

【外部の相談窓口等に相談した】(2件)

- 就職のことについて、就職活動をサポートしてくれる会社に相談した。全生徒を対象とした相談窓口よりも、就職活動をサポートする企業の方が的確なアドバイスをくれると思い、大学の進路相談窓口には行かなかった。自分は、相談相手として、すべての人を対象とした相談先ではなく、特定の人にターゲットを絞った相談先を選ぶ傾向にある。

- 家族関係の悩みは、一緒に住んでいる人や、公的な相談ができる人に相談している。

【悩みを相談していない】（1件）

- Twitter の裏アカウント関連でトラブルがあった時には、「裏アカウントを作らず、相談したいことがあるなら先生に相談して」と言われたが、先生に言えないこともあるので作ってしまう。また、高校に来る求人票の見方がわからないが、質問できる先生がおらず誰にも相談していない。

イ 利用してみたいと思う相談の場

ヒアリング対象者に、10代・20代向けの相談の場の例示として次の7例を挙げて、利用してみたいと思うものと、どのような点がよいと思ったかを伺った。

« 相談の場の例示 »

- ① 「悩み LINE 相談」24 時間 365 日、無料、匿名で、LINE で相談を受け付けている
- ② 「無料通話アプリでの相談」無料、匿名で、無料通話アプリによる相談を受け付けている
- ③ 電話・メールで相談できる
- ④ 世代で同じ悩みを持っている人と、Zoom 等オンライン等の場につながり、悩みについて話せる
- ⑤ 学校などの身近な場所に相談カウンセラーが出張し、対面で相談できる
- ⑥ 「インターネットトラブル」、「金銭トラブル」、「心の不調」など特定分野の専門家が相談にのってくれる
- ⑦ その他利用してみたいと思うもの

利用してみたい相談の場として、「LINE 等の SNS による相談」の言及が最も多く、次いで「悩みごとについての専門的な助言」が多く挙げられた。

「LINE 等の SNS による相談」では、時間帯を選ばずいつでも相談できること、顔を見せず匿名で利用できること、無料であること、ふだん使っていること、気軽に相談しやすいこと、文章の方が伝えやすいなど、時間・費用・心理面等の観点から、手軽で利用のハードルが低いことが利用したい点として挙げられた。「悩みごとについての専門的な助言」では、専門家から具体的なアドバイスが欲しい、親や友人に聞いても解決しないことを専門家に聞きたい、専門家だったら抱えている悩みをわかってくれそうなどの点が利用したい理由として挙げられた。専門家による相談について、相談窓口の名称で対応する悩みが分かるとよい、SNS で専門家に相談に乗ってもらえるとよいという意見があった。

一方で、少数意見ではあるが「対面での相談」の方がよいという意見があった。対面の方が安心する、対面の方が話しやすいという人もいるため、対面の相談と非対面の相談の選択肢があるとよいという指摘があった。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【LINE 等、SNS での相談】（11 件）

- 電話では言いにくいことがある。文章ならば伝えやすい。相手が知らない人の場合、会って話すよりは、文面上でのやり取りの方が気楽である。長文でやり取りするよりも、短いスパンでやり取りできる方がいい。時間帯は夜が良い。一日のうちで最もネガティブなことを考える時間だからである。（相談のハードルが低いことや利用しやすさに関する意見 計 8 件）
- 悩み LINE 相談を 1 回使ったことがある。どんな悩みでも受け付けるものだった。自分でインターネット検索をして知った。心が病んでいた時、親にも誰にも悩みを言いたくなかったが、これならば相談できると思って使った。1 対 1 で話しやすいと思った。実際に利用してみた結果、その時は、相談したが対処法が自分に合っていないと感じ、自分の悩みは解決しなかった。利用に時間制限があった。無料だが、1 時間しか相談できず、連絡をしてみても混みあっている様子で、「今相談中なので、相談できる時があれば連絡します」と返され、連絡が来るまでに 1~2 日かかった。悩みによっては時間が解決してしまうということもあるので、いざ聞いてほしい時にすぐに相談できず、連絡が来た時には解決済みだったりすることもある。
- 電話だと、親に聞かれたときに困るが、LINE だと、ロックをかけることができる。LINE で専門家の人が相談に乗ってくれたら良いのではないかと。同じ悩みを持った人たちで、すでに解決している人の声があればいいと思う。また、お互いに悩みを話し合える環境があると良い。特に、実際に同じ体験をしたことがある人を、相談相手として重視している。先輩等のよく知った人であれば相談しやすいが、一方で知らない人だからこそ相談できるということもある。
- 「SNS で相談できる」について、対面の相談ではない、SNS でのやりとりによって、相談相手との間に壁を作ることができる。相談したい人と相談相手との間に一線を引くことによって、相談しやすくなると思う。

【悩みごとについて専門的な助言をくれる】（8 件）

- 専門家だったら、自分が抱えているものを分かってくれそうで、聞いてもらいたいと思う。相談は対面が良いと思う。時間制限があっても、焦ってしまうことなく、またその場で伝えたいことを伝えきれないままではなく、自分が納得するような対処法を知りたいと思う。専門家というと、精神科医のイメージがある。（専門家に相談したい 計 3 件）
- 「特定分野の専門家が相談にのってくれる」がよいと思った。「〇〇トラブルだったらここに」とわかると相談しやすい。相談窓口の名前で、どういう悩みに対応しているか分かるとよい。漠然とした悩みを LINE で相談することはない。相談の範囲が広いと、漠然と抱えている悩みを受け

止めてもらえるのかわからない。もし、相談窓口の名前で対応できる悩みがしっかりわかるなら、LINE で相談できた方がいい。(LINE で専門家に相談したい 計 2 件)

- 学校にはスクールカウンセラーのような人はいると知っていて、1 回使ったことがあるが、相談したいことがまとまっていないまま話に行ったところ、1 時間の制限の中で、世間話をするだけで終わってしまった。自分がスクールカウンセラーに相談した時は、授業中の時間を利用して話しに行った。放課後なら時間制限はないので、話せるのではないかと思う。スクールカウンセラーも継続して相談したければ、時間制限がある今の形で良いと思うが、今すぐ解決したいような悩みだと、あまり使えるとは思えない。(スクールカウンセラーに関する意見 計 3 件)

【対面での相談】(3 件)

- LINE 相談や、通話アプリによる相談は、相談先の相手がわからないので怖い。対面の方が話しやすいと思われる。
- 自分が相談するのであれば、対面で話せる方が楽である。SNS 等での相談は、文字を打ち込むのが面倒である。対面での相談が向いている人、そうでない人がいるので、対面・非対面ともに対応ができると良い。
- LINE 上で友人との相談はあまりしていない。LINE で会う約束をして、顔を突き合わせて相談する。LINE を使う時間帯は、暇をしているときに確認するだけ。長時間は使わない。

【無料通話アプリでの相談】(2 件)

- LINE で文字を書くより、直接話せるので伝わりやすい。無料で匿名というところで、無料は学生でも使いやすかった。名前を明かさなくてよいのは気が楽。
- 文章ではなく、通話であれば、自分の気持ちをすぐに伝えることができる。

【相談を受ける人がどんな人が事前に分かる】(2 件)

- 対面で会って相談するのであれば、相談相手がどのような人かわかっている方が安心する。
- 「相談を受ける人がどんな人が事前に分かる」について、話を聞いてほしいだけの人もいれば、具体的なアドバイスを求めている人もいる。相手がどのような相談を受けてくれる人なのかが事前に分かっていると、相談しやすいのではないか。

【電話・メールで相談ができる】(否定的な意見を含め 3 件)

- 電話相談はハードルが高いが、真剣に話をしたい人にとっては良いと思う。個人としては、相談したことはない。周囲でも使っているというのを聞いたことはない。電話相談も、時間をあまり気にしないでいいと思う。ハードルが高いと思ったのは、自分の中で考えをまとめておかないといけないと思うから。また、電話口で思ってもない質問がきたりすることもあると思う。
- 小学校の時にいじめにあっており、こころの相談カードにある電話番号にかけたことがある。そ

の当時は、親には相談しにくかったので、家の電話から、親がいないときにかけて。ただ、自分のことをきちんと伝えられなかった。

- 電話することをためらってしまう。電話は無料と書いてあっても本当に無料になるのか、後で請求が来るのではと思う。また、電話でうまく話せるのか不安に思う。

【同世代で同じ悩みを持っている人と、Zoom 等オンライン等の場につながり】（否定的な意見を含め6件）

- オンラインで顔が見えてしまうことが苦手なので、オンラインでのやりとりは、自分からは参加しようとは思わない。見ず知らずの人よりも知っている人の方が相談しやすい。（オンラインの場に関する苦手意識 計4件）
- 最近、同じ趣味を持つ人と Zoom でつながる機会があった。同じことに関心のある人同士は、絆が生まれやすい。相談の後の次の一歩として、悩みから立ち直るためにも、そのような絆は必要だと思う。
- 同じ悩みを持っている人とのつながりを作れることは良いことだと思う。

【その他】

- 手軽に相談できる悩みであれば、身近な人に相談すれば済むと思われる。また、特に見ず知らずの人に対する相談を想定する場合、無料であることが逆に不安感・警戒感を抱かせる。ただ、家庭状況等の人に話しにくいことについては、相談したい人もいるかと思われる。
- 子どもが見知らぬ大人と話すのは、委縮してしまうと思う。子ども同士なら緊張感が和らぐ。青少年を雇うなどして、のびのびと話してもらうのは良いのではないかと。直接顔を合わせるが、顔が見えないようなものにできると良い。教会の懺悔室のような形式が望ましいのではないかと。相談する内容について、受験関係の悩みが中心になるのではないかと。受験のストレスで万引きしたというニュースを聞くこともあるが、ストレスを解消できるようにすれば犯罪も減るのではないかと。

(4) 10代・20代に対する情報提供について

ア ふだん使っている情報入手の方法

ヒアリング対象者や同世代の友達等が、ふだんどのように情報を入手しているのかについて質問した。ほとんどの方が SNS を利用して情報収集をしており、中でも Twitter 検索を利用しているという回答が多く挙げられた。ウェブ検索と SNS を併用して情報収集をするという回答も多くあった。

情報入手に Twitter を利用する理由として、リアルタイムでの情報を知りたい、他者の意見を知りたい、情報の発信者がわかるため真偽を確かめやすい、文字数が少なく読みやすいという点が挙げられた。一方、Twitter はフォローしたアカウントからの情報しか入ってこないため、大学等の Twitter アカウントが地域の情報を Twitter で発信（リツイート）すると、学生が見るのではという指摘があった。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【Web と SNS の検索を併用】（8 件）

- Twitter や Instagram、たまに TikTok で調べものをする。イベントの情報等は、Web 検索が多いが、Web での情報は文字数が多く、読むのが大変である。対して、Twitter は 140 字という制限もあって、読みやすい。Twitter は、情報が伝わるのが早い。今話題になっているトレンドを確認することもできる。また、情報の発信者がわかるため、情報の真偽を確かめやすい。Instagram の投稿は、情報を綺麗に見せることが上手であると感じる。前向きなメッセージになる。TikTok は、大学生や実業家の人達が増えてきており、情報の質が上がっていると感じる。Facebook は利用していない。（Twitter と Web 検索を併用 計 8 件）

【Twitter、Instagram 等の SNS】（6 件）

- SNS による情報発信が最も効果的に届くと思う。Twitter で調べものをするなど、Twitter をよく利用する。同じ悩みを持っている人の声が投稿されていることがあり、参考になる。Instagram は友達とのコミュニケーションにのみ用いている。友人の中には、SNS で情報を多く発信している人がおり、質問を受け付けたり、回答したりしている。Facebook は利用していない。（Twitter と Instagram の併用 計 3 件）
- 自分で利用するもののほうが刺さりやすいと思った。他の人も結構見ている。友達と話題になることも多い。地域の情報というのはあまり得ていない。大学の情報ということで言えば、Twitter で情報を得ている人が多い。大学の公式 Twitter アカウントや、大学に通っている人の投稿が、リツイートで回ってくるのを見ている。利用している情報源は Twitter が一番多い。あとは、大学のホームページでの公式発表や、学校からのメールもある。
- 若い人は SNS をよく利用する。また、YouTube の広告についても、友人の間で話題に上がることもある。印刷物は、若い世代は読まない。活字を見ない傾向にある。大学の履修登録関係の情報であれば、友人からの口コミが多い。興味のあるイベントに関する情報は、Twitter で入手する。一方で、Twitter ではフォローしたアカウントからの情報しか入ってこないため、今まで関心を持たなかったものに関する情報は入ってこない。
- 大学関係の SNS アカウントが、地域関連アカウントをフォローしているので、そこで地域の情報を見ている。大学の Twitter アカウントがリツイートしたら、その情報を見erと思う。

【その他】

- 地域のイベント等の情報は、口コミで伝わってくる。

イ 横浜市の広報物に対する認知

ヒアリング対象者に、横浜市の青少年向け広報物を実際に見てもらい、見たことがあるかを尋ねた。

学校配布のカード型チラシ	A4サイズのチラシ	A4サイズのパンフレット
		

カード型チラシ（学校から生徒に配布）は「見覚えがある」とした回答が多かった。区役所や一部の高等学校等に配架しているパンフレットやチラシについては「見たことがない」という回答が多くみられた。少数ではあるが、ひきこもり傾向があった方から、ひきこもりについてのパンフレットが参考になったという意見があった。また、横浜市の相談窓口等の施策に関するホームページを見たことがあると回答した方はいなかった。

また、横浜市の広報物や情報提供方法に対する具体的な意見として、紙媒体での情報提供は文字が多く読みにくい、チラシを一読して何ができるのかメリットをわかりやすく示した方がよい、配架されているチラシを手には取らない、紙を配ってもほとんどが捨てられてしまう、などの意見があった。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【横浜市のカード型チラシ・チラシ・パンフレット等に見覚えがある】（10件）

- カード型チラシは、見たことがある。夏休み前等のタイミングで配られたことを覚えている。配られたチラシ等は、一瞥する程度である。SNS等で深刻な悩みを抱えている人は、スマートフォンを見たくないと思うので、現行の紙媒体の情報の方が目を通すのかなと思う。（学校配布のカード型チラシに見覚えがある 計8件）
- 小さいカード（カード型チラシ）は学校で、小中高全部でもらった。電話番号が書いてあり、困ったらここに電話してという内容。今は持っていないが、記憶にはある。小さいカード（カード型チラシ）は、周囲では捨てている人が多い。教室で、配られた直後に捨ててあるのを見かけたりする。チラシやパンフレット等も配られたら家に持って帰り、読むのが好きなので何でも目を通して。ひきこもりのパンフレットは、自身がひきこもりのようになったこともあるので、読んで「なるほどな」と思っている。ただ、電話は苦手なので実際に電話をしたことはない。
- チラシは、一定の効果はあると思う。

【横浜市のカード型チラシ・チラシ・パンフレット等に見覚えがない】（8件）

- パンフレットや青少年の地域活動拠点チラシは見たことがない。横浜市のホームページも見たことはない。（チラシ・パンフレットに見覚えがない 計7件）
- 横浜市の情報提供について、毎年学校から配られるチャイルドラインのカードは覚えているが、横浜市が配布している情報に覚えはない。学校からの配布物は、一読し、保護者に渡すが、その後は分からない。基本的に、小さな悩みごとしか持っていないため、横浜市の相談機関を利用しようとは思わない。交際相手にも相談できないような悩みが生じたら、相談したいと思う。

【現行の広報物、情報提供方法に対する具体的な意見】（5件）

- 横浜市が現在行っている紙媒体での情報提供は、文字が多く、読みにくい。最近、活字を読まない人が多いと聞くので、図や簡潔な表現での記述が良いのではないかと。例えば、青少年の地域活動拠点でバンド等の活動ができるのであれば、そのような活動ができるということをチラシの中で強調すれば、興味を持つ人が増えるのではないかと。サイズとしては、カード型チラシくらいのものが記憶に残りやすいのではないかと。
- ひきこもりに関するパンフレットと青少年の地域活動拠点のチラシは、ターゲットがかなり異なるように思われる。大学生は、紙として配布されても家に持って帰らない。ひきこもりに関するパンフレットは、学校に行っている人に配っても意味がない。友人経由で情報が入ることも、望みが薄いのではないかと。「青少年の地域活動拠点」のチラシも、自分にメリットがないと行こうと思わない。チラシを一読しても、行って何ができるのかわからないし、行ったところで何になるのかもわからない。また、大学生は人目を気にするので、「大学生が行ったら場違いではないか」と不安にさせるようなチラシは避けるべき。

- チラシを見ることはない。SNS やホームページで情報提供する方がいいと思った。SNS が一番見ると思う。
- ただ紙を配っても、ほとんどが捨てられてしまうように思う。また、学校で講習等をやっても、きちんと見ていないように思う。実際に、薬物に関する講習中に寝ている生徒もいる。
- 大学では中高のようなクラスがないので、チラシが配布されることは基本的にない。大学の掲示板に掲示されていたら「こういうものがあるのか」と思うことはある。チラシが配架されていても、チラシをもらった後にどうしようかなと思うので、置いてあるチラシは取らない。

ウ 10代・20代向けの青少年に対する情報提供方法

10代・20代向けの青少年に対する情報提供方法について意見を聞いたところ、「学校からのチラシ配布」や、「YouTube の広告、人気 YouTuber 等からの発信」を支持する意見が多くみられた。

「学校からのチラシ配布」については、学校から配られたら目を通す、学校から配られる情報は有益で安心できるという声があった。カード型チラシについては、配られたその場でざっと目を通すという回答もあったが、先生からしまっておくようにとの声掛けがあったことで見返すことがあったという例があった。また、学校に来ない人向けにはインターネット検索で表示される広告がよいのではという提案があった。

そのほかに、学校と協力して情報提供をする提案の例として、同じ学生や先生が書いたものであれば目を通すので、生徒会が生徒向けに出している広報と連携するのは良いのではないかという意見があった。悩みを相談しやすくする提案として、「些細なことでも相談できる」ということをアピールし、小さな悩みから相談にのっていけば、生徒が大きな悩みを抱えたときに支援につながりやすいという意見があった。

「YouTube の広告、人気 YouTuber 等からの発信」については、ふだん目にしているものの中にあると情報が届きやすいという回答があった。また、横浜市が動画を作るのではなく、広告や、人気 YouTuber に宣伝をしてもらおう方がよいという意見があった。

ヒアリングで把握した代表的な意見

【学校からのチラシ配布・メール送付】（9件）

- 大学や地域の掲示板は、ふだんは一瞥する程度だが、興味のあるものはじっくりと読む。学校で配られたチラシは、一通り目を通す。自分は学校でカード型チラシを配られた際、交通系 IC カー

ドのホルダーに入れていたので、時折見返す機会があった。高校の先生にしまっておくようにと言われたからだと思う。(学校で配布されれば目を通す 計4件)

- 高校で配布された覚えはあったが自分自身はその時相談したい悩みはなく、相談することはなかった。学校で配られる情報は有益だと思う。安心できるし、利用もしやすいのではないか。また、横浜市の相談窓口の情報を、自分で集めるのは難しい。もし、大学から配られるならそれは良いと思う。
- 学校に来ない人は、学校でチラシを配られてももらえない。インターネットがよいのではないか。インターネット検索をすると「いじめかもと思ったら」等の相談窓口の情報が出てくることがある。
- 学校と協力して、支援・活動の内容をよく知ってもらう必要がある。高校生にとっては、学校内の情報が重要。外部からの情報は、興味のあるものしか読まないが、同じ学生や先生が書いたものであれば、目を通す。例えば、生徒会が学生向けに出している広報と連携するのは良いのではないか。
- 紙媒体による情報提供に問題はない。生徒の悩み等を尋ねるアンケートを実施し、悩んでいる生徒がいたら、先生がこっそりとチラシを渡してあげるなどすれば効果的だと思う。また、「些細なことでも相談できる」ということをアピールし、小さな悩みから相談にのっていけば、生徒が大きな悩みを抱えたときに支援につながりやすいと思う。
- 大学からの全学生向けの一斉メールは、1日に何通も届くのでほとんど読まない。一方で、今回のヒアリングは、大学からのメールがきっかけで参加したため、関心のある人が見れば、目に留まるのではないか。大学や地域の掲示板を、自分から積極的に見に行くことはない。

【YouTubeの広告、人気YouTuber等からの発信】(8件)

- YouTube、SNSの広告等、ふだん目にしているものの中にあると、情報が届きやすいと思う。
(YouTubeの広告は見る 計4件)
- YouTubeの広告で出るのであれば見るが、横浜市が動画を作ったところで見ないと思われる。動画を作るよりは、人気YouTuberにお願いして動画の最後等で宣伝してもらうことが考えられる。
(人気YouTuberからの発信 計2件)
- 人気YouTuberからの発信は、広告として行う場合と、YouTuberの動画の企画として行う場合とで、違いがあると思う。動画の企画の場合、動画内でまじめな話をすると視聴者が敬遠してしまい5分程度で視聴をやめてしまうので、1分程度に収めないといけないと思う。広告だと、15秒以上か以下かでスキップできるかどうかが変わるので、広告を出すのであればスキップできないように長時間にした方が良い。
- 紙媒体での情報は見てもらえないのではないか。動画での実演等の、面白みのある情報であれば、見る人は多いと思う。SNSは、文章のみなので話相手の感情を読み取るのが難しいが、悩みを抱えている人は、やさしい声を聴くことができれば安心するのではないか。

【その他】

- Instagram のストーリー機能が良いと感じる。友人の例で言うと、地元の魅力を伝えようという企画で情報を載せ、そこから関連 URL に直接アクセスできるようにしている。例えばアパレルショップのアカウントでも、ストーリーからオンラインショップに飛べるようになっている。若者に対しては、やはりネットで見られることが大事。紙媒体だとあまり読む気はしない。若者が若者に伝えることが大事で、周りにいれば話を聞いてみたいと思う。Instagram や Twitter、さらにその中でもアンケート機能や DM (ダイレクトメッセージ) 機能で伝えるのはどうだろうか。伝える人は、知っている人同士に限らず、同世代の人であれば良い。
- インターネット上の広告等が良いのではないか。また、ページを作る際、多くの人は、字が小さいものは読まないで、図等を用いたわかりやすい説明が必要。
- 信用できる人からの情報は重視するため、青少年から信頼されている人による情報発信が効果的ではないか。
- 情報を入手するときに重要視しているのは正確性、信ぴょう性。証拠を提示して情報を説明しているか、嘘はついていないか、ちゃんとまとまっておき結論がしっかりしているか、という3点を重視している。ネットだと、迷惑メールだと思って削除や無視してしまうおそれがある。紙媒体だと手元にしっかり残るので良いのではないか。
- 自分は、ラジオをよく聞く。若い人向けの番組がある。
- 電車やバス等の公共交通機関の広告は見てもらえないのではないか。多くの人がスマートフォンに意識を集中させている。
- それほど関心のない新しい情報は、人との出会いの中でしか入手することはできないと思っている。Bar 等でアルバイトをしている友人は、アルバイト先のお客さんから面白い話を聞けると言っていた。

第 3 章 アンケート調査

1 調査の概要

(1) 調査対象

調査への協力依頼に承諾いただいた横浜市内の一部の高校及び大学 10 校に通学する概ね 16 歳から 22 歳までの個人

(2) 調査期間

令和 2 年 10 月 16 日から 10 月 30 日に実施した。

(3) 調査方法

市内の調査協力校 10 校に、生徒・学生に対するアンケート調査票の配布またはメーリングリスト等での調査の周知を依頼した。協力依頼方法は、高校においては、印刷した調査票及び返信用封筒の配布を基本とし、大学においては、学内のメーリングリスト等を利用してインターネット回答を依頼することを基本とした。配布対象者は、調査協力校の任意とした。

調査票の回収は、インターネット回答または調査票回答とし、調査対象者がどちらか一方を選択した。インターネットでの回答は横浜市電子申請システムを利用した。調査票による回収は、調査協力校の任意の方法とし、調査協力校経由で回収をする方法と、生徒個人が記入済みの調査票を直接郵送する方法とした。

(4) 調査項目

「情報入手の手段」、「ゲームや SNS 等の使用状況・トラブル」、「不安に思うことや悩んでいること」、「悩みごと等の解決方法」、「悩みごと等についての相談先」、「横浜市の青少年の健全育成事業や若者自立支援機関の認知度及びそれらを知ったきっかけ」、「有効と思われる青少年への情報の周知方法」を調査項目とした。

(5) 配布・回収状況

アンケート調査の回収数は2,038件（インターネット779件、郵送1,259件）で、うち有効回収数は2,033件だった。また、調査協力校別のアンケート調査票の配布・回収状況は次表の通りとなっている。

図表 3-1 高等学校・大学別のアンケート調査票配布・回収数

学校名	配布・回収方法	配布数	回収数(除白紙)		
			インターネット	調査票回収	合計
A 高等学校	調査票(紙)を学校経由で配布・回収。インターネットによる回答方法を併用	1,054	3	800	803
B 高等学校		248	0	216	216
C 高等学校		305	20	225	245
D 高等学校	調査票(紙)を学校経由で配布、郵送にて回収。インターネットによる回答方法を併用	359	15	7	22
E 高等学校		395	288	2	290
F 高等学校		318	59	6	65
G 大学(注1)	調査票(紙)を100部大学に配架、郵送にて回収。また、電子メール、SNSにてインターネット回答のURLを案内	255	12	3	15
H 大学		10,817	177	0	177
I 大学	大学が電子メールにてインターネット回答のURLを案内	4,254	204	0	204
J 大学		300	1	0	1
合 計			779	1,259	2,038

(6) 集計結果の表示方法・留意事項

- 本報告書では、アンケート調査票の設問順に集計結果を掲載している。
- 文章中の「n=〇〇」はその設問についての有効回答数を示している。
- 集計結果は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

(注1) G 大学については、以下の3通りの方法で、調査票の配架ならびに調査案内を行った。①学内の施設において、紙の調査票を配架(100件)、②大学が運営する学生向けのSNSグループに対して、インターネットによる回答を案内(155件)、③一部の大学教授から所属ゼミ生にインターネットによる回答を案内(件数不明)

- 集計結果の「全体」は、10 の調査協力校のアンケート回収結果の「全体」を示しており、横浜市内の高等学校や大学全体の傾向を示すわけではないこと、アンケート対象範囲の決定、調査票の配布回収方法を調査協力校の任意としたため、調査協力校別の回収率に大きなばらつきがある点に、留意が必要である。

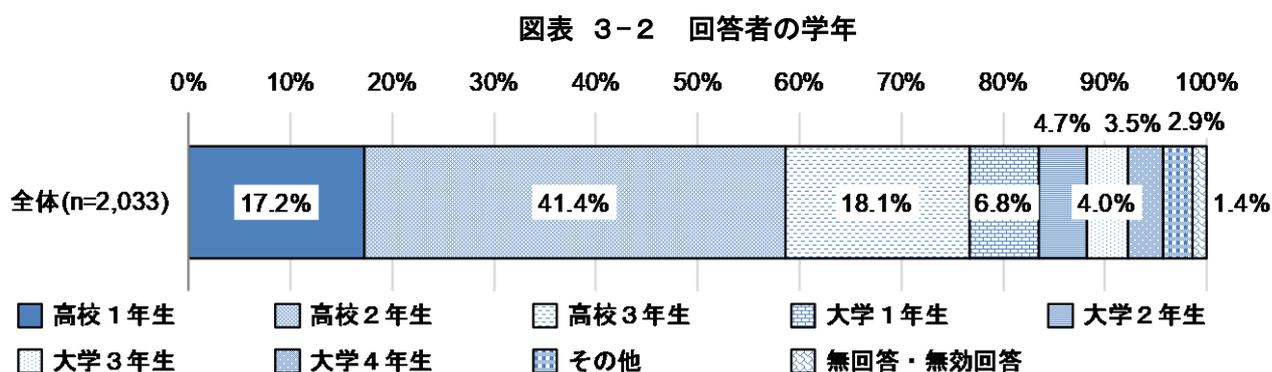
2 アンケート調査結果

(1) 回答者の属性

ア 回答者の学年

回答者の学年は、「高校生」が約8割、「大学生」が約2割となっている。「高校生」の中でも、「高校2年生」の割合が約4割となっている。

【設問1】 あなたの学年を教えてください。(単一回答)

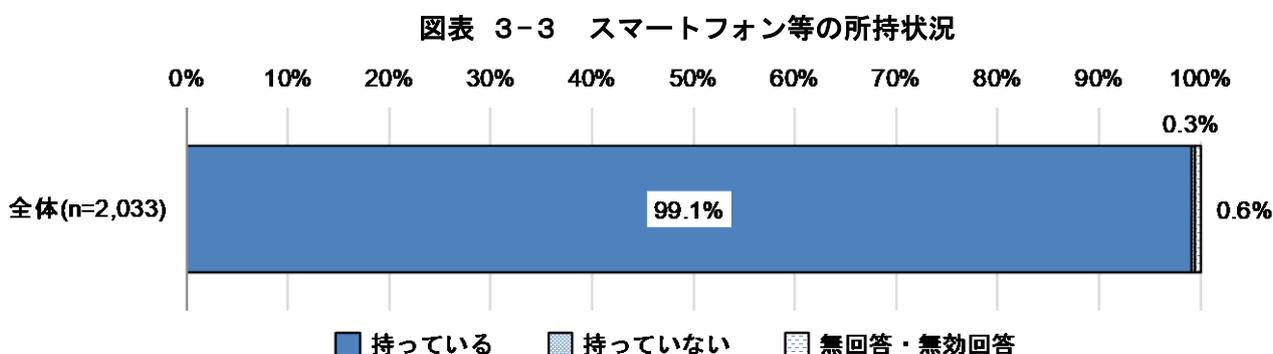


(2) インターネットや SNS、ゲーム等の利用状況について

ア スマートフォン等の所持状況

スマートフォン、タブレット、携帯電話の所持状況については、「持っている」の回答が、99.1%であった。

【設問2】 あなたは自分専用のスマートフォン、タブレット、携帯電話のいずれかを持っていますか。(単一回答)

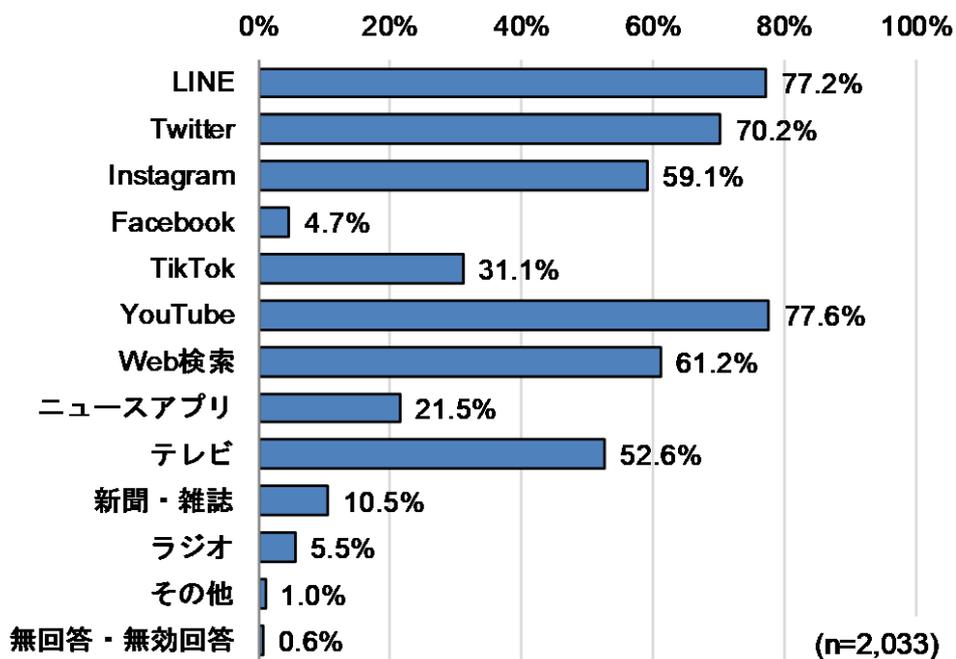


イ 情報の入手手段

よく利用する情報の入手手段については、「YouTube」、「LINE」の回答が多く、約8割となっている。次いで「Twitter」の回答が約7割、「Web検索」、「Instagram」の回答が約6割となっている。

【設問3】 あなたが情報入手するためによく利用する手段を次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-4 情報の入手手段

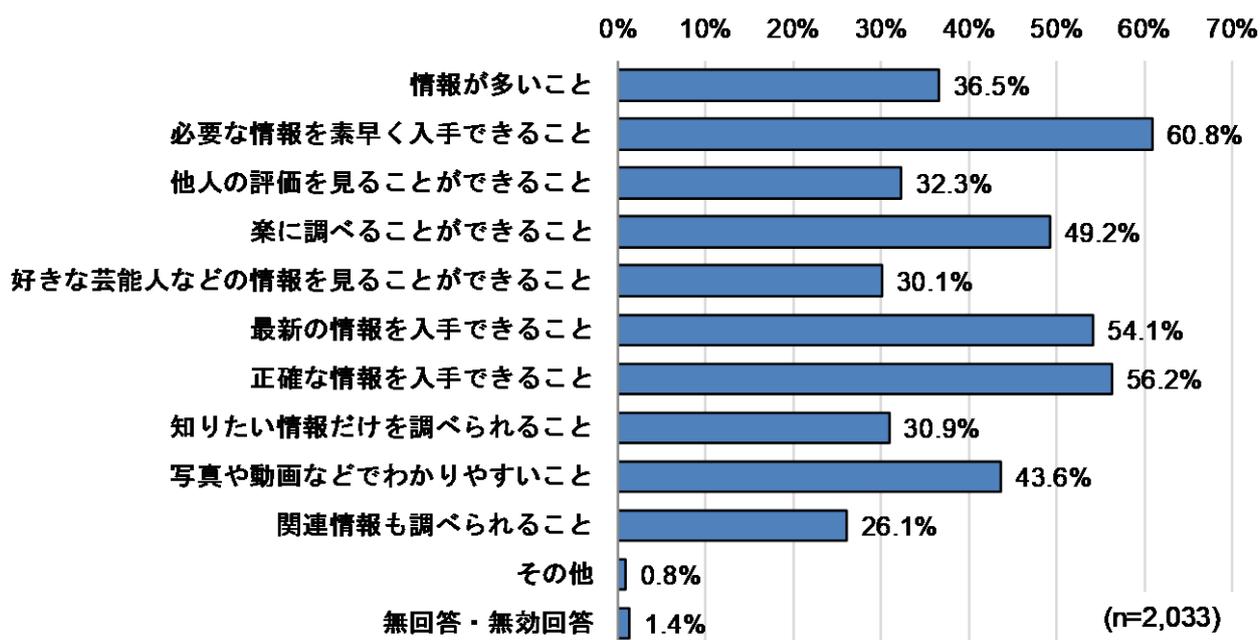


ウ 情報を入手する際に重視すること

情報を入手する際に重視することについて尋ねた設問では、「必要な情報を素早く入手できること」、「正確な情報を入手できること」の回答が約6割となっている。次いで、「最新の情報を入手できること」、「楽に調べることができること」が約5割となっている。

【設問4】 あなたが情報を入手する際に重視することを次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-5 情報を入手する際に重視すること

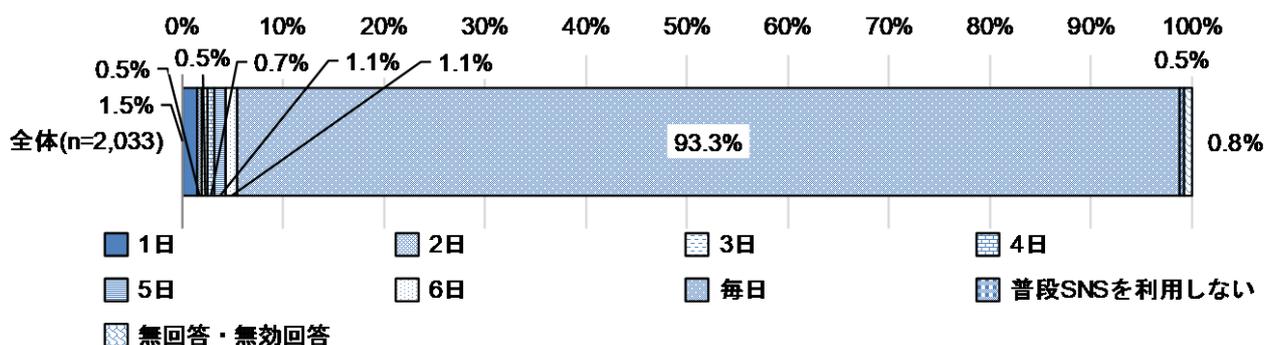


エ SNS の利用頻度

SNS（LINE、Twitter、Instagram、YouTube 等）を週に何日程度利用するか尋ねた設問について、「毎日」の回答が約 9 割となっている。

【設問5】 SNS(LINE、Twitter、Instagram、YouTube 等)を週に何日程度利用するのか教えてください。(単一回答)

図表 3-6 週当たりの SNS 利用頻度



図表 3-7 週当たりの SNS 利用頻度（集計表）

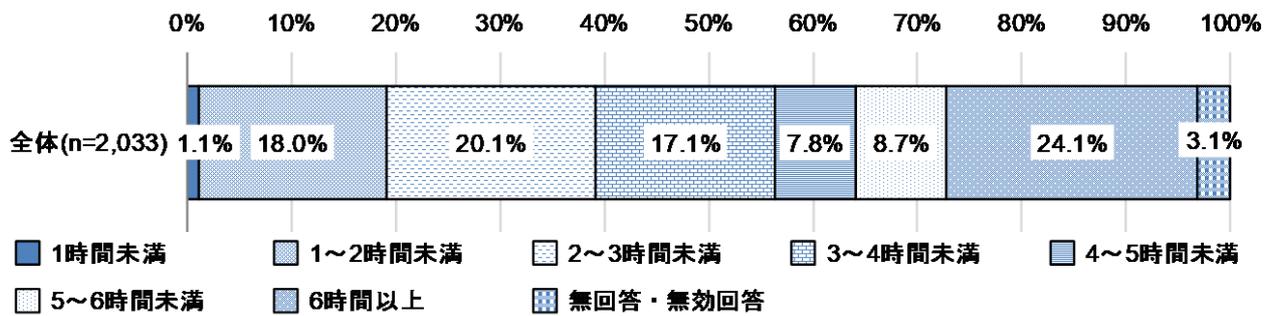
	件数	割合 n=2,033	割合 (除無回答・無効回答) n=2,017
1日	31	1.5	1.5
2日	10	0.5	0.5
3日	11	0.5	0.5
4日	14	0.7	0.7
5日	22	1.1	1.1
6日	23	1.1	1.1
毎日	1,896	93.3	94.0
普段 SNS を利用しない	10	0.5	0.5
無回答・無効回答	16	0.8	-
全体	2,033	100.0	100.0

オ 平日の SNS 利用時間

SNS を、平日の 1 日に平均何時間程度利用するか尋ねた設問について、「6 時間以上」の回答が最も多く、約 2 割となっている。また、「1 時間未満」の回答は、1.1%となっている。

【設問6】 SNS を1日に平均何時間程度利用しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段 SNS を利用しない人は、0時間と回答してください。(数値での回答)

図表 3-8 平日の SNS 平均利用時間



図表 3-9 平日の SNS 平均利用時間 (集計表)

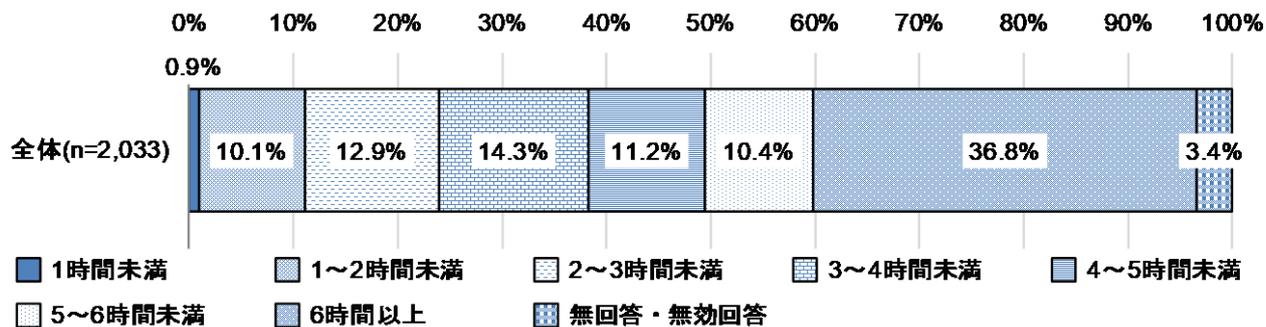
	件数	割合 n=2,033	割合 (除無回答・無効回答) n=1,969
1 時間未満	23	1.1	1.2
1~2 時間未満	365	18.0	18.5
2~3 時間未満	409	20.1	20.8
3~4 時間未満	348	17.1	17.7
4~5 時間未満	158	7.8	8.0
5~6 時間未満	177	8.7	9.0
6 時間以上	489	24.1	24.8
無回答・無効回答	64	3.1	-
全体	2,033	100.0	100.0

カ 休日の SNS 利用時間

SNS を、休日の 1 日に平均何時間程度利用するか尋ねた設問について、「6 時間以上」の回答が最も多く、約 4 割となっている。また、「1 時間未満」の回答は、0.9%となっている。

【設問6】 SNS を1日に平均何時間程度利用しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段 SNS を利用しない人は、0時間と回答してください。(数値での回答)

図表 3-10 休日の SNS 平均利用時間



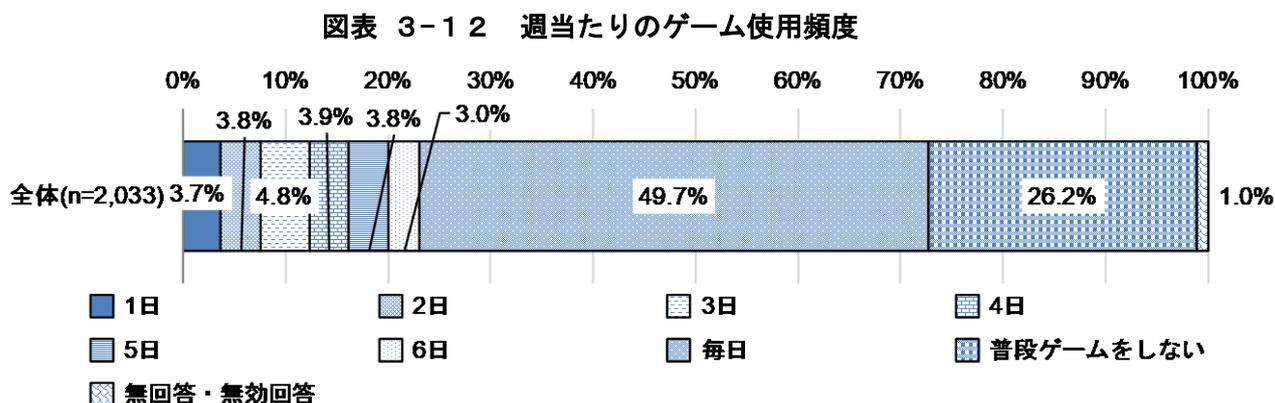
図表 3-11 休日の SNS 平均利用時間 (集計表)

	件数	割合 n=2,033	割合 (除無回答・無効回答) n=1,964
1 時間未満	19	0.9	1.0
1~2 時間未満	206	10.1	10.5
2~3 時間未満	263	12.9	13.4
3~4 時間未満	290	14.3	14.8
4~5 時間未満	227	11.2	11.6
5~6 時間未満	211	10.4	10.7
6 時間以上	748	36.8	38.1
無回答・無効回答	69	3.4	-
全体	2,033	100.0	100.0

キ ゲームの使用頻度

ゲームを、週に何日程度するか尋ねた設問について、「毎日」の回答が最も多く、約5割となっている。次いで、「普段ゲームをしない」の回答が、約3割となっている。

【設問7】 ゲーム(ゲーム機、パソコン、スマートフォン等を使用したゲーム)を週に何日程度行うのか教えてください。(単一回答)



図表 3-1 3 週当たりのゲーム使用頻度 (集計表)

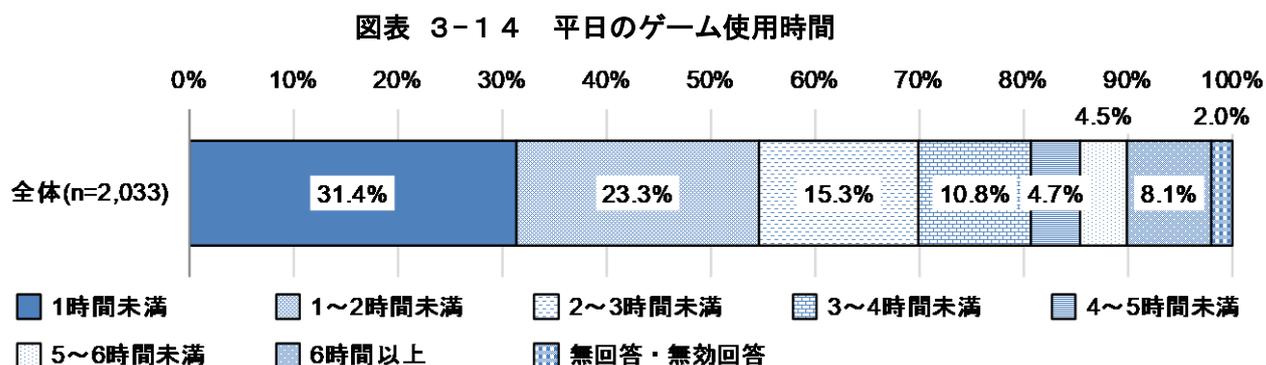
	件数	割合 n=2,033	割合 (除無回答・無効回答) n=2,012
1日	75	3.7	3.7
2日	78	3.8	3.9
3日	97	4.8	4.8
4日	79	3.9	3.9
5日	78	3.8	3.9
6日	62	3.0	3.1
毎日	1,010	49.7	50.2
普段ゲームをしない	533	26.2	26.5
無回答・無効回答	21	1.0	-
全体	2,033	100.0	100.0

ク 平日のゲーム使用時間

ゲームを、平日の1日に平均何時間程度するか尋ねた設問について、「1時間未満」の回答が最も多く約3割となっており、次いで「1～2時間未満」の回答が約2割となっている。

また、「6時間以上」の回答割合は、約1割となっている。

【設問8】 ゲームを1日に平均何時間程度しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段ゲームをしない人は、0時間と回答してください。(数値での回答)



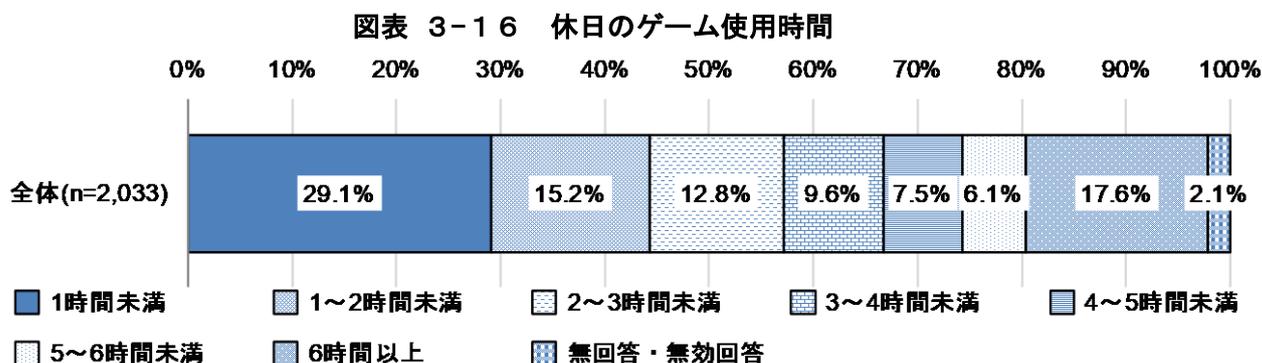
図表 3-15 平日のゲーム使用時間 (集計表)

	件数	割合 n=2,033	割合 (除無回答・無効回答) n=1,993
1時間未満	638	31.4	32.0
1～2時間未満	473	23.3	23.7
2～3時間未満	311	15.3	15.6
3～4時間未満	219	10.8	11.0
4～5時間未満	96	4.7	4.8
5～6時間未満	91	4.5	4.6
6時間以上	165	8.1	8.3
無回答・無効回答	40	2.0	-
全体	2,033	100.0	100.0

ケ 休日のゲーム使用時間

ゲームを、休日の1日に平均何時間程度するか尋ねた設問について、「1時間未満」の回答が約3割となっている。また、「6時間以上」の回答は、約2割となっている。

【設問8】 ゲームを1日に平均何時間程度しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段ゲームをしない人は、0時間と回答してください。(数値での回答)



図表 3-17 休日のゲーム使用時間 (集計表)

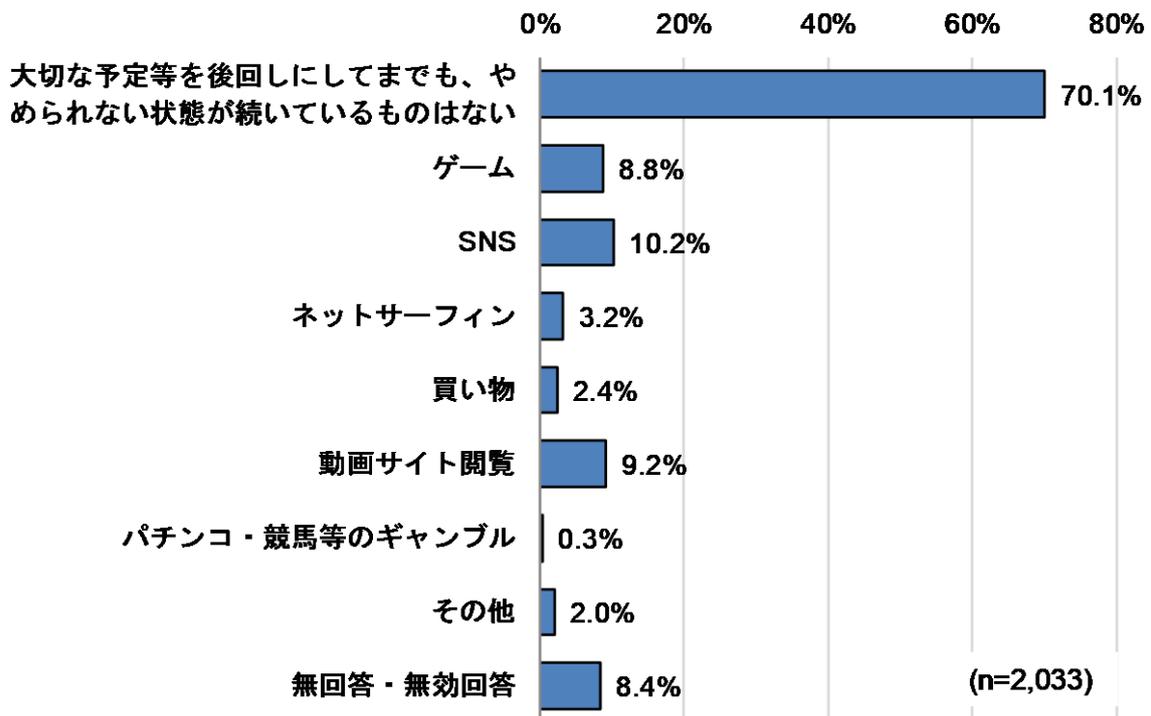
	件数	割合 n=2,033	割合 (除無回答・無効回答) n=1,990
1時間未満	592	29.1	29.7
1~2時間未満	308	15.2	15.5
2~3時間未満	261	12.8	13.1
3~4時間未満	196	9.6	9.8
4~5時間未満	153	7.5	7.7
5~6時間未満	123	6.1	6.2
6時間以上	357	17.6	17.9
無回答・無効回答	43	2.1	-
全体	2,033	100.0	100.0

コ 日常生活に影響を与えているものについて

「大切な予定や必ずやらなくてはならないことを後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはありますか」と尋ねた設問について、「大切な予定等を後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはない」の回答割合が、約7割となっている。また、「SNS」、「動画サイト閲覧」、「ゲーム」の回答割合は、約1割となっている。

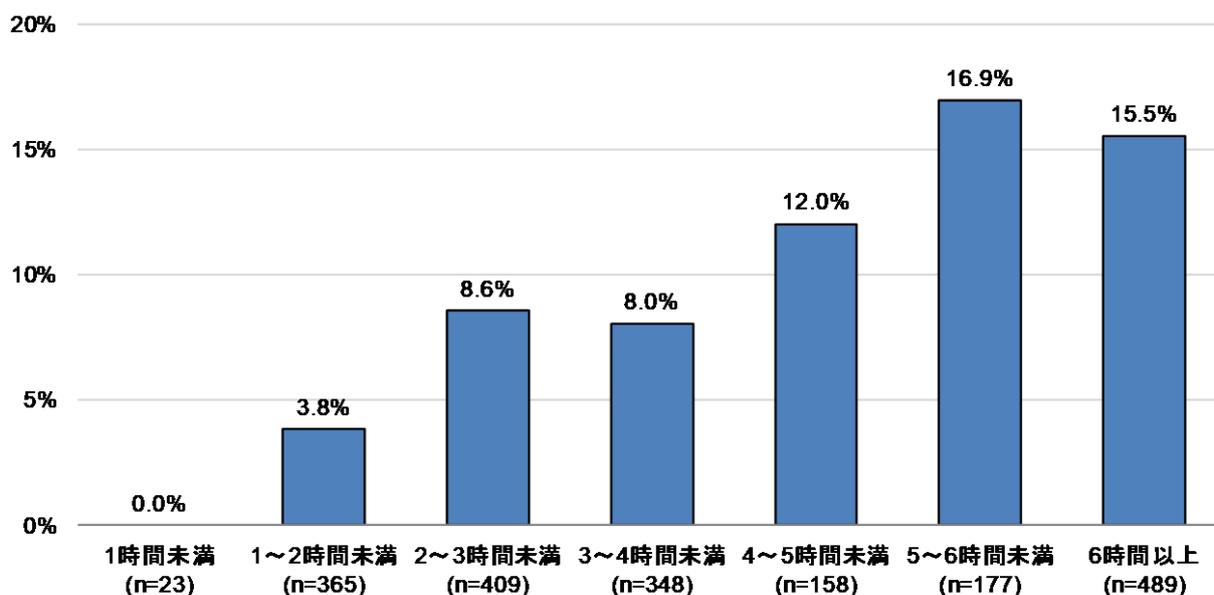
【設問9】 友人や家族との約束、学校の勉強や部活動など、大切な予定や必ずやらなくてはならないことを後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはありますか。次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-18 日常生活に影響を与えているものについて

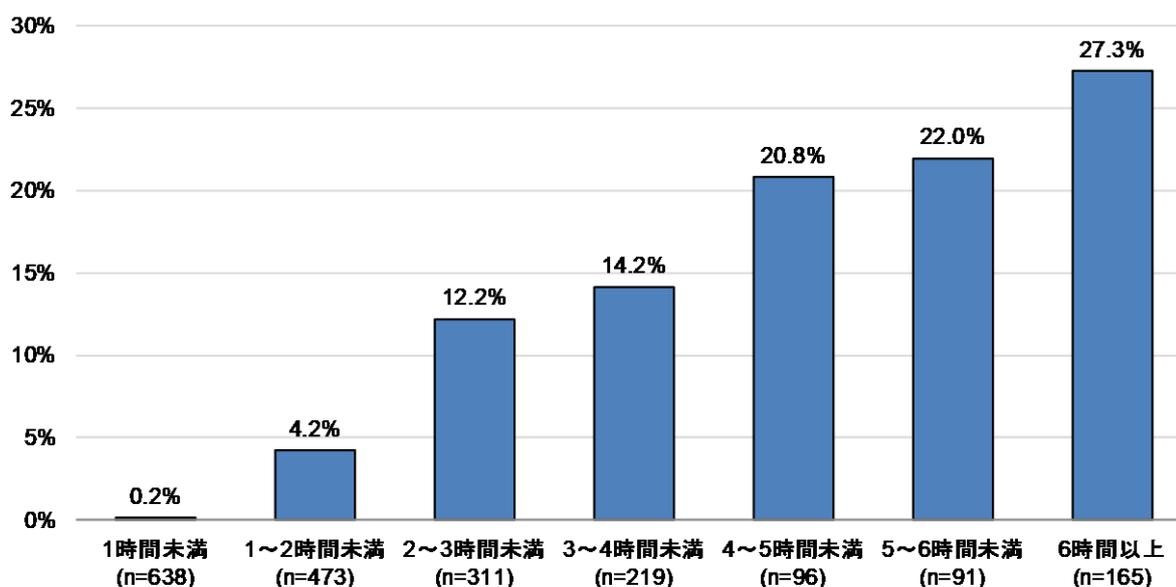


平日の SNS 利用時間別（設問 6）に、やめられない状態が続いているもの（設問 9）として「SNS」と回答した割合を集計したところ、SNS の利用時間が短い方と比べて、SNS の利用時間が長い方は、SNS の利用がやめられないと回答する割合が、相対的に高い傾向になっている^{（注 2）}。同様に、平日のゲーム使用時間別（設問 8）に、やめられない状態が続いているもの（設問 9）として「ゲーム」と回答した割合を集計したところ、ゲームの使用時間が長い方ほど、ゲームの使用がやめられないと回答する割合が高くなっている。

図表 3-19 SNS がやめられない人の割合（平日の SNS 利用時間別）



図表 3-20 ゲームがやめられない人の割合（平日のゲーム使用時間別）



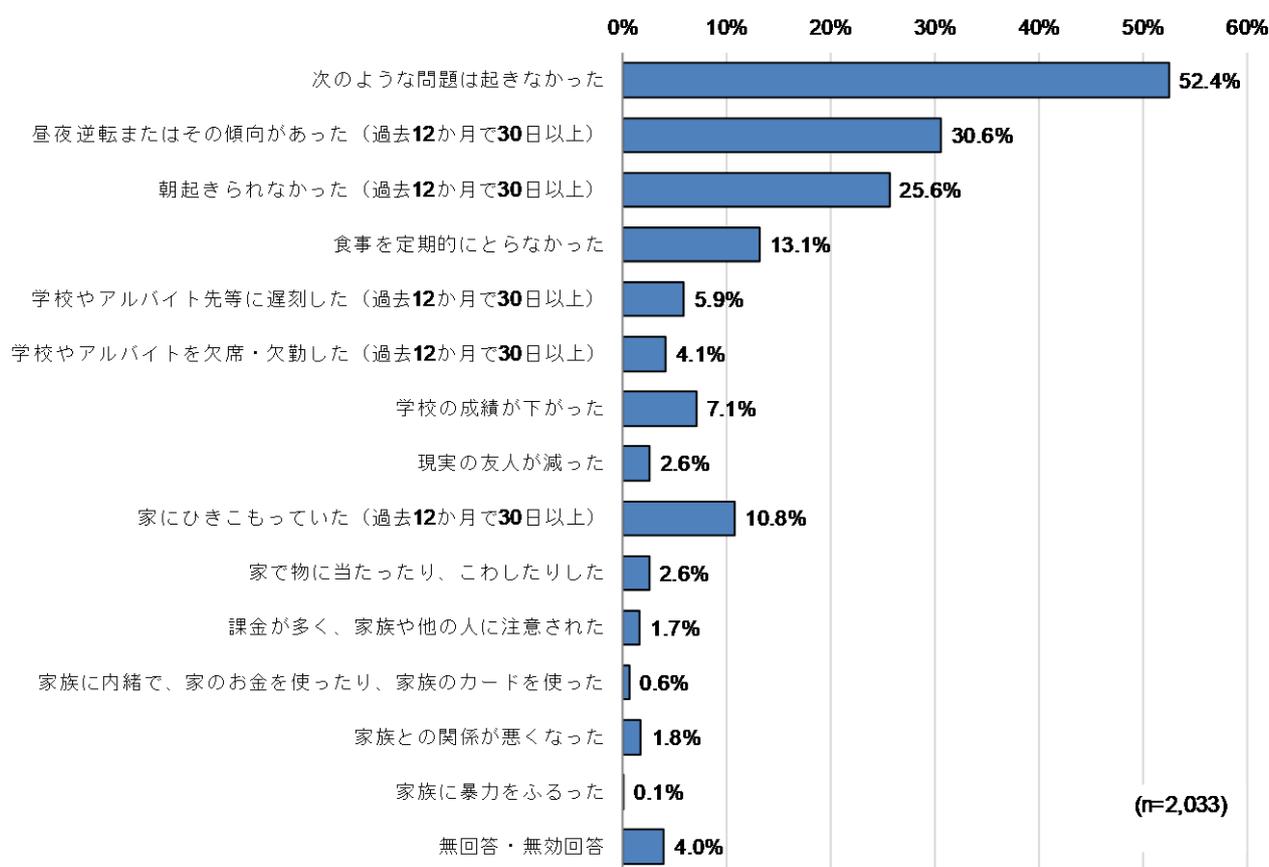
（注2） 平日の SNS 利用時間について、「1 時間未満」の回答は、サンプル数が 23 件と少ないが、参考として掲載した（以下の設問も同様）。

サ インターネット・ゲームの利用による問題

インターネットやゲームの利用によって、過去12か月以内に問題が起きたかを尋ねたところ、「問題は起きなかった」の回答が、約5割となっている。また、「昼夜逆転またはその傾向があった」、「朝起きられなかった」との回答が、約3割、「食事を定期的にとらなかった」、「家にひきこもっていた（過去12か月で30日以上）」と回答した割合が約1割となっている。

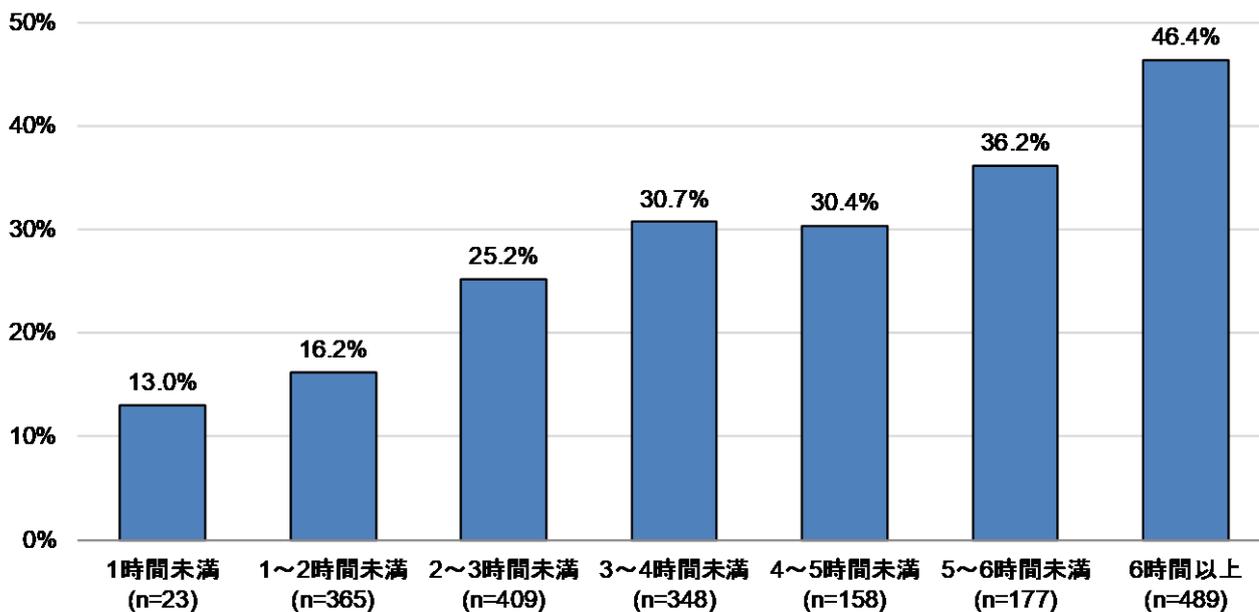
【設問10】 過去12か月以内に、インターネットやゲームの利用によって、次のような問題が起きましたか。（複数回答）

図表 3-21 インターネット・ゲームの利用による問題

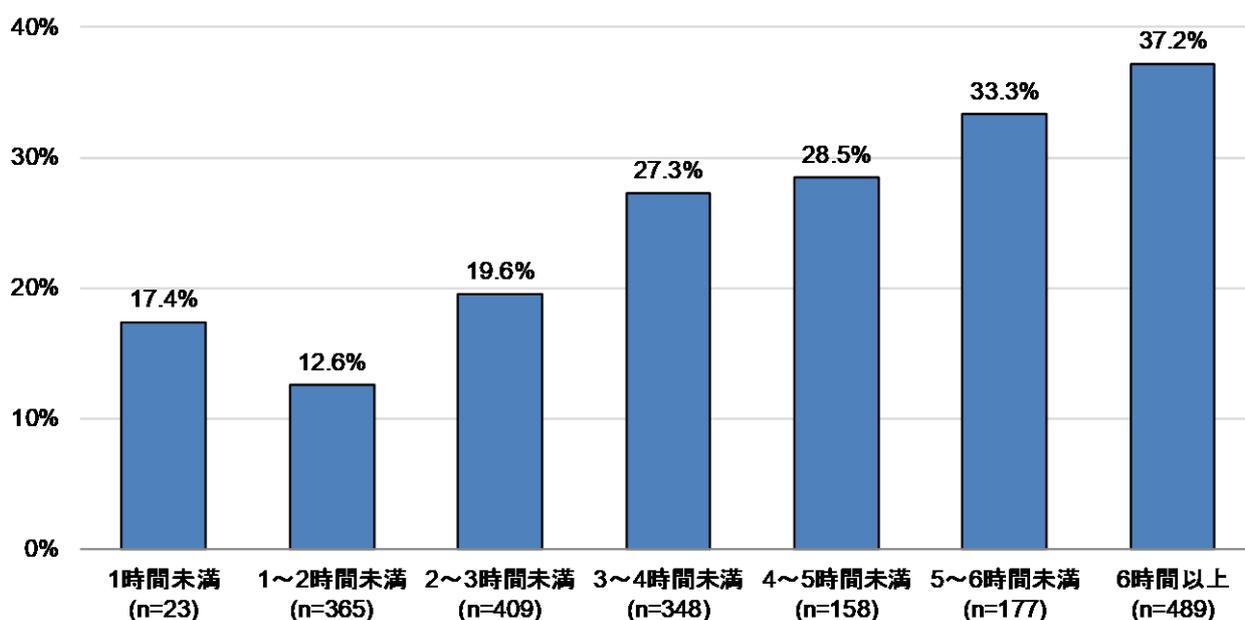


平日の SNS の利用時間別（設問 6）に、過去 12 か月以内にインターネット・ゲームの利用により発生した問題（設問 10）の回答状況を集計したところ、SNS の利用時間が短い方と比べて、SNS の利用時間が長い方は、「昼夜逆転またはその傾向があった（過去 12 か月で 30 日以上）」、「朝起きられなかった（過去 12 か月で 30 日以上）」の回答割合が相対的に高い傾向となっている。

図表 3-2 2 「昼夜逆転またはその傾向があった」の回答割合（平日の SNS 利用時間別）

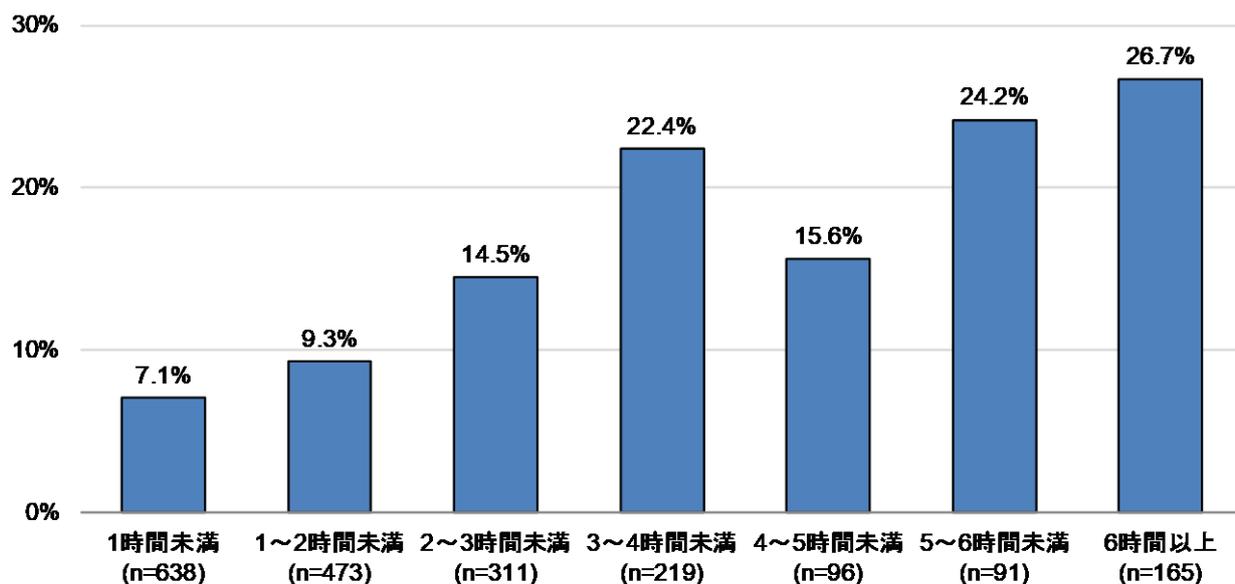


図表 3-2 3 「朝起きられなかった」の回答割合（平日の SNS 利用時間別）

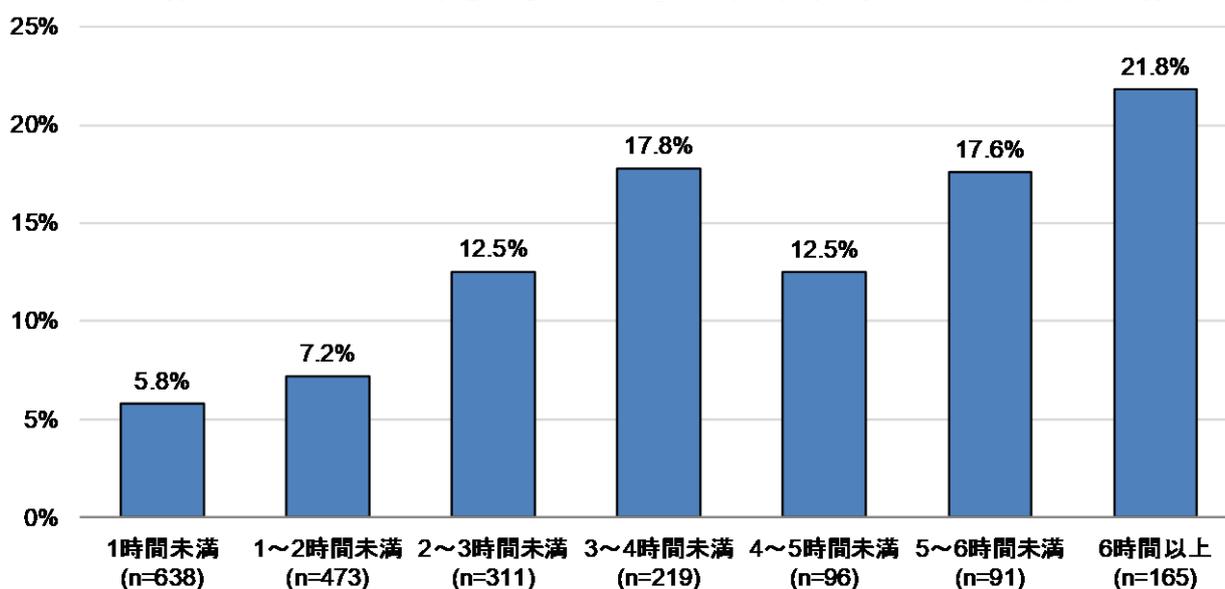


平日のゲームの使用時間別（設問 8）に、過去 12 か月以内にインターネット・ゲームの利用により発生した問題（設問 10）の回答状況を集計したところ、ゲームの使用時間が短い方と比べて、ゲームの使用時間が長い方は、「食事を定期的にとらなかった」、「家にひきこもっていた」、「学校やアルバイト先等に遅刻した」、「学校やアルバイトを欠席・欠勤した」、「家で物に当たったり、こわしたりした」の回答割合が相対的に高い傾向となっている。

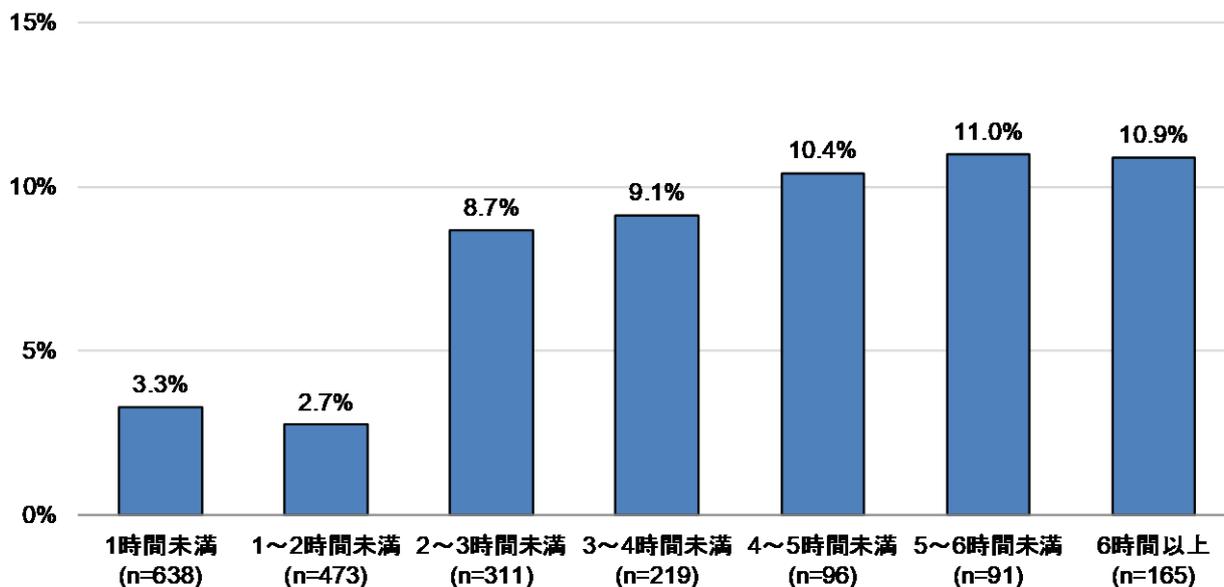
図表 3-24 「食事を定期的にとらなかった」の回答割合（平日のゲーム使用時間別）



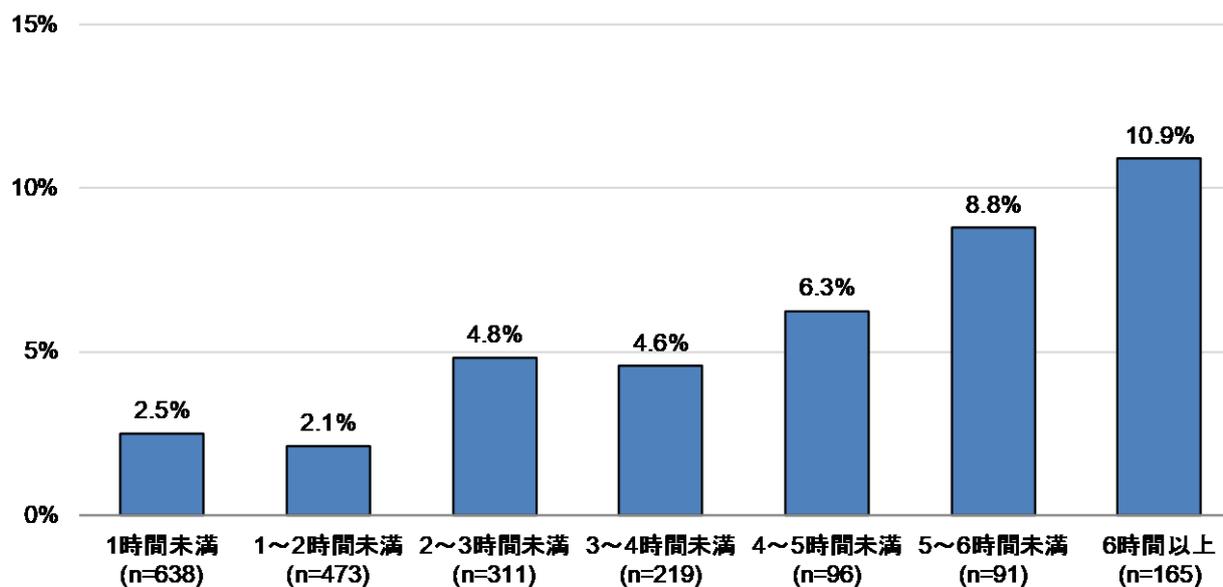
図表 3-25 「家にひきこもっていた」の回答割合（平日のゲーム使用時間別）



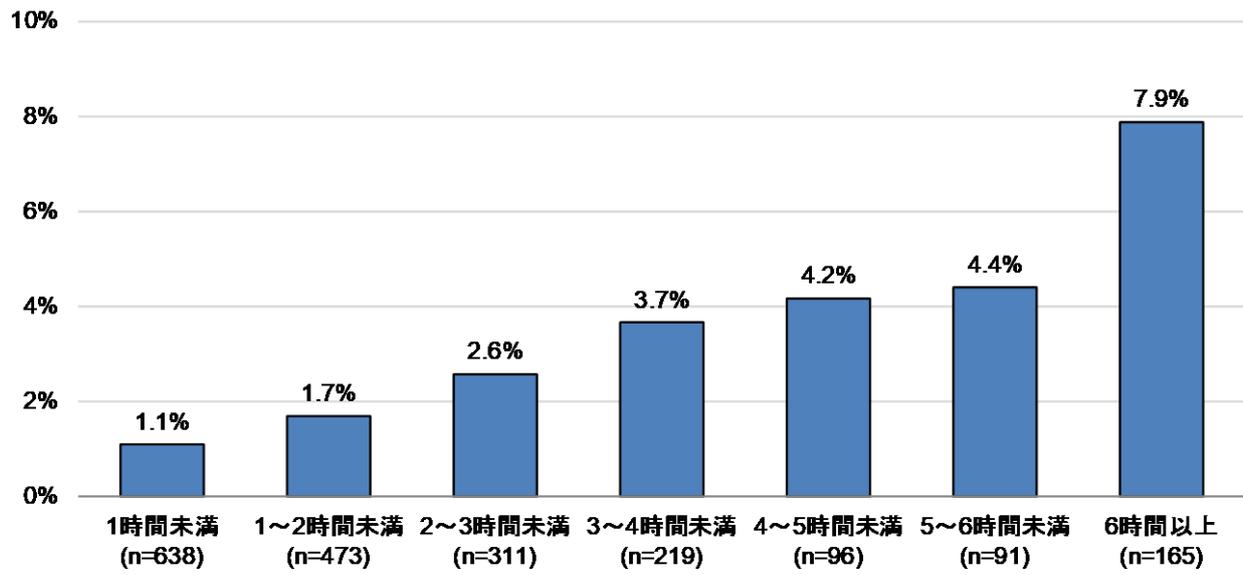
図表 3-26 「学校やアルバイト先等に遅刻した」の回答割合（平日のゲーム使用時間別）



図表 3-27 「学校やアルバイトを欠席・欠勤した」の回答割合（平日のゲーム使用時間別）



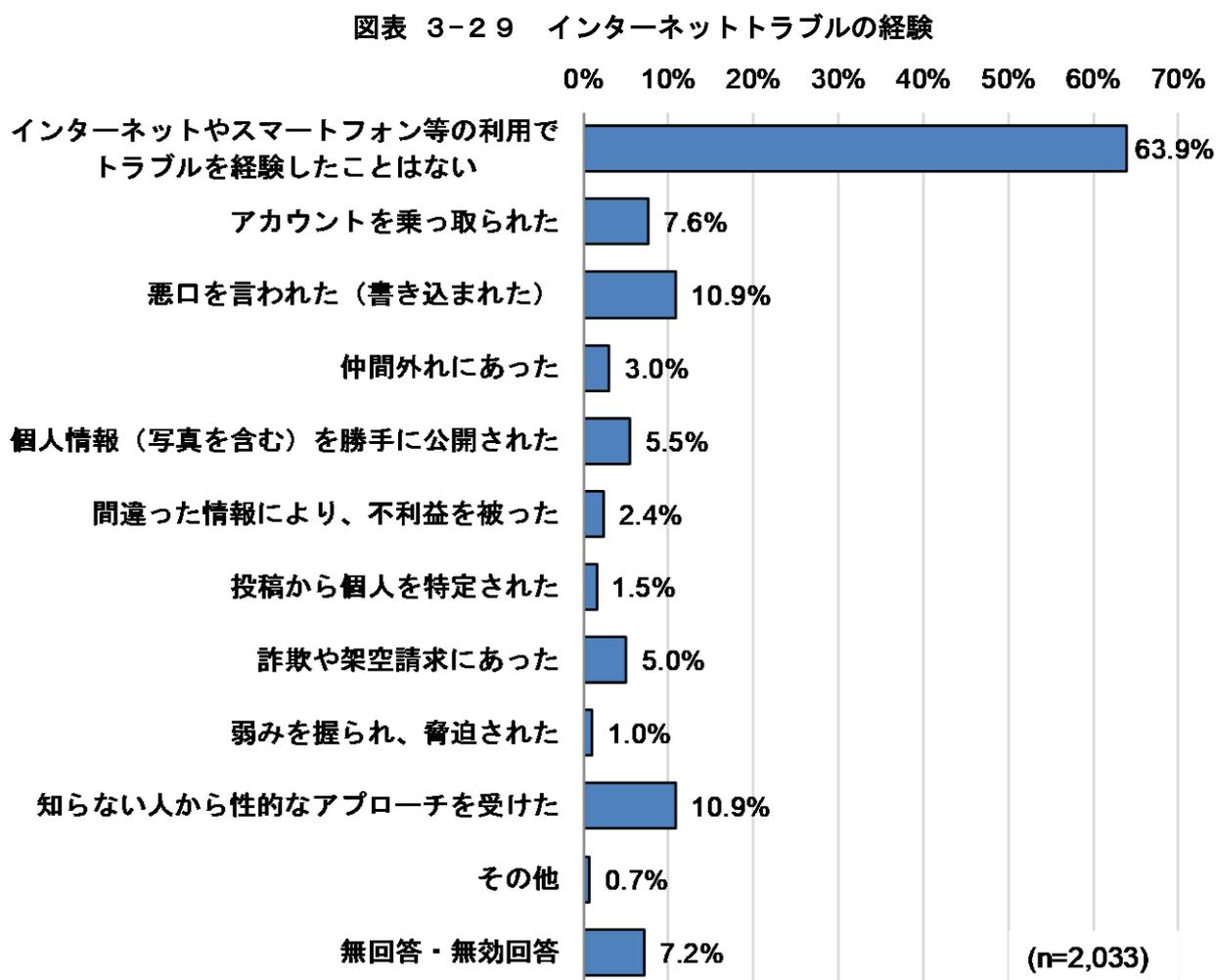
図表 3-28 「家で物に当たったり、こわしたりした」の回答割合
(平日のゲーム使用時間別)



シ インターネットトラブルについて

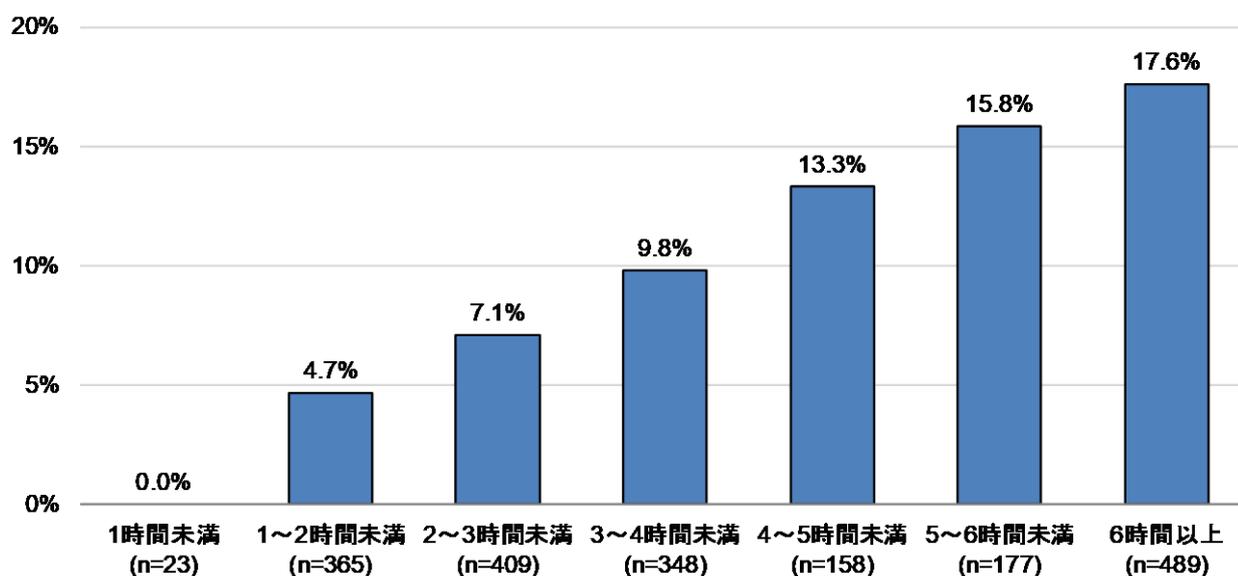
インターネットやスマートフォン等の利用によるトラブルについて尋ねた設問について、「インターネットやスマートフォン等の利用でトラブルを経験したことはない」の回答が最も多く、約6割となっている。利用により経験したトラブルとして、「悪口を言われた（書き込まれた）」、「知らない人から性的なアプローチを受けた」、「アカウントを乗っ取られた」と回答した割合は約1割となっている。

【設問 11】 インターネットやスマートフォン等の利用で、次のようなトラブルを経験したことがありますか。（複数回答）

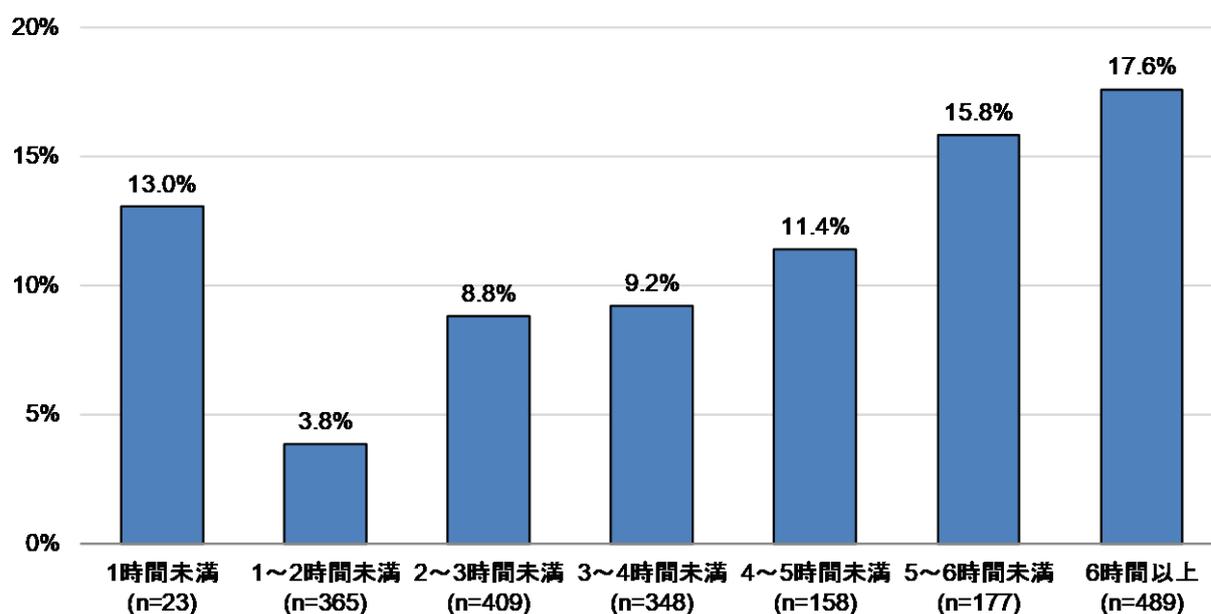


平日の SNS の利用時間別（設問 6）に、インターネットやスマートフォン等の利用によるトラブルの経験（設問 11）の回答状況を集計したところ、SNS の利用時間が長くなるほど、「知らない人から性的なアプローチを受けた」の回答割合が高くなっている。また、「悪口を言われた（書き込まれた）」については、SNS の利用時間が 1 時間未満の場合には約 1 割が回答し、1 時間以上の場合については、SNS の利用時間が長いほど、回答割合が高くなっている。

図表 3-30 「知らない人から性的なアプローチを受けた」の回答割合
（平日の SNS 利用時間別）

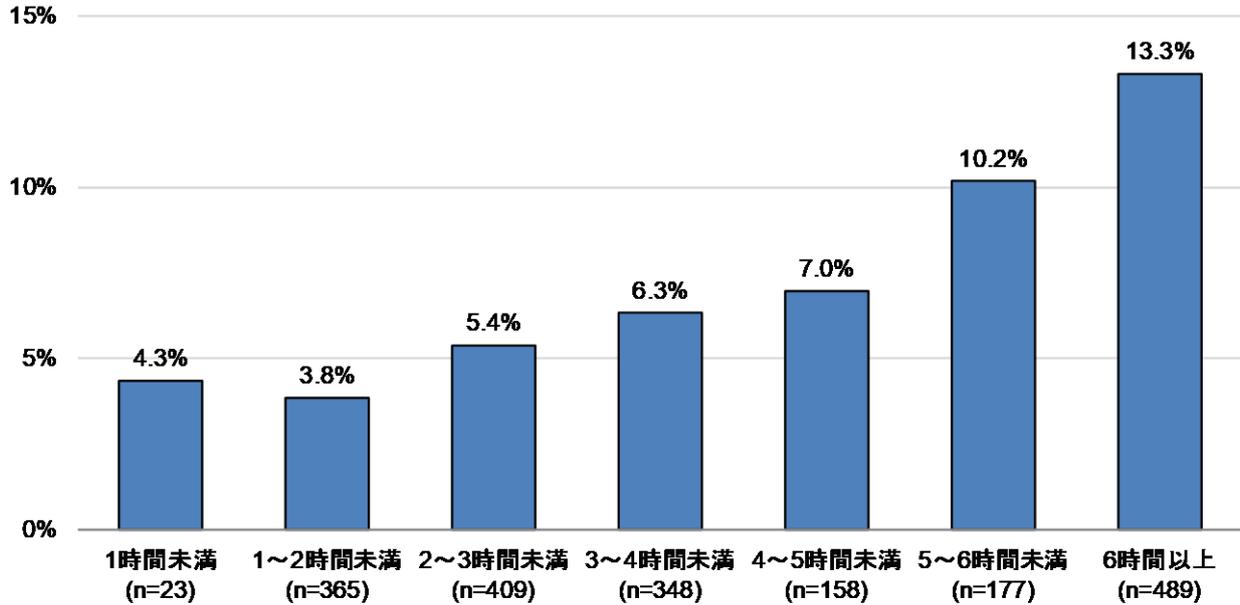


図表 3-31 「悪口を言われた（書き込まれた）」の回答割合（平日の SNS 利用時間別）

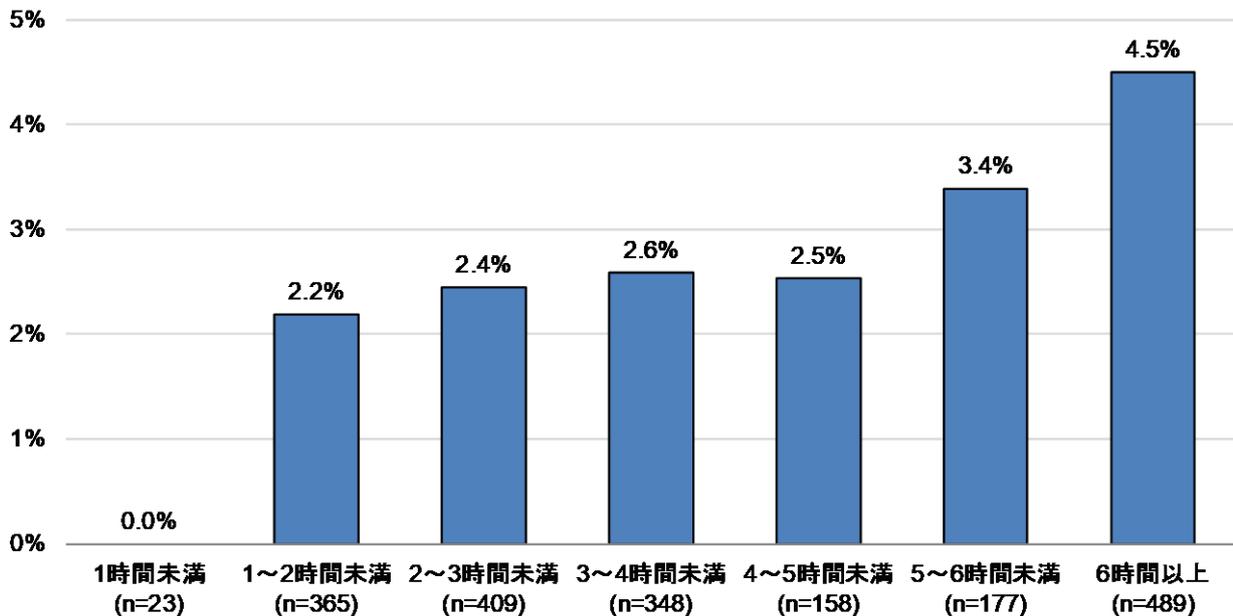


平日の SNS の利用時間別（設問 6）に、インターネットやスマートフォン等の利用によるトラブルの経験（設問 11）の回答状況を集計したところ、SNS の利用時間が短い方と比べて、SNS の利用時間が長い方は、「アカウントを乗っ取られた」、「仲間外れにあった」の回答割合が相対的に高くなる傾向にある。

図表 3-3 2 「アカウントを乗っ取られた」の回答割合（平日の SNS 利用時間別）



図表 3-3 3 「仲間外れにあった」の回答割合（平日の SNS 利用時間別）



(3) 現在困っていることや悩んでいることについて

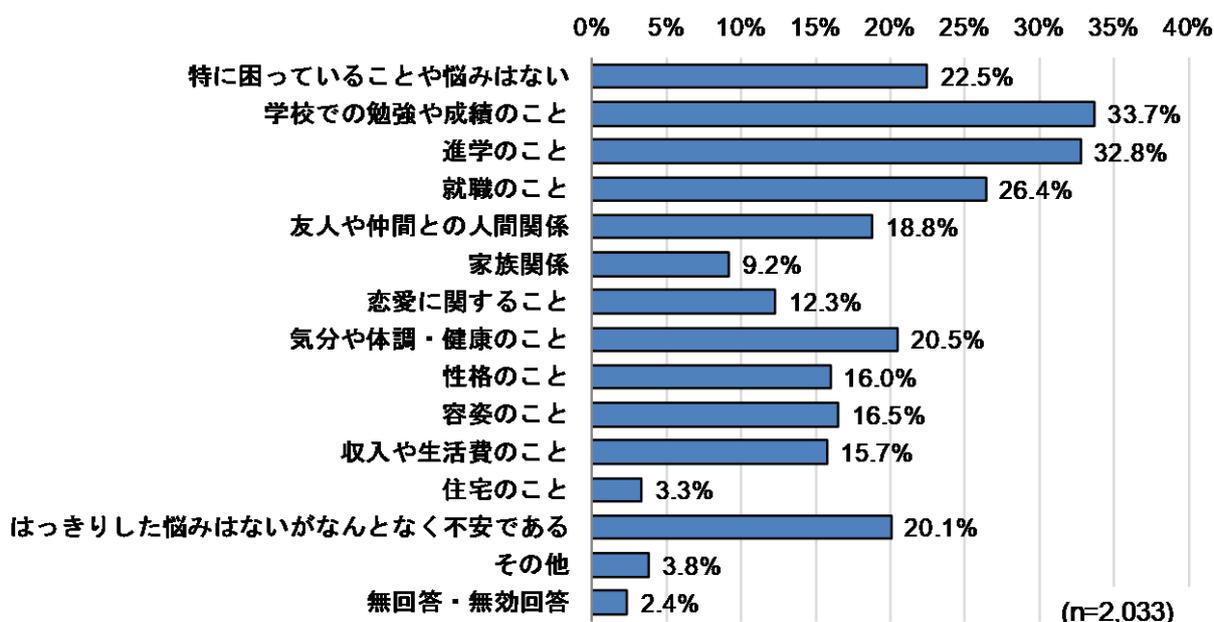
ア 現在困っていることや悩んでいること

現在困っていることや悩んでいることを尋ねた設問について、「学校での勉強や成績のこと」、「進学のこと」、「就職のこと」の回答割合が、約3割となっている。また、「その他」の回答における具体的な意見としては、「人生そのものに対する不安」や「原因のわからない苛立ち」を抱えているという記載が見られた。

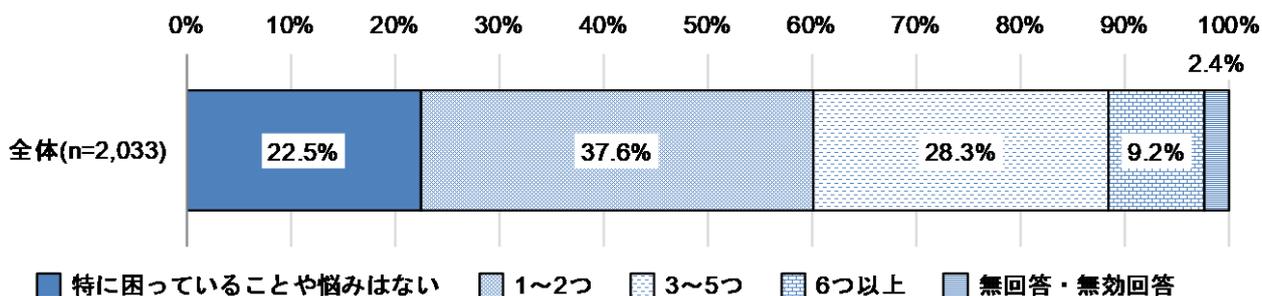
困っていることや悩んでいることとして選択した数について集計したところ、「1～2つ」が最も多く、約4割となっている。また、6つ以上の困りごと・悩みごとを回答した割合は、約1割となっている。

【設問 12】 あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか。(複数回答)

図表 3-34 現在困っていることや悩んでいること



図表 3-35 現在困っていることや悩んでいること (回答の数による集計)

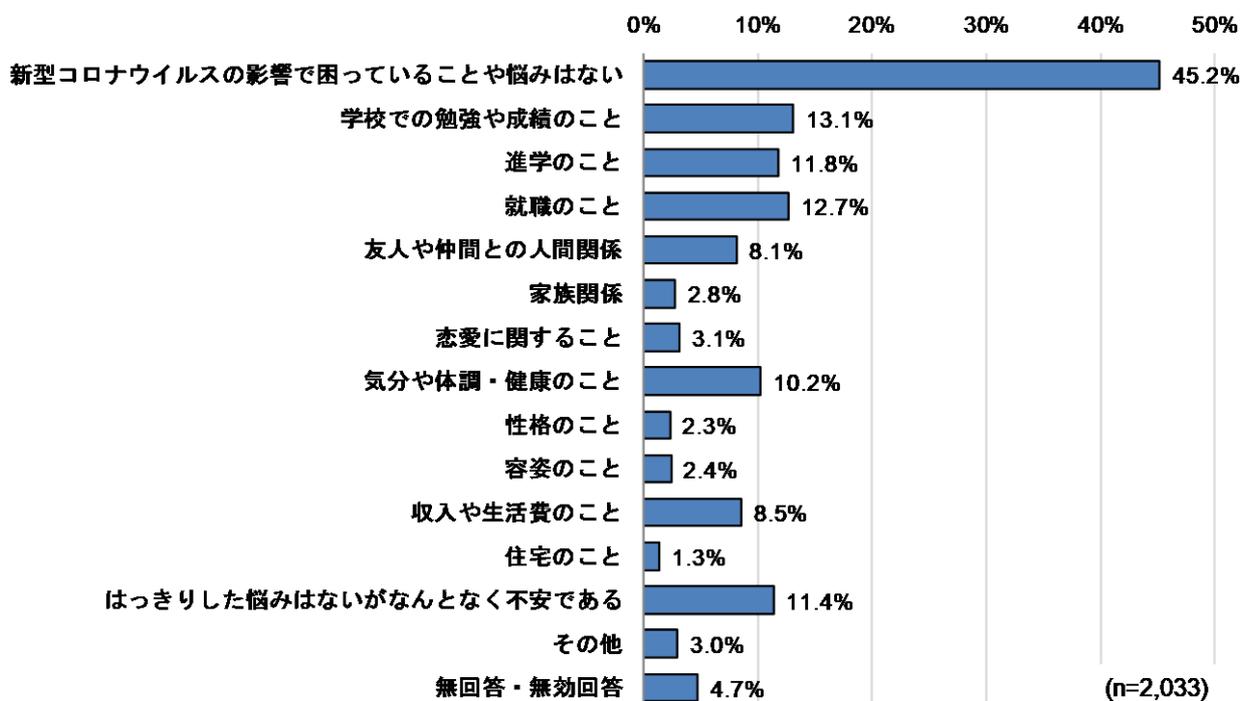


イ 新型コロナウイルスの影響で困っていることや悩んでいること

新型コロナウイルスの影響で、困っていることや悩んでいることについて尋ねた設問^(注3)について、「新型コロナウイルスの影響で困っていることや悩みはない」の回答が最も多く、約5割となっている。困っていることや悩んでいることとして、「学校での勉強や成績のこと」、「就職のこと」、「進学のこと」、「はっきりした悩みはないがなんとなく不安である」、「気分や体調・健康のこと」の回答割合が1割を超えている。

【設問13】 設問12で選んだ選択肢のうち、新型コロナウイルスの影響で、困っていることや悩んでいることがありますか。(複数回答)

図表 3-36 新型コロナウイルスの影響で困っていることや悩んでいること



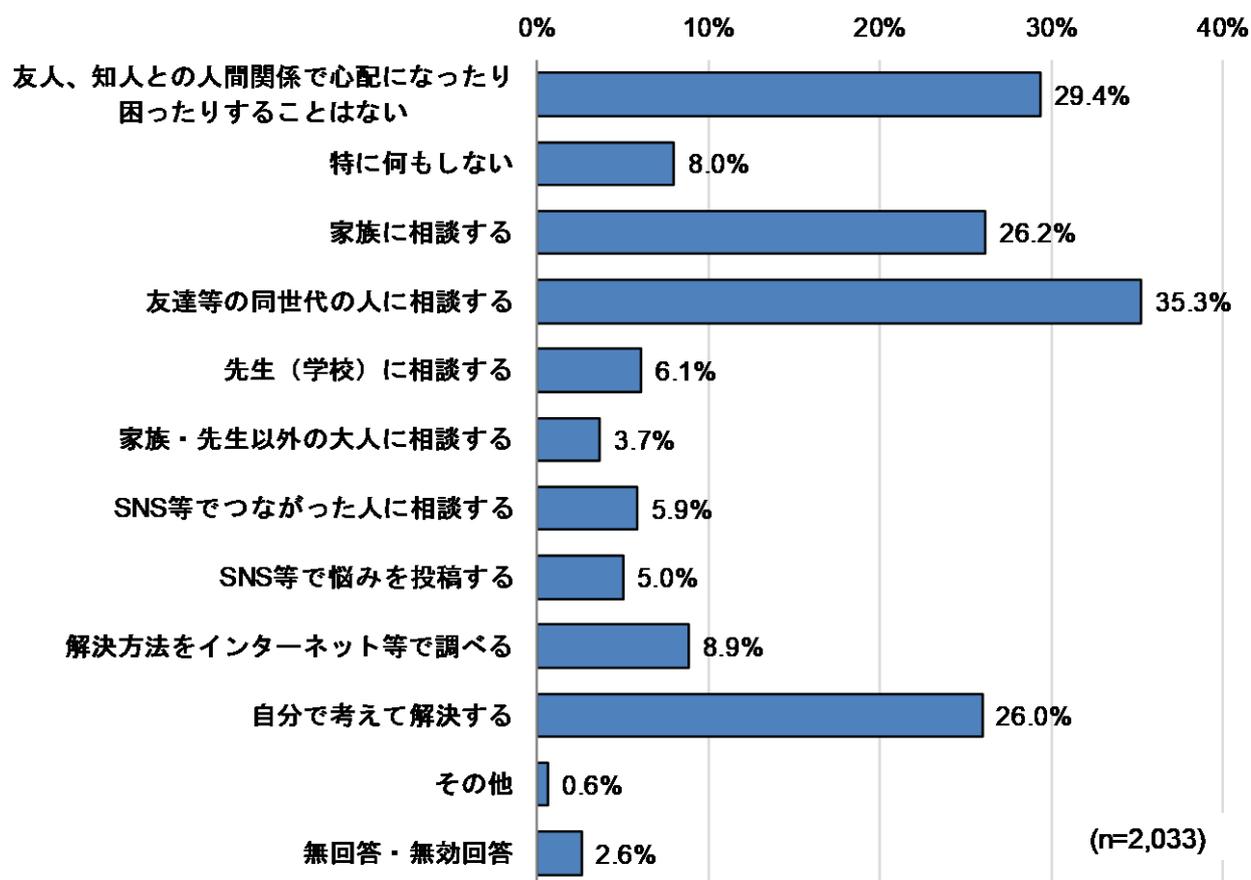
(注3) 現在困っていることや悩んでいることを尋ねた設問で選んだ選択肢のうち、新型コロナウイルスの影響で困っていることや悩んでいることを尋ねている。

ウ 「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先

「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先について尋ねた設問において、「友達等の同世代の人に相談する」の回答が最も多く、約4割となっている。次いで、「友人、知人との人間関係で心配になったり困ったりすることはない」の回答が約3割となっている。また、「特に何もしない」の回答は、約1割となっている。

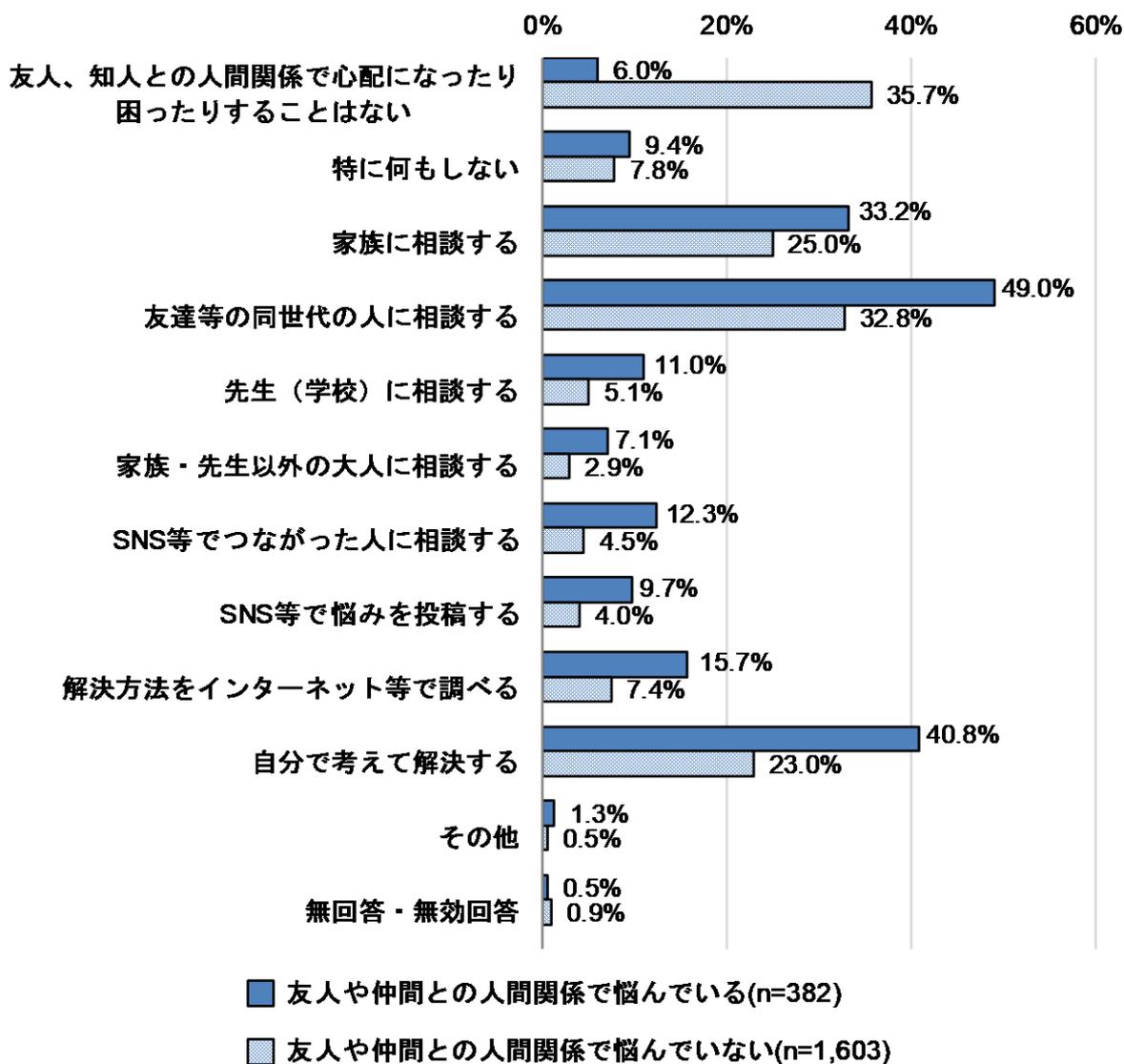
【設問 14】 あなたが、「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-37 「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先



「友人や仲間との人間関係」に現在困っている・悩んでいると回答した方（設問 12）について、「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先の回答状況（設問 14）を集計すると、「友達等の同世代の人に相談する」と回答した方が最も多く約 5 割となっており、次いで「自分で考えて解決する」の回答割合が約 4 割となっている。

図表 3-38 「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先
（友人や仲間との人間関係の悩みの有無別）

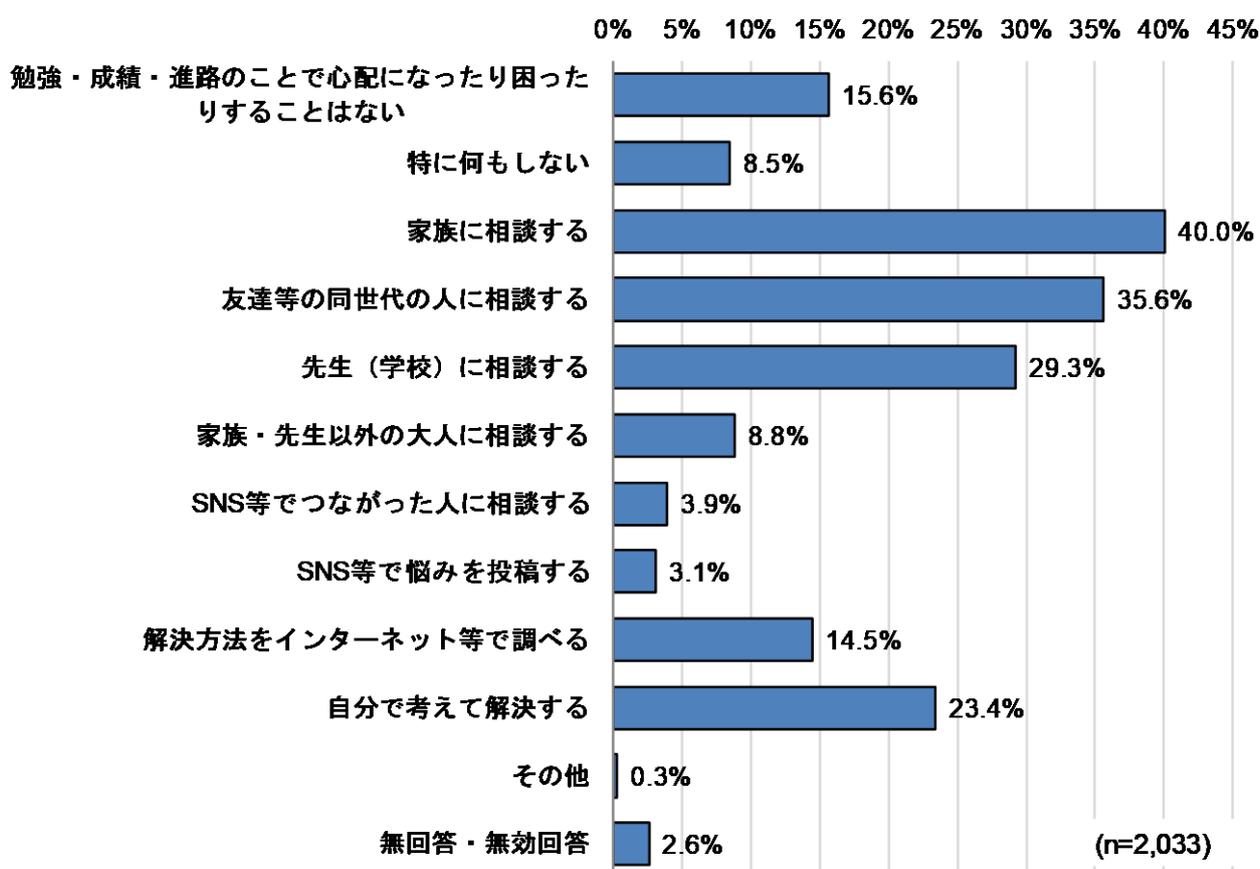


エ 「勉強・成績・進路のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先

「勉強・成績・進路のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先について尋ねた設問について、「家族に相談する」、「友達等の同世代の人に相談する」の回答が多く、約4割となっている。次いで、「先生（学校）に相談する」の回答が、約3割となっている。また、「特に何もしない」の回答が、約1割となっている。

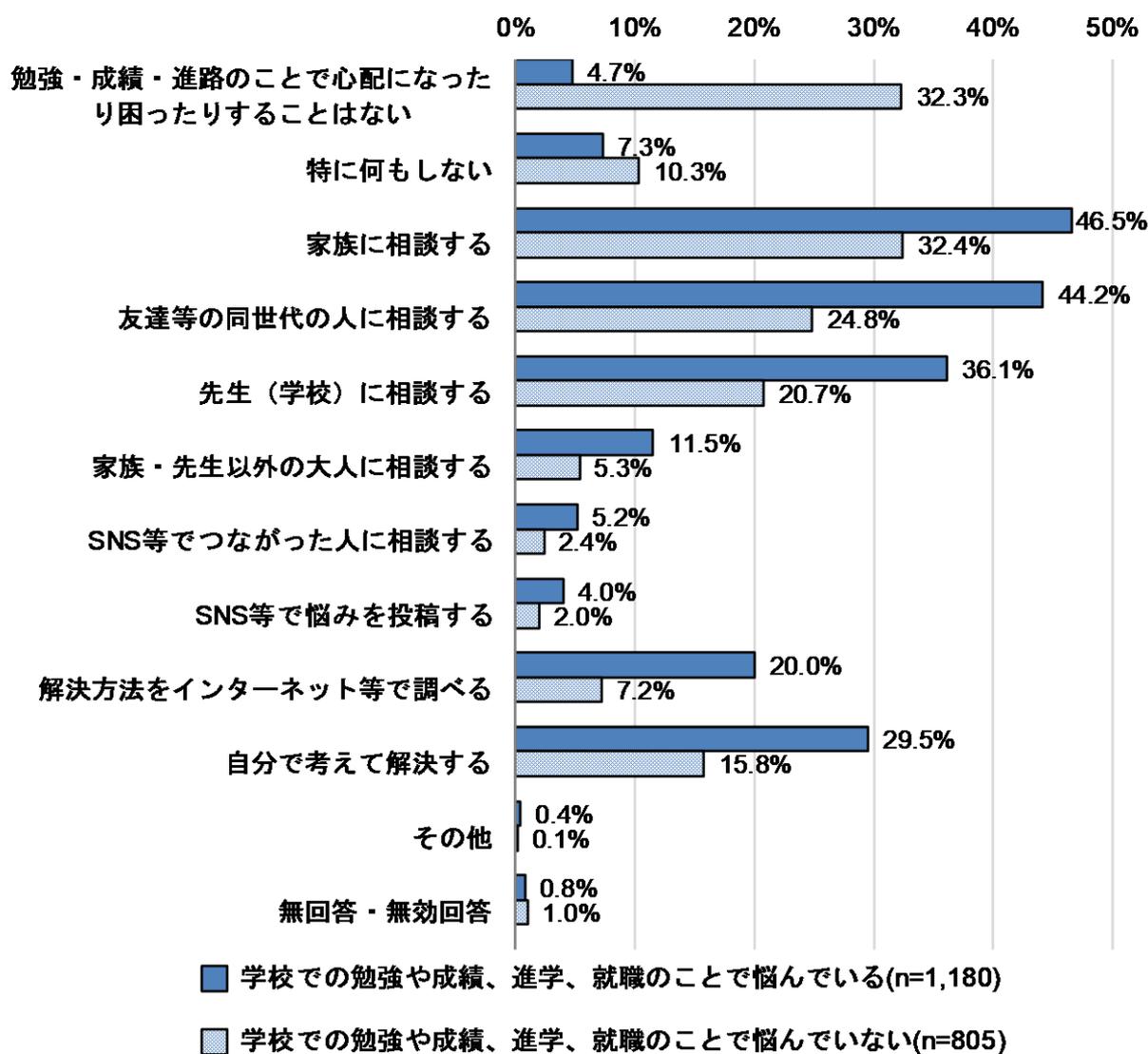
【設問 15】 あなたが、「勉強・成績・進路のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。（複数回答）

図表 3-39 「勉強・成績・進路のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先



現在困っていることや悩んでいることについて尋ねた設問（設問 12）について、「学校での勉強や成績のこと」、「進学のこと」、「就職のこと」のいずれかを回答した方では、勉強・成績・進路のことで心配になったり、困ったりした時の行動（設問 15）として「家族に相談する」と回答した方が最も多く約 5 割となっており、次いで「友達等の同世代の人に相談する」の回答割合が約 4 割となっている。

図表 3-40 「勉強・成績・進路のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先
（学校での勉強や成績、進学、就職のことでの悩みの有無別）

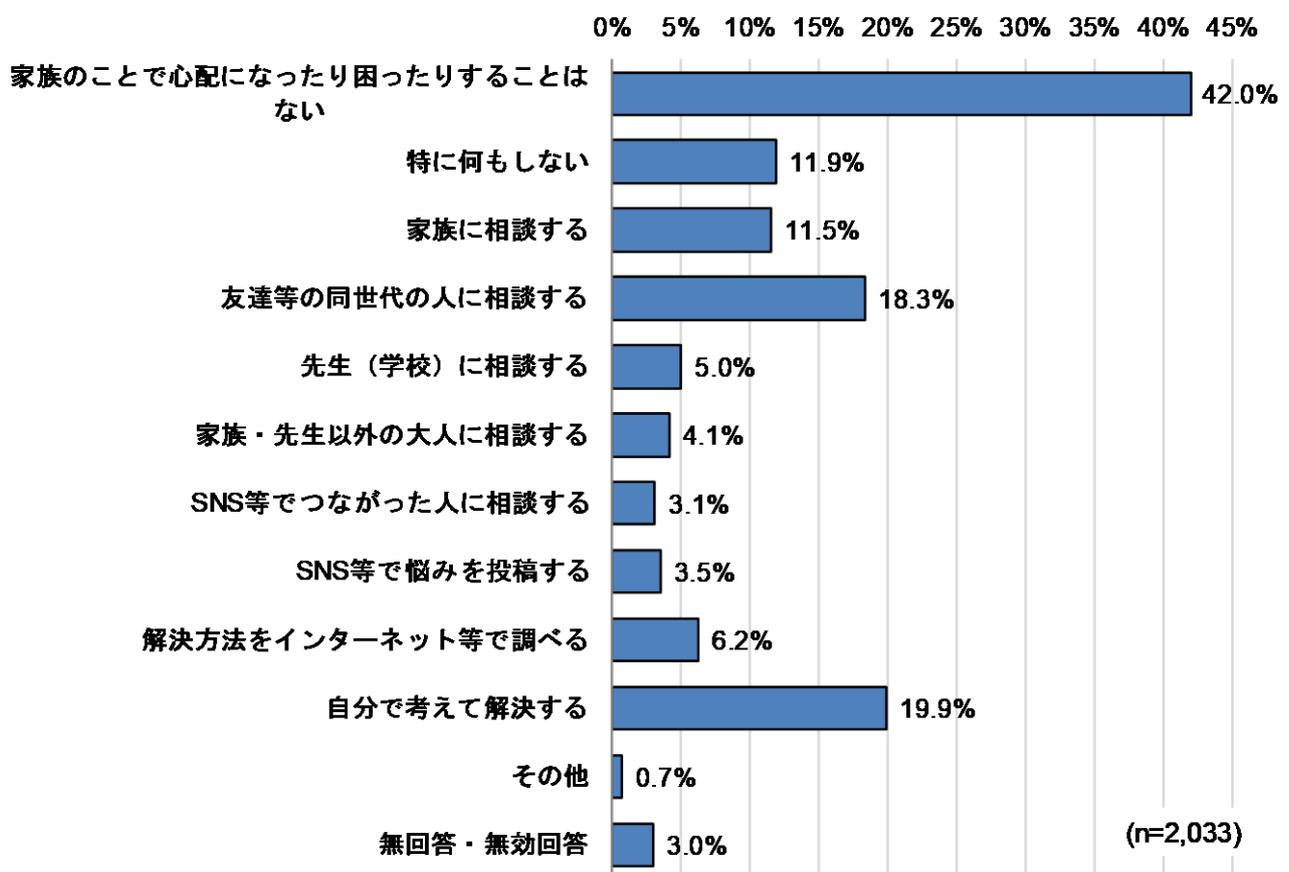


オ 「家族のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先

「家族のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先について尋ねた設問について、「家族のことで心配になったり困ったりすることはない」の回答が最も多く、約4割となっている。次いで、「自分で考えて解決する」、「友達等の同世代の人に相談する」が約2割となっている。また、「特に何もしない」の回答が、約1割となっている。

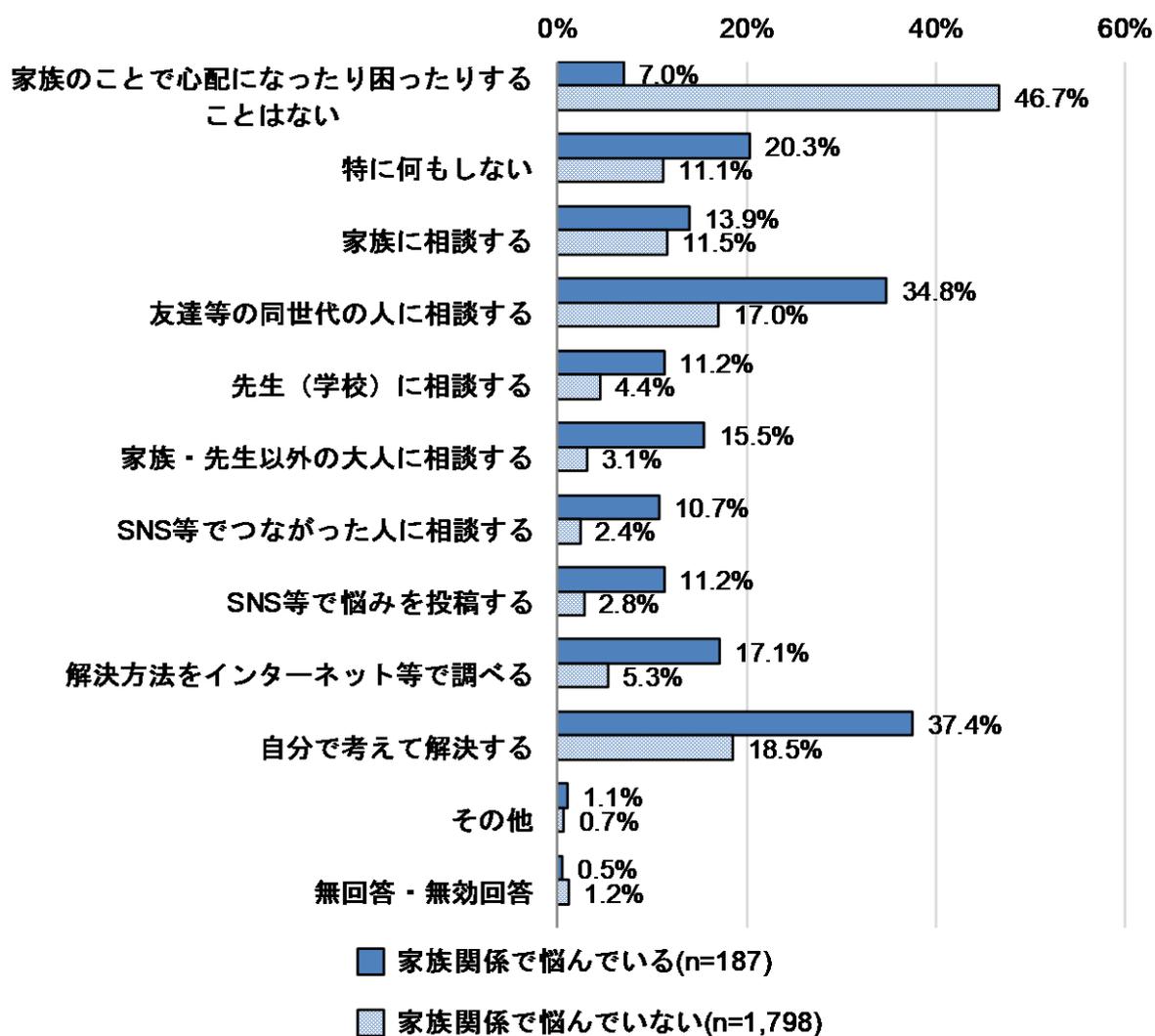
【設問 16】 あなたが、「家族のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-4 1 「家族のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先



「家族関係」に現在困っている・悩んでいると回答した方（設問 12）では、家族のことで心配になったり、困ったりした時の行動（設問 16）として「自分で考えて解決する」回答した方が最も多く、約 4 割となっており、次いで「友達等の同世代の人に相談する」の回答割合が約 3 割となっている。また、「特に何もしない」の回答割合が、約 2 割となっている。

図表 3-4 2 「家族のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先
（家族関係の悩みの有無別）

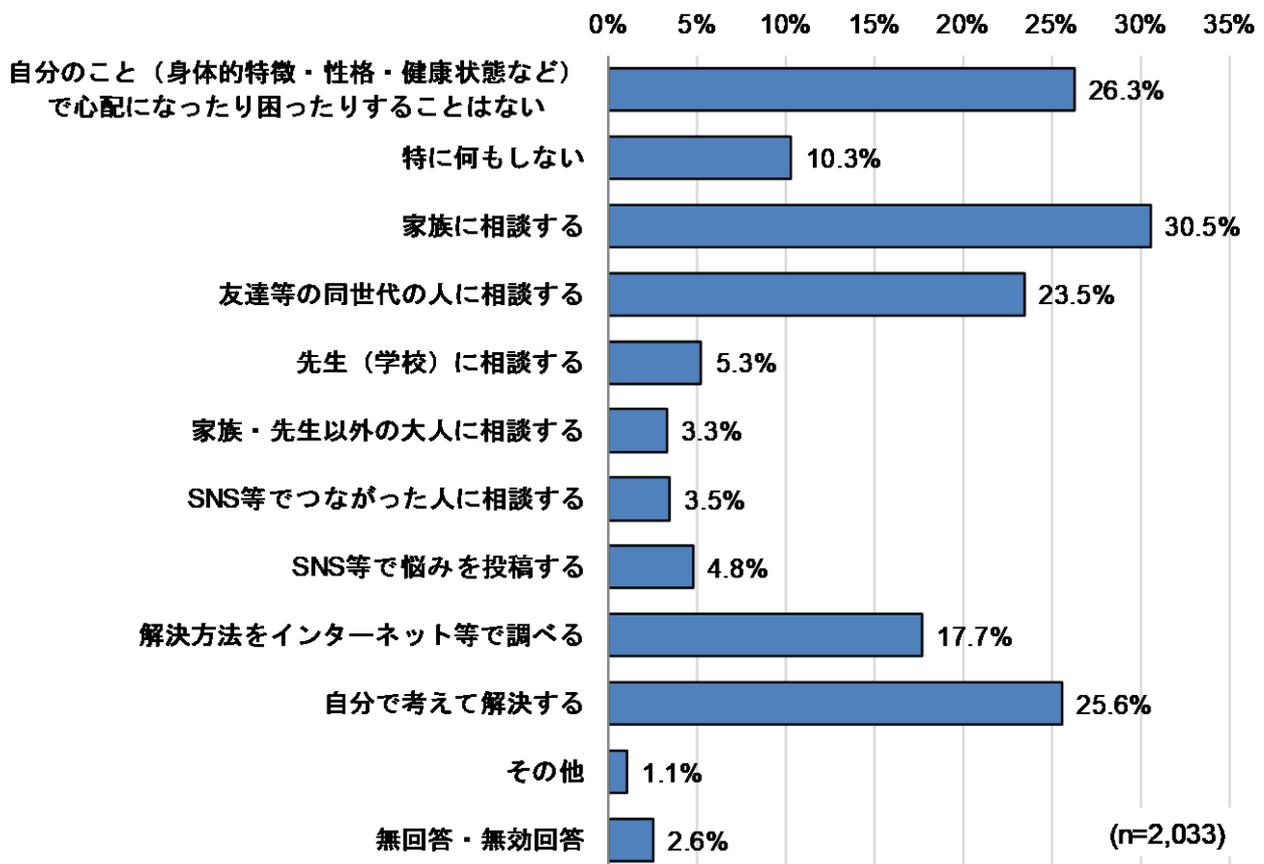


カ 「自分のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先

「自分のこと（身体的特徴・性格・健康状態など）」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先について尋ねた設問について、「家族に相談する」の回答が最も多く、次いで、「自分のこと（身体的特徴・性格・健康状態など）で心配になったり困ったりすることはない」、「自分で考えて解決する」の順となっており、いずれも回答の割合は、約3割となっている。また、「特に何もしない」の回答割合は、約1割となっている。

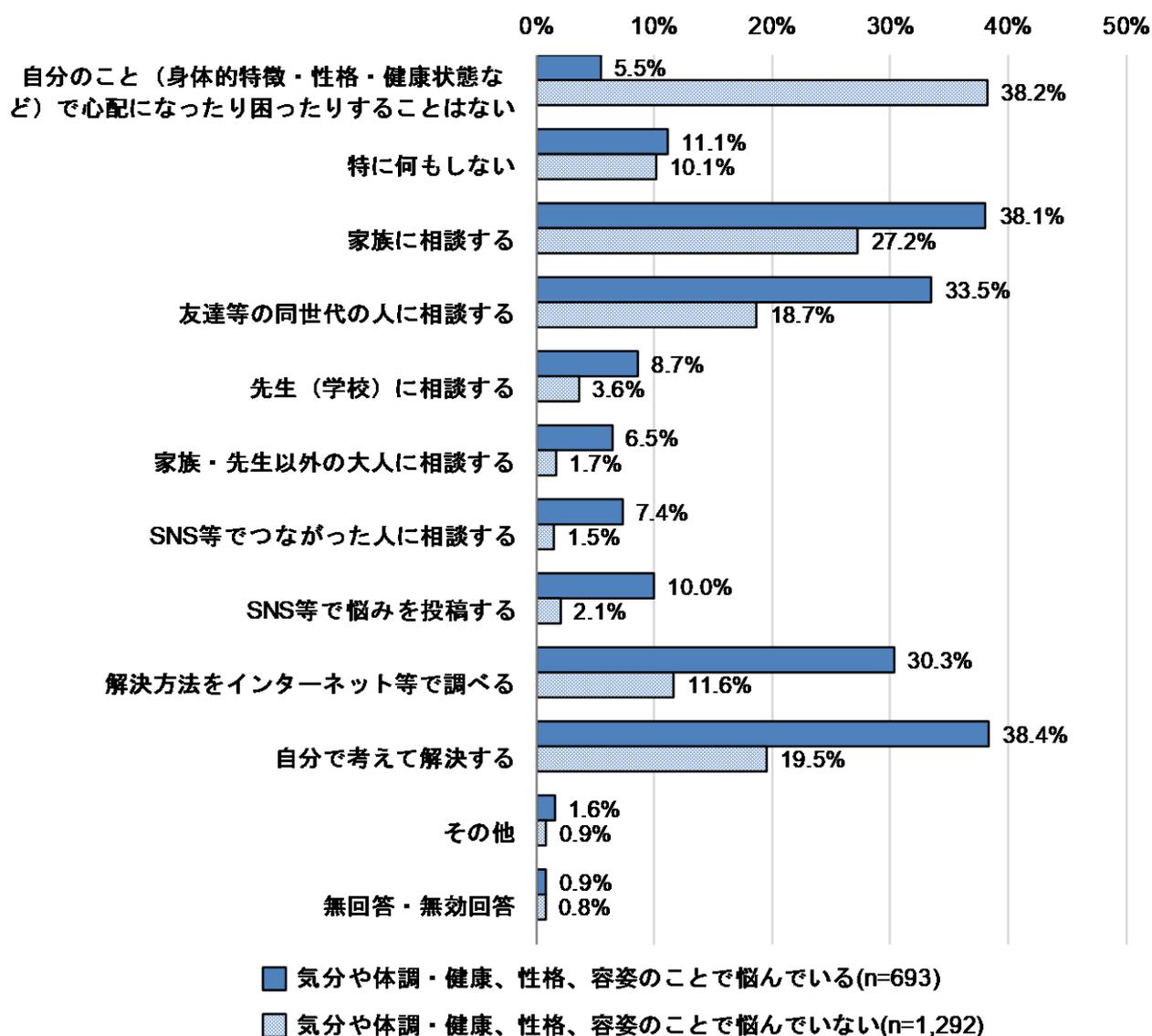
【設問 17】 あなたが、「自分のこと(身体的特徴・性格・健康状態など)」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-4 3 「自分のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先



現在困っていることや悩んでいることについて尋ねた設問（設問 12）について、「気分や体調・健康のこと」、「性格のこと」、「容姿のこと」のいずれかを回答した方では、「自分のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動（設問 17）として「自分で考えて解決する」、「家族に相談する」と回答した方が多く約 4 割となっている。

図表 3-4 4 「自分のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先
（気分や体調・健康、性格、容姿のことでの悩みの有無別）



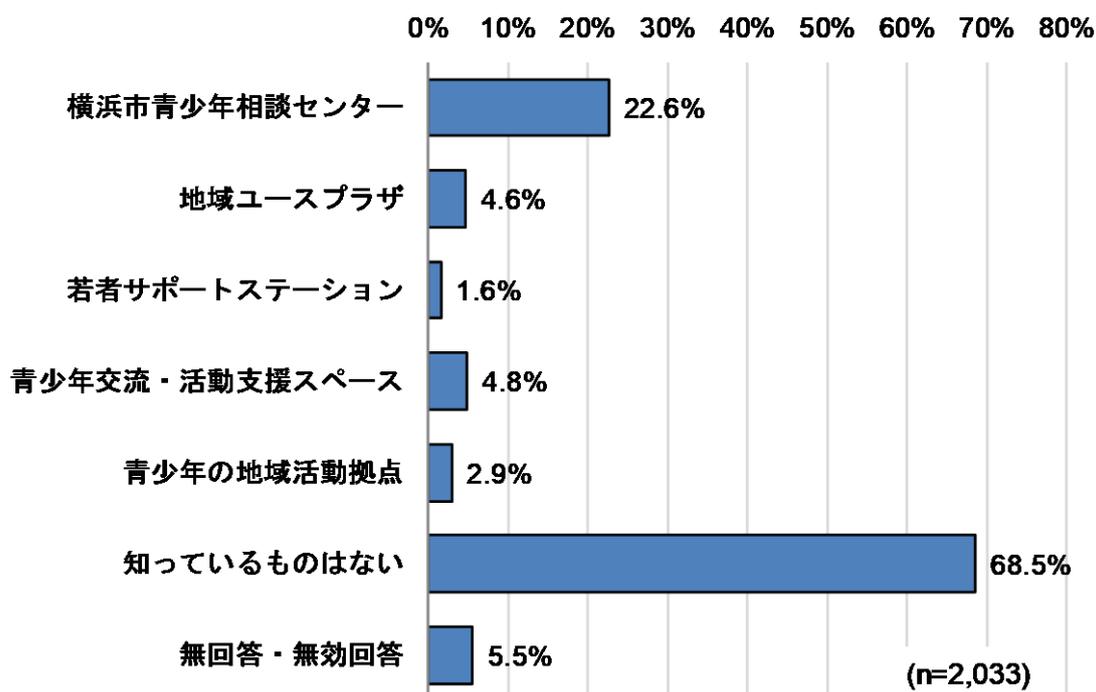
(4) 横浜市の施策について

ア 横浜市の機関や施設の認知状況

横浜市の青少年施策に関する機関や施設を知っているかどうか尋ねた設問に^(注4)ついて、「知っているものはない」の回答が最も多く、約7割となっている。また、「横浜市青少年相談センター」を知っていると回答した割合は、約2割となっている。

【設問 18-1】 次の機関や施設について、知っているものを選んでください。(複数回答)

図表 3-45 横浜市の機関や施設の認知状況

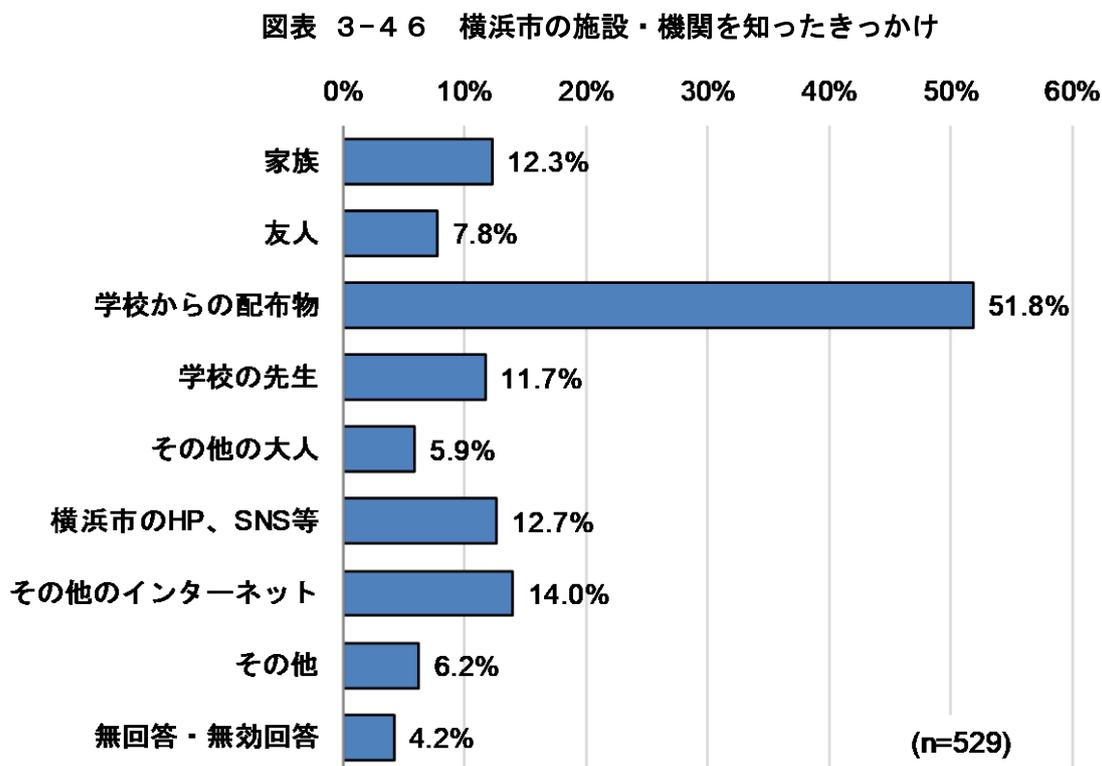


(注4) 調査票上に各機関・施設についての支援内容・支援対象者・所在地・QRコードが記載された画像データを掲載（インターネット調査の場合は、掲載画像と同一のPDFファイルのURLを調査画面に添付）。

イ 横浜市の施設・機関を知ったきっかけ

横浜市の青少年施策に関する施設・機関を知っていると回答した方^(注5)に、知ったきっかけを尋ねたところ、「学校からの配布物」の回答が最も多く、約5割となっている。

【設問 18-2】 設問 18-1で「1～5」^(注6)と答えた人にお聞きします。それらを知ったきっかけを教えてください(複数回答)



(注5) 「次の機関や施設について、知っているものを選んでください」の設問において、「横浜市青少年相談センター」、「地域ユースプラザ」、「若者サポートステーション」、「青少年交流・活動支援スペース」、「青少年の地域活動拠点」のいずれかを回答した方に尋ねている。

(注6) 設問 18-1 の 1～5 の選択肢は、「1. 横浜市青少年相談センター」、「2. 地域ユースプラザ」、「3. 若者サポートステーション」、「4. 青少年交流・活動支援スペース」、「5. 青少年の地域活動拠点」となっている。

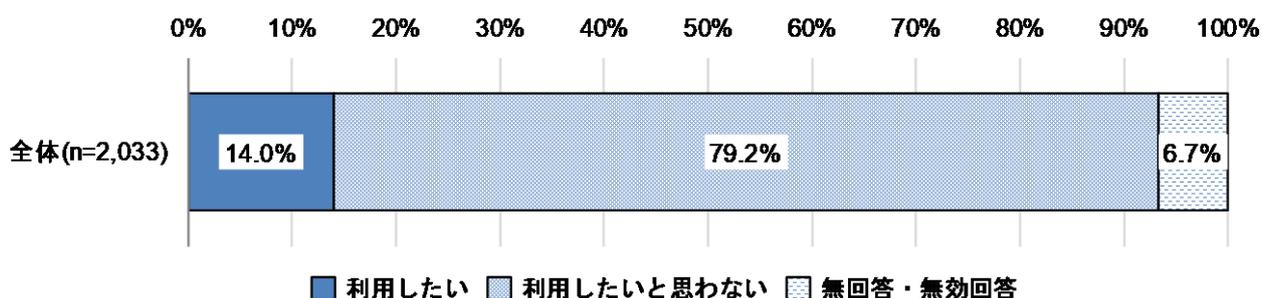
ウ 横浜市青少年相談センターの利用意向

相談したいことがあれば、横浜市青少年相談センターを利用したいと思うかと尋ねた設問について、「利用したいと思わない」の回答割合が、約8割となっている。

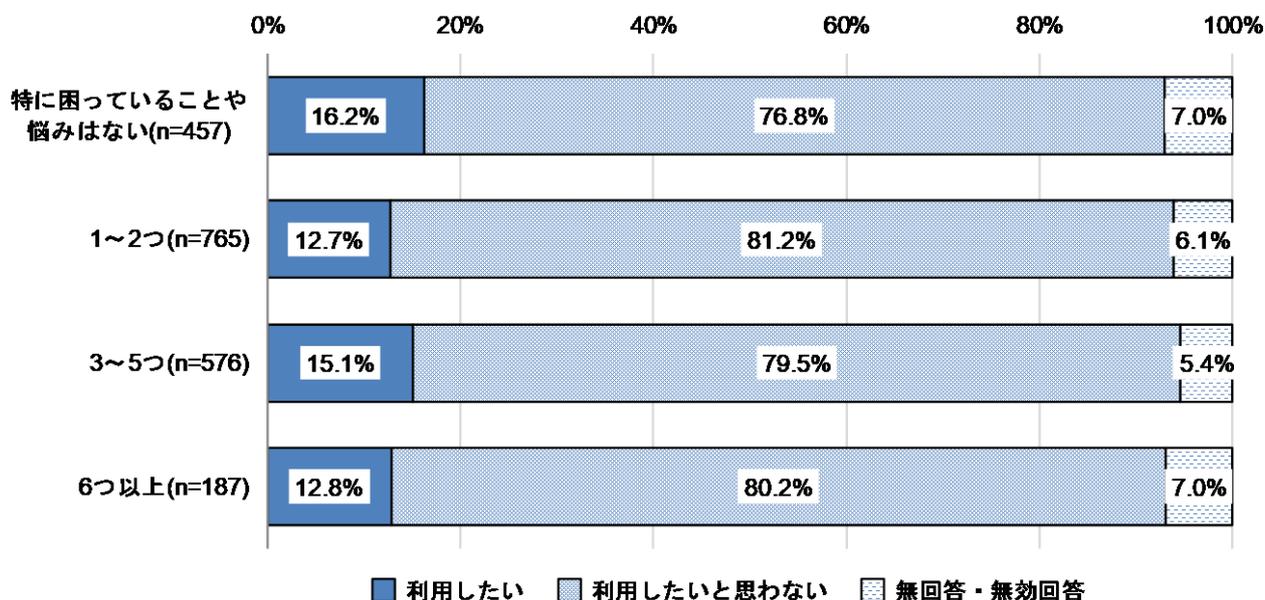
また、現在抱えている悩みの回答数^(注7)別に集計を行ったところ、悩みの回答数に関わらず、横浜市青少年相談センターを「利用したいと思わない」の回答割合は、約8割となっており、全体の傾向との大きな差異は見られなかった。

【設問 19-1】 相談したいことがあれば、「横浜市青少年相談センター」(南区、最寄り駅:阪東橋駅・黄金町駅)を利用したいと思いますか。(単一回答)

図表 3-4 7 横浜市青少年相談センターの利用意向



図表 3-4 8 横浜市青少年相談センターの利用意向（悩みの回答数別）



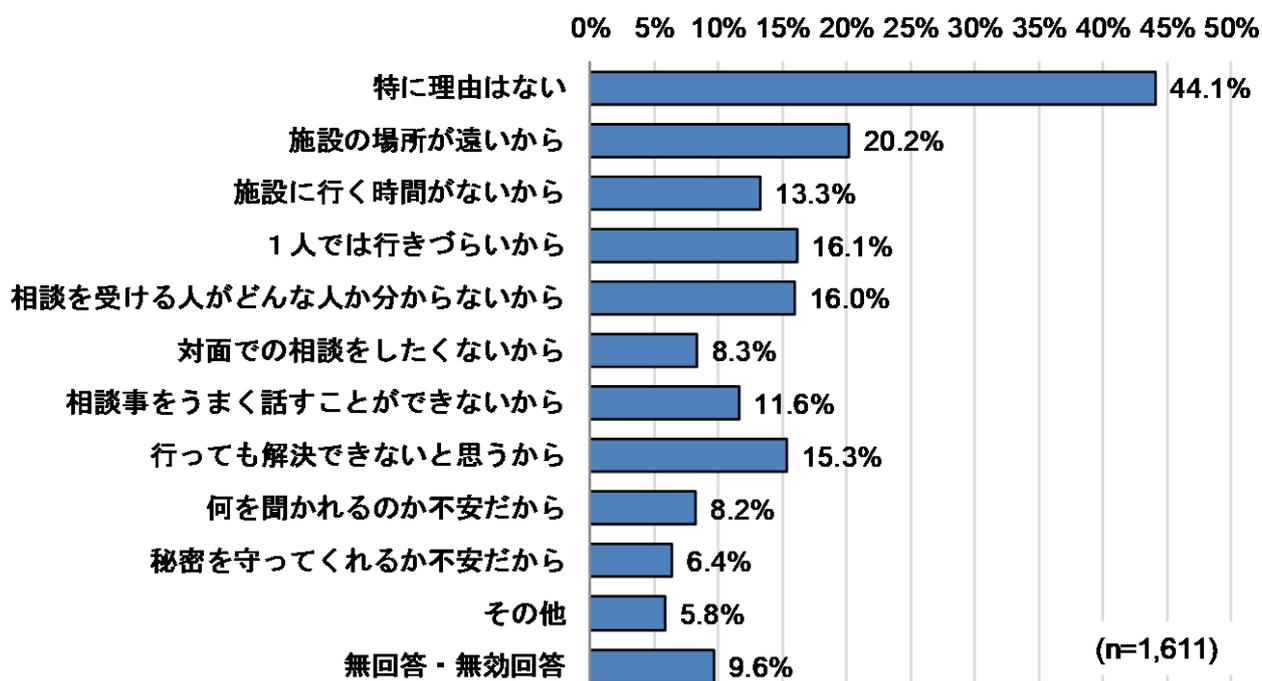
(注7) 「あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか」と尋ねた設問において、「特に困っていることや悩みはない」以外の回答した選択肢の数を指す。

エ 横浜市青少年相談センターを利用したいと思わない理由

横浜市青少年相談センターを利用したいと思わないと回答した方にその理由を尋ねた設問については、「特に理由はない」の回答が最も多く、約4割となっている。次いで、「施設の利用場所が遠いから」、「1人では行きづらいから」、「相談を受ける人がどんな人か分からないから」、「行っても解決できないと思うから」の回答が約2割となっている。

【設問 19-2】 設問 19-1で「利用したいと思わない」と答えた人にお聞きします。その理由を次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-4 9 横浜市青少年相談センターを利用したいと思わない理由



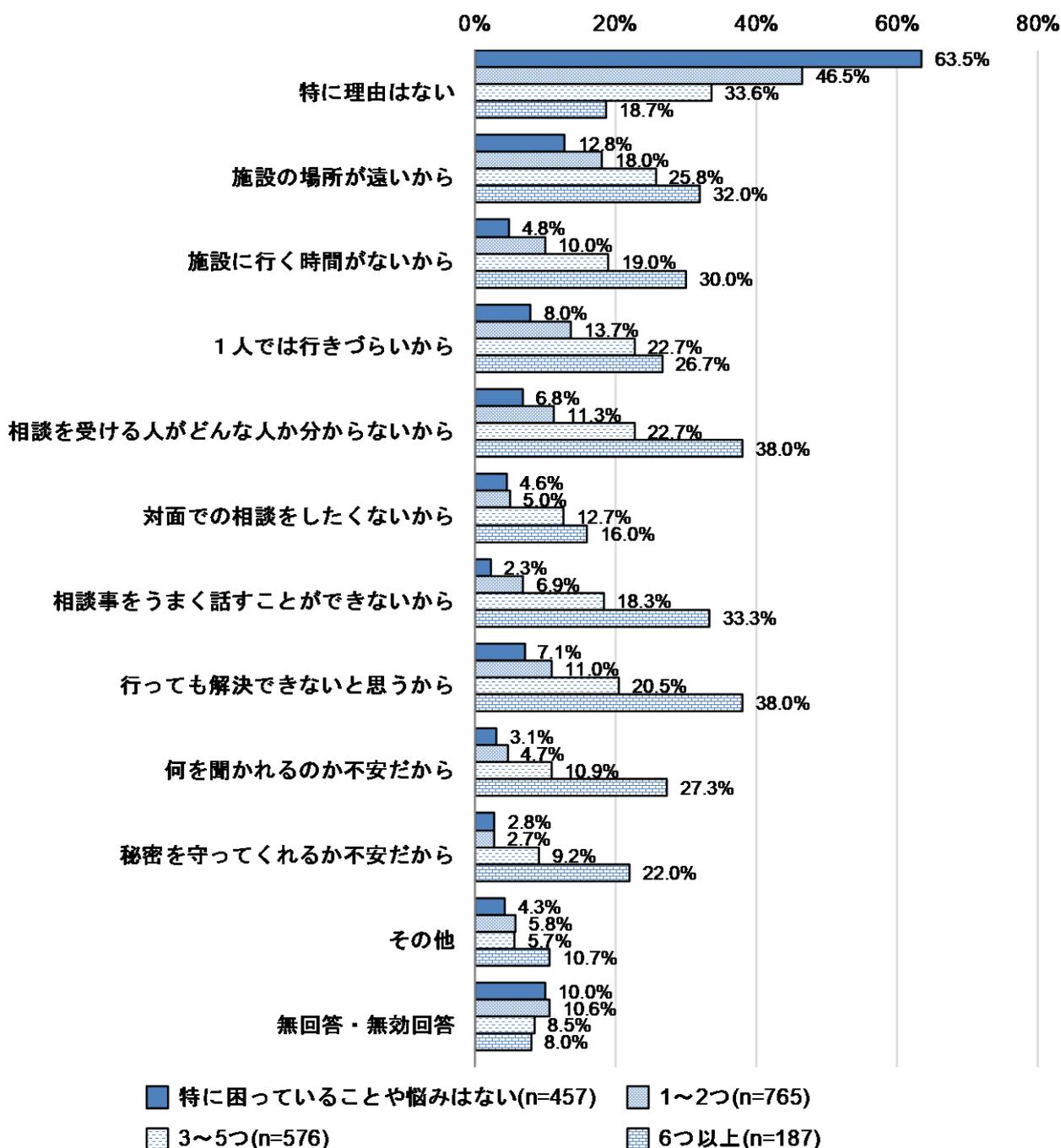
また、横浜市青少年相談センターを利用したいと思わない理由として「その他」を選択した方の具体的な意見としては、「自分のことを知らない人からアドバイスを受けることに抵抗がある」、「簡単に信用できない」など見知らぬ人に相談することの心理的ハードルに関する意見があった。また、「相談にかかる時間とお金（交通費）を親に説明できない」、「行くのも話すのも面倒である」という時間や金銭的な負担に関する意見、「アドバイスを貰えたとしても、納得できないかもしれない」、「結局は自分が変わらなければいけないが、その自信がない」など相談がもたらす効果に対する懸念が挙げられた。ほかに、「そうした機関・施設を利用しなければならないほど、自分の悩みがとても深刻なものなのだと感じてしまう」という意見があった。

「その他」の回答における具体的な意見（抜粋）

- 自分のことを知らない人に相談し、自分のことをよく知らないままアドバイスされるのに抵抗がある。
- 簡単に信用できないから。
- 相談することでどういう方向に事が進むのか分からない。何を相談する場所か分からない。
- 悩みを相談して、何かアドバイスを貰えたとします。それ自体は有難いことだし、今後、役立てようと思うかもしれませんが、でも、自分の中にしっくりこないと納得できないと思うからです。
- 他人にアドバイスをもらっても、結局自分が変わらなきゃいけないのに、自信がないから。
- 遠いので交通費がかかるし時間もかかり、行くときは親に内緒で行くので、そのお金と時間をどう説明していいかわからない。
- 行くのも話すのもめんどうだから。
- そうした機関・施設を利用しなければならないほど、自分の悩みがとても深刻なものなのだと感じてしまうから。
- 自分で解決すればいいから。

また、現在抱えている悩みの回答数^(注8)別に集計したところ、悩みの回答数が増加するほど、横浜市青少年相談センターを利用したいと思わない理由に対して「特に理由はない」の回答割合は減少していき、それ以外の選択肢の回答割合は増加している。6つ以上の悩みを回答した方では、「相談を受ける人がどんな人か分からないから」、「行っても解決できないと思うから」の回答が多く約4割となっている。

図表 3-50 横浜市青少年相談センターを利用したいと思わない理由（悩みの回答数別）



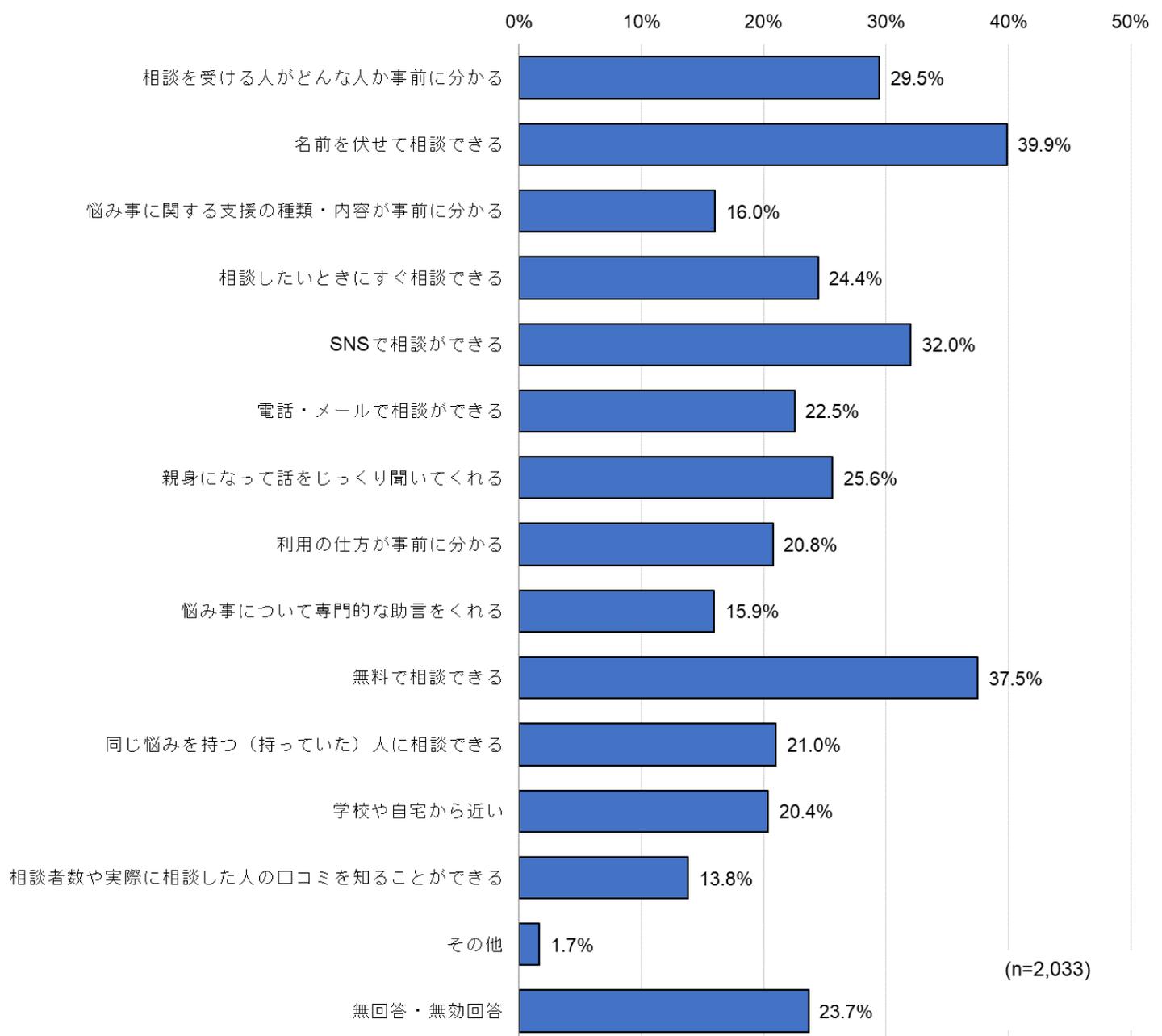
(注8) 「あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか」と尋ねた設問において、「特に困っていることや悩みはない」以外の回答した選択肢の数を指す。

オ 相談機関を利用しやすくするための工夫

青少年相談センターなどの相談機関での相談について、どのようにすれば同世代の人たちが相談しやすくなると思うか尋ねた設問について、「名前を伏せて相談できる」、「無料で相談できる」の回答が多く、約4割となっている。

【設問 20】 青少年相談センターなどの相談機関での相談について、どのようにすればあなたと同世代の方たちが、相談しやすくなると思うか、次の中から選んでください。(単一回答)

図表 3-5 1 相談機関を利用しやすくするための工夫



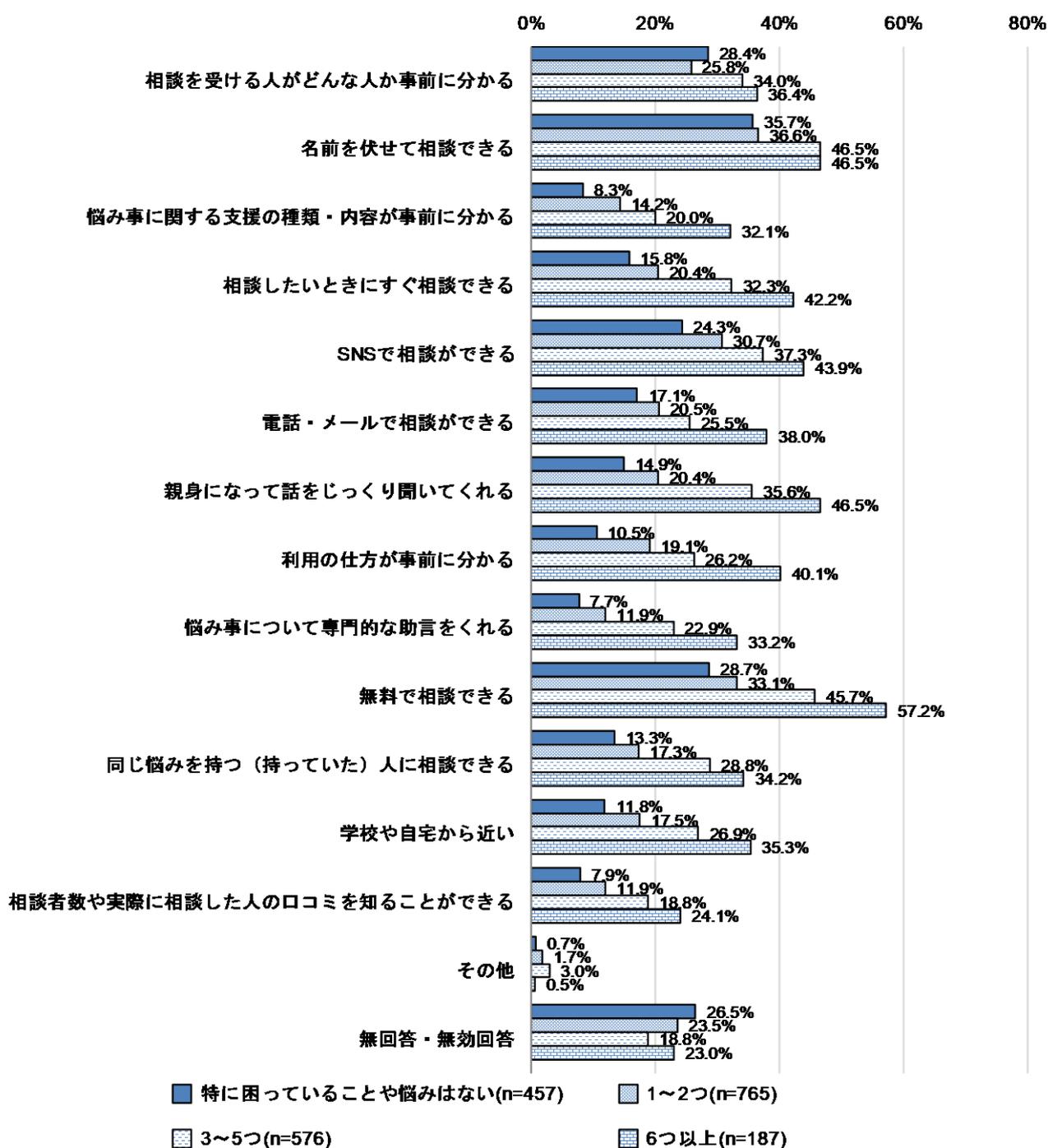
同世代の人たちが相談しやすくなる選択肢に「その他」と回答した方の具体的な意見として、「相談機関を利用することは恥ずかしくないことだと先生たちの口から伝える」、「公園のたまり場のような、気軽に愚痴等を言える環境」、「対応事例の公開」、「相談機関の利用に際して、周囲や友達に気づかれないようにする」などの意見が見られた。

「その他」の回答における具体的な意見（抜粋）

- 自分に悩みがあるならそういう相談センターに行くべきだということを先生とかいろんな人の口から言ってほしい。そういうところに相談事を持っていくことは全く恥ずかしくないことだと行ってほしい。
- 向こうから来てもらうのではなく、こっちから見つけに行く。来てくれないのは「言えない」、「恥ずかしい」、「入るのに抵抗がある」といった理由があるから、待つのではなく役所のほうから行かないとダメ。
- 公園の溜まり場のような雰囲気であったり、グループで愚痴程度から言える環境があること。
- どういう対応をされるのかの実例が公開されていたら。
- まずは1回必ず相談する経験をしてもらえれば、利用するハードルは下がるかと思います。
- 周囲の目が気になったり、友だちに行くのを見られないようにしてほしい。

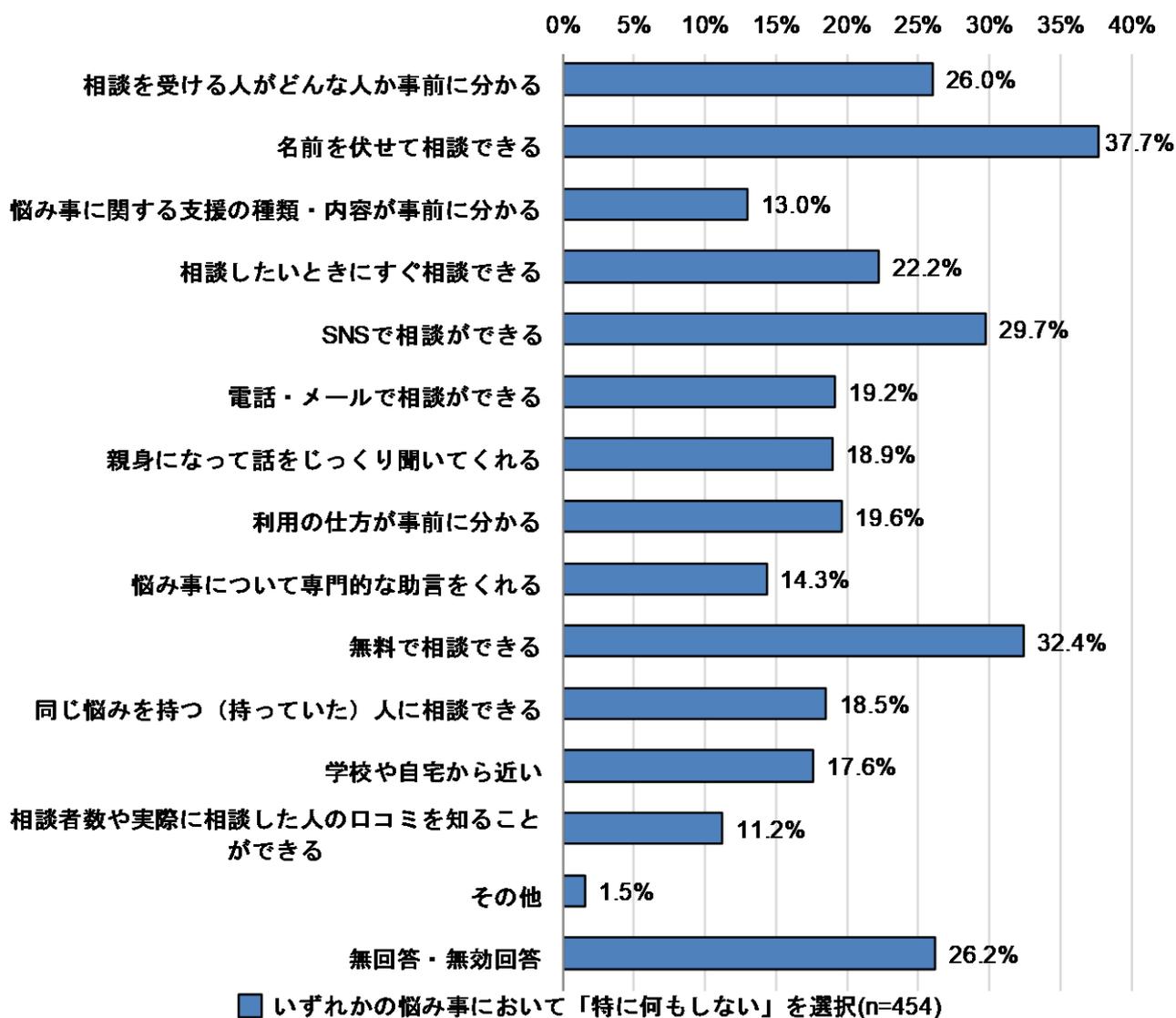
現在抱えている悩みの回答数別（設問 12）に集計したとき、悩みの回答数が少ない方と比べて、悩みの回答数が多い方は、相談機関を利用しやすくするための工夫（設問 20）のほとんどの選択肢において、回答する割合が高い傾向にある。6 つ以上の悩みを回答した方では、「無料で相談できる」の回答が最も多く、約 6 割となっており、次いで、「名前を伏せて相談できる」、「親身になって話をじっくり聞いてくれる」、「SNS で相談ができる」、「相談したいときにすぐ相談できる」、「利用の仕方が事前に分かる」の回答が 4 割を超えている。

図表 3-5 2 相談機関を利用しやすくするための工夫（悩みの回答数別）



困ったときの行動として「何もしない」と回答した方^(注9)では、相談機関を利用しやすくするための工夫を尋ねた設問（設問20）について、「名前を伏せて相談できる」と回答した方が最も多く、約4割となっている。次いで、「無料で相談できる」、「SNSで相談できる」の順に多くなっており、回答割合は約3割となっている。

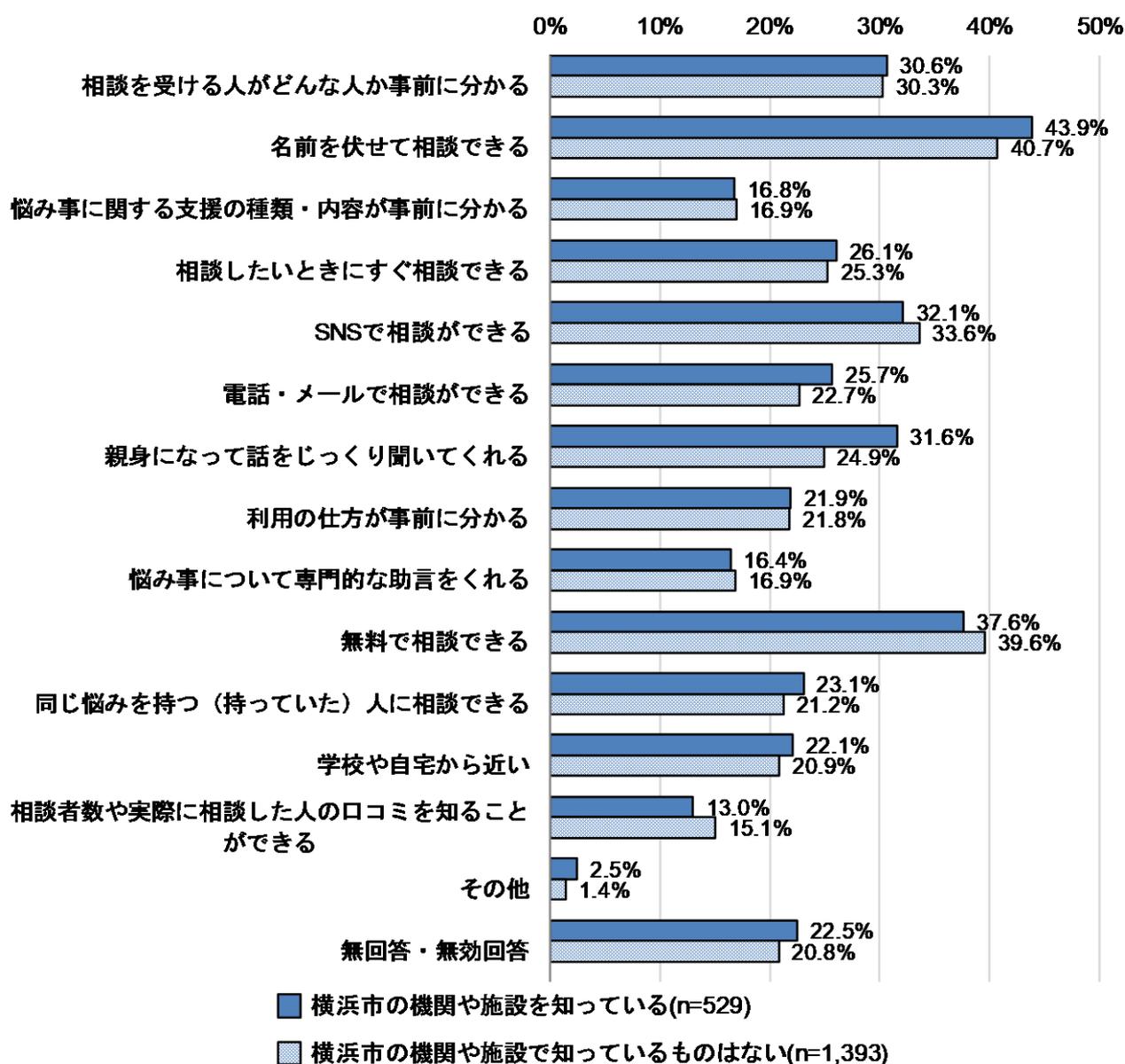
図表 3-53 相談機関を利用しやすくするための工夫
(困ったときの行動として「何もしない」と回答した方)



(注9) 心配になったり、困ったりしたときの行動や相談先を尋ねる、「友人、知人との人間関係」、「勉強・成績・進路のこと」、「家族のこと」、「自分のこと(身体的特徴・性格・健康状態など)」のいずれかに関する設問において、「特に何もしない」を回答した方について集計している。

横浜市の青少年施策に関する機関や施設の認知状況別（設問 18）^{（注 10）} に集計したところ、横浜市の機関や施設を知っているか否かに関わらず、相談機関を利用しやすくするための工夫を尋ねた設問（設問 20）について、回答の傾向に大きな差異は見られなかったが、「親身になって話をじっくり聞いてくれる」の選択肢において、「横浜市の機関や施設を知っている」方は、「横浜市の機関や施設で知っているものはない」方と比べて、約 7 ポイント回答割合が高くなっている。

図表 3-5 4 相談機関を利用しやすくするための工夫（横浜市の機関や施設の認知状況別）



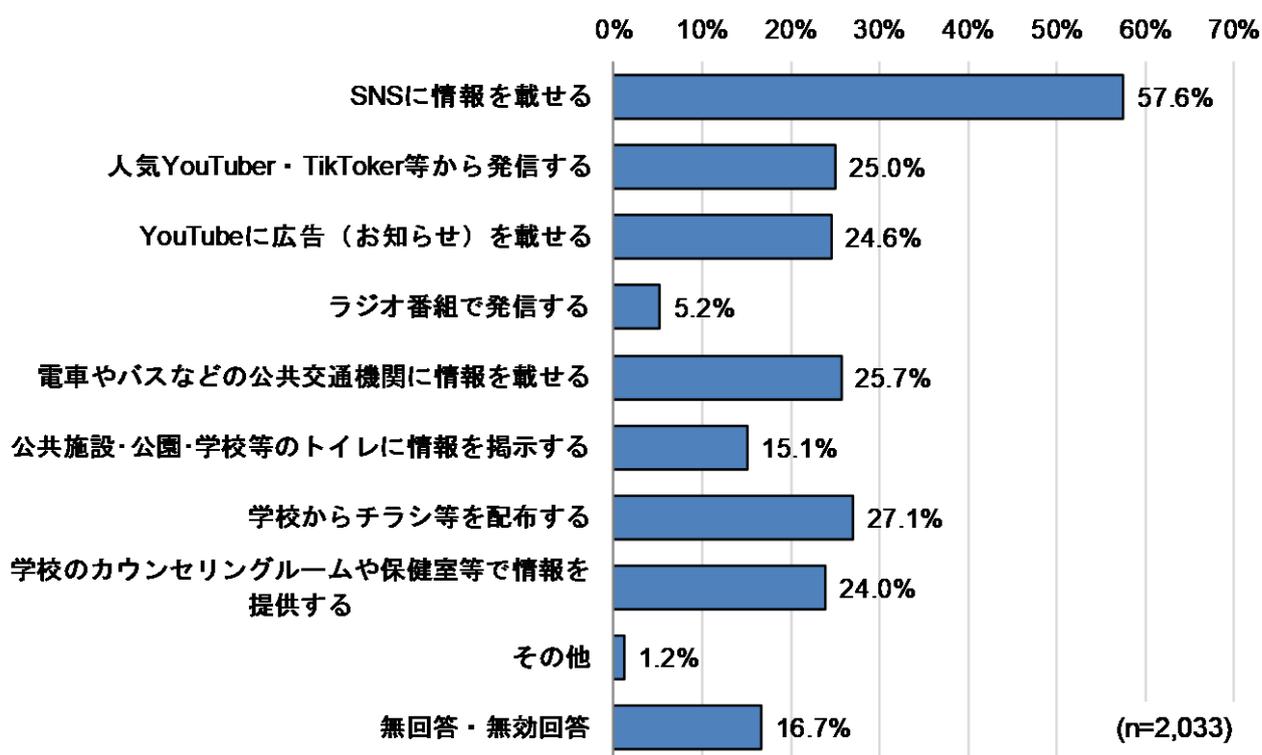
（注10） 「次の機関や施設について、知っているものを選んでください」の設問において、「横浜市青少年相談センター」、「地域ユースプラザ」、「若者サポートステーション」、「青少年交流・活動支援スペース」、「青少年の地域活動拠点」のいずれかを回答した方を、「横浜市の機関や施設を知っている」方として集計している。また、同設問において、「知っているものはない」を回答した方を、「横浜市の機関や施設で知っているものはない」方として集計している。

カ 相談先を知ってもらうための方法

同世代の人たちに、悩んでいることや心配なことを相談できる相談先を知ってもらうための方法として、良いと思うものを尋ねた設問について、「SNSに情報を載せる」の回答が最も多く、約6割となっている。また、「その他」の回答での具体的な記述としては、「利用している人のリアルな声を届ける」などの意見も見られた。

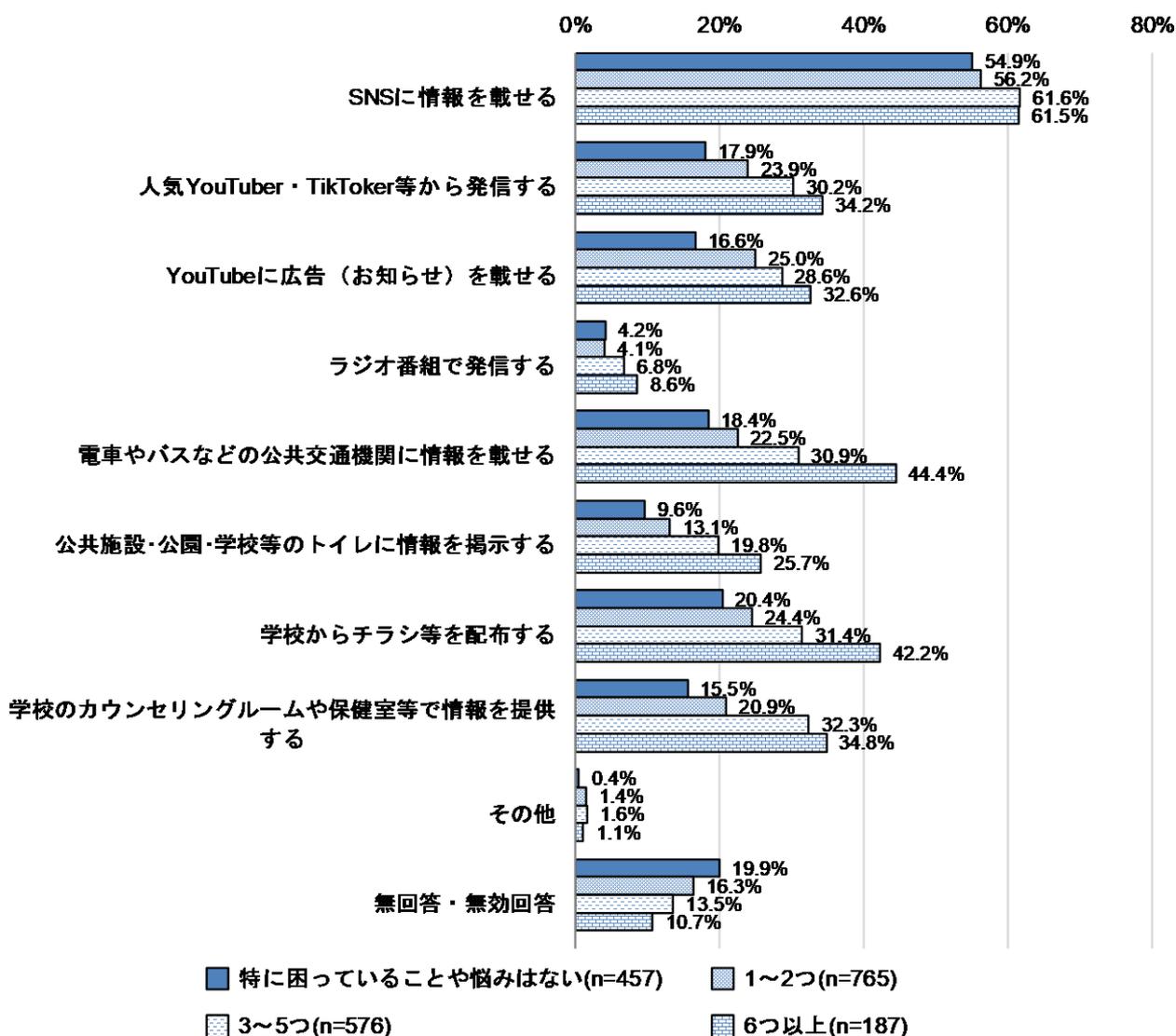
【設問 21】 あなたと同世代の方たちに、悩んでいることや心配なことを相談できる相談先を知ってもらうための方法として、良いと思うものを次の中から選んでください。(複数回答)

図表 3-55 相談先を知ってもらうための方法



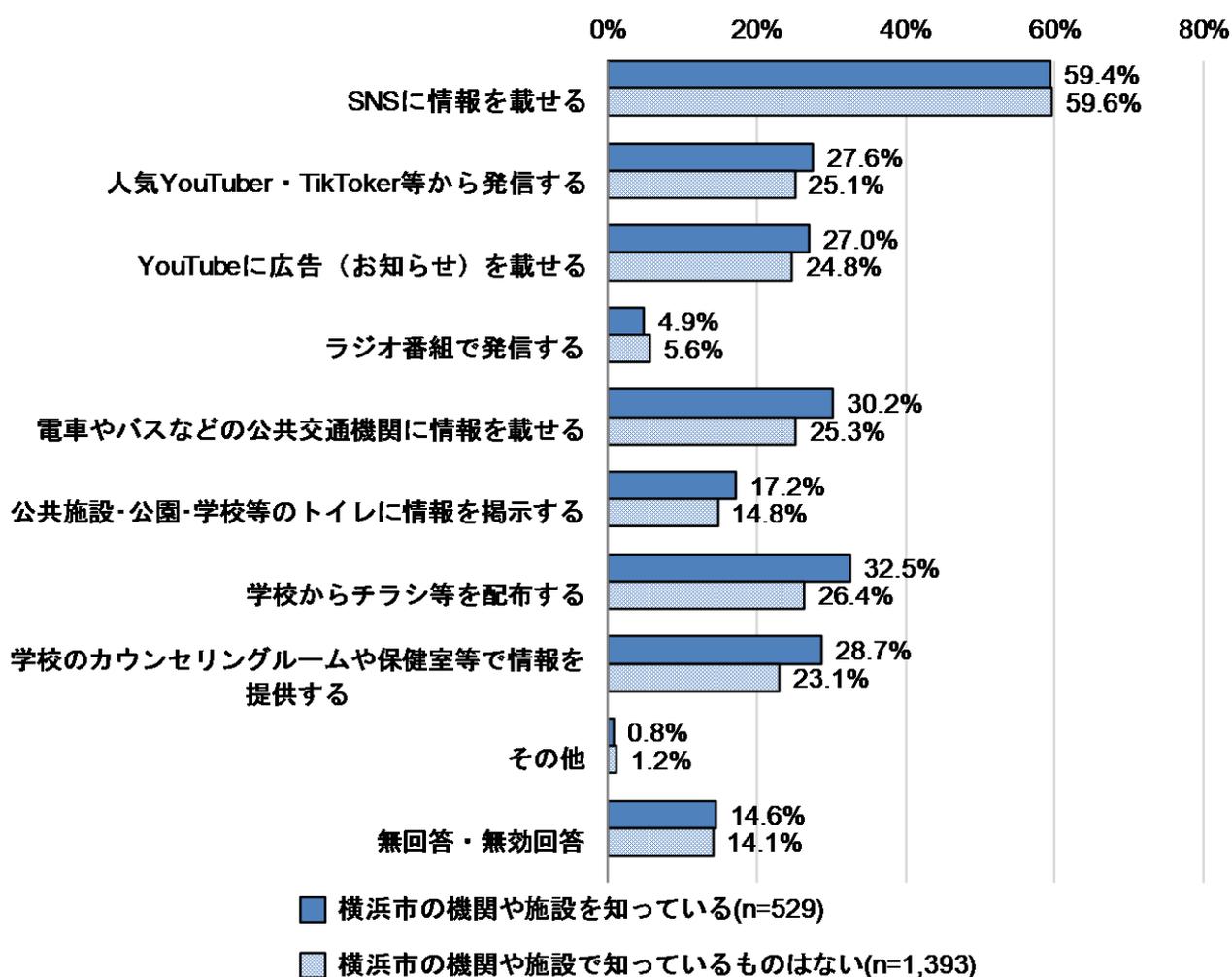
現在抱えている悩みの回答数別（設問 12）に、相談先を知ってもらうための方法（設問 20）に対する回答状況をみると、悩みの回答数が増加するほど、ほとんどの選択肢において、回答割合が増加する傾向にある。6つ以上の悩みを回答した方では、「SNS に情報を載せる」の回答が最も多く約6割となっており、次いで、「電車やバスなどの公共交通機関に情報を載せる」、「学校からチラシ等を配布する」の回答が約4割となっている。

図表 3-5 6 悩みの回答数別 相談先を知ってもらうための方法



横浜市の機関や施設の認知状況別（設問 18）に集計した場合、全体の回答傾向に大きな差異は見られないが、「学校からチラシ等を配布する」、「学校のカウンセリングルームや保健室等で情報を提供する」、「電車やバスなどの公共交通機関に情報を載せる」の選択肢において、「横浜市の機関や施設を知っている」方は、そうでない方と比べて、5～6ポイントほど回答割合が高くなっている。

図表 3-57 相談先を知ってもらうための方法
（横浜市の機関や施設の認知状況別）



第4章 調査結果のまとめ

調査結果に関する留意点

- ヒアリングで把握した意見は、10代・20代の調査協力者やその友人等について話された内容である。これらの意見は、定性的な特徴や価値観を示す「質的なデータ」であり、横浜市の高中生・大学生全体の傾向を表す「定量的なデータ」ではない点に留意が必要である。
- アンケート集計結果の「全体」は、市内の10の調査協力校のアンケート回収結果の「全体」を示しており、横浜市内の高等学校や大学全体の傾向を示すわけではないこと、アンケート対象範囲の決定、調査票の配布回収方法を調査協力校の任意としたため、調査協力校別の回収率に大きなばらつきがある点に、留意が必要である。

(1) 困っていることや不安に思うこと、悩みについて

- 悩みごととして、「学校での勉強や成績のこと」、「進学のこと」、「就職のこと」をそれぞれ約3割が回答した。

ヒアリング調査では、現在悩んでいることや心配なこと、また、新型コロナウイルスの流行に関連して不安に思うことや悩んでいることを聞いたところ、「就職のこと」、「学校での勉強や成績のこと」、「友人や仲間との人間関係」に関する意見が、共通して多く挙げられた。

アンケート調査では、「学校での勉強や成績のこと」、「進学のこと」、「就職のこと」について、それぞれ回答者の約3割が困ったり悩んでいると回答し、ヒアリング調査と同様の傾向が確認された。また、回答者の約8割が何らかの困りごとや悩みごとを抱えていることがわかる。そのうちの約1割が困りごとや悩みごとの選択肢を6つ以上選んでおり、複数の多様な悩みを抱えていることが伺えた。

(2) ゲーム・SNS・インターネットについて

- 1日6時間以上 SNS を利用する割合は、平日が約2割、休日が約4割だった。
1日6時間以上ゲームを利用する割合は、平日が約1割、休日が約2割だった。

回答者のほぼ全員が自分専用のスマートフォン、タブレット、携帯電話を所持しており、アンケート調査の回答によると、毎日 SNS (LINE、Twitter、Instagram、YouTube 等) を利用

する割合は約9割で、平日に6時間以上 SNS を利用する割合は約2割となっている。毎日ゲームをする割合は約5割で、平日に6時間以上ゲームをする割合は約1割だった。

スマートフォン等は、日常生活の中で欠くことのできないツールとなっていることが伺える。

○ SNS やゲーム等の過度な利用、それに伴う日常生活の支障やトラブルはごく身近な問題となっている。

ヒアリング調査では、同世代の知人の例を含めて、やらなくてはいけないことを後回しにし、つい熱中してしまうものの対象として、「ゲーム」、「SNS」、「動画サイト」が挙げられた。特にゲームについては、日常生活の昼夜逆転や、学校の授業中もやめられないなど、日常生活に悪影響が生じている事例が複数挙げられた。

アンケート調査でも、大切な予定や必ずやらなくてははいけないことを後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものとして、「SNS」や「動画サイト閲覧」、「ゲーム」をそれぞれ約1割が回答し、ヒアリング調査と同様の傾向が確認された。

また、インターネットやゲームの利用によって、過去12か月以内に問題が起こったかを尋ねたところ、「昼夜逆転またはその傾向があった」、「朝起きられなかった」との回答が、約3割となった。

インターネットの利用に伴うトラブルについては、回答者の約3割が何らかのトラブルを経験したことがあると回答した。経験したトラブルの内容は、「悪口を言われた（書き込まれた）」、「知らない人から性的なアプローチを受けた」、「アカウントを乗っ取られた」が多く、それぞれ約1割であった。平日6時間以上 SNS を利用している回答者が「知らない人から性的なアプローチを受けた」割合は約2割となっているなど、SNS の利用時間が長いほどトラブルを経験した割合が相対的に高くなる傾向が見られた。

本調査の回答者にとって、SNS やゲーム等の過度な利用、それに伴う日常生活の支障やトラブルはごく身近な問題となっていることが確認された。

なお、ゲーム依存（ゲーム障害^(注11)）は、世界保健機構（WHO）が2019年5月に国際

(注11) ゲーム障害の臨床的特徴として、①ゲームの時間や頻度のコントロールができないこと、②ゲームに没頭することへの優先順位が高まり、他の生活上の利益や日常の活動よりもゲームが優先されること、③ゲームにより問題が起きているにも関わらずゲームの使用を続けるという行動様式が挙げられる。

疾病分類に認定した新しい精神疾患であり、国においても対策に着手し始めた課題でもある。本市においても、より若年層とその保護者への SNS やゲームの利用に関する広報・啓発を強化するとともに、課題を抱えている青少年を対象とした支援機関等が新たな課題として理解を深めることが必要だと考えられる。

(3) 悩みごとの相談について

- 悩みごとの相談相手には、親や友達等の身近な人を選ぶ傾向が確認された。また、家族関係で悩む人は、他のことで悩む人に比べ、身近な人に相談しにくいと考えられる。

ヒアリング調査では、親や友達等の身近な人に相談する要因として、「ふだん話している仲の良い人」、「同じ境遇にいる」など、相談のしやすさが重要であることが把握された。

アンケート調査では、心配ごとや困りごとがあるときに、「家族に相談する」、「友達等の同世代の人に相談する」、「自分で考えて解決する」を回答する割合が高かった。一方で、困ったときに「特に何もしない」という回答は、困りごとの内容によらず1割程度存在した。また、困りごとの内容の中で「家族関係」で悩む人の約2割は、家族のことに関する困りごとに対して「特に何もしない」と回答しており、他の悩みに比べて、身近な人に相談しにくく自分の中で抱え込んでしまう方が相対的に多いと推察される。

- 相談したいことがあっても、青少年相談センターを「利用したいとは思わない」と約8割の回答者が回答した。

アンケート回答者の約2割が「横浜市青少年相談センター」を知っていると回答した。

また、アンケート回答者の約8割は、相談したいことがあっても、横浜市青少年相談センターを「利用したいと思わない」と回答している。

悩みごとが多い方^(注12)について、青少年相談センターを利用したいと思わない理由をみると、「相談を受ける人がどんな人か分からないから」、「行っても解決できないと思うから」と回答した割合が約4割、「相談事をうまく話すことができないから」、「施設の場所が遠いから」、「施設に行く時間がないから」、「何を聞かれるのか不安だから」、「ひとりでは行きづらいから」と回答した割合が約3割と、相談に至る様々なハードルが存在することが伺える。また、「その他」の回答の中に、「相談機関を利用しなければならないほど、自分の悩みがとても深

(注12) 設問12で悩みごとを6つ以上選択した者

刻なものだと感じられてしまう」という意見があり、相談機関は「深刻な悩みを相談する場」という心理的なハードルの高さを伺わせる記載が見られた。

相談にいたる様々な心理的・物理的なハードルを下げるために、青少年を対象とした相談に関する情報発信や手段等について、調査結果を踏まえた検討を行う必要がある。

- **利用してみたいと思う相談の場として、「LINE 等の SNS による相談」が、手軽で利用のハードルが低いことから支持された。一方で、親や友人では解決できない専門的な悩みに対する相談のニーズもある。**

ヒアリング調査では、「LINE 等の SNS による相談」を利用したいという意見が多く挙げられた。その理由として、時間帯を選ばずいつでも相談できること、顔を見せず匿名で利用できること、無料であること、ふだん使っていること、気軽に相談しやすいこと、文章の方が伝えやすいなどの利点が挙げられた。時間・費用・心理面等の観点から、「SNS による相談」は、手軽で利用のハードルが低いことにより、支持されたと考えられる。一方で、専門家から具体的なアドバイスが欲しい、親や友人に聞いても解決しないことを専門家に聞きたいなどの理由から、「悩みごとについての専門的な助言」を利用したいという意見もあった。

- **相談機関を利用しやすくするには、相談に至る様々なハードルを下げるための工夫が必要である。**

ヒアリング調査では、青少年が悩みを相談しやすくするために、「些細なことでも相談できる」ことをアピールし、小さな悩みから相談にのっていけば、青少年が大きな悩みを抱えたときに支援につながりやすいという意見があった。

アンケート調査では、10代・20代の青少年が相談機関を利用しやすくなる工夫について、「名前を伏せて相談できる」、「無料で相談できる」の回答が多く約4割、次いで「SNSで相談ができる」、「相談を受ける人がどんな人か事前に分かる」が約3割となっている。

また、相談機関の利用に関する心理的なハードルを下げる方法として、「その他」の自由記述の中に、「相談機関を利用することは恥ずかしくないことだと先生たちの口から伝える」や、「利用している人のリアルな声を届ける」という、相談機関を利用することへの抵抗感を減らすための情報提供や啓発が重要という指摘があった。また、「言えない、恥ずかしい、入るのに抵抗がある」という理由があるので、相談機関は待つのではなく、行かないと」という、

アウトリーチの重要性を指摘する記述が見られた。

ヒアリング調査やアンケート調査の結果から、相談機関が提供する相談についても、時間や場所、費用、ふだん使っているツール等の物理面や、「些細なことでも相談してよい」という心理面での相談に対するハードルを下げるのが重要であると言える。

また、学校からの情報は信頼性が高いため、たとえば、学校からチラシを配布する際に、先生から「捨てないように」と一言付け加えていただく、先生が必要なときに生徒にチラシを渡せるよう、情報を持っておくなど、相談機関につなぐ意識を持っていただくよう、働きかけていく必要がある。

さらに、校内で把握した生徒の悩みは、その背景要因をアセスメントし、適切な機関での支援へとつなげ状況改善を図ることが根本的な解決への第一歩となる。学校が福祉の専門職として機関連携を行うスクールソーシャルワーカー等を活用したり、青少年施設・機関や支援機関等との顔の見える関係を構築することで、青少年の悩みが深刻化する前に、適切な支援機関につなぐ仕組みを強化することも考えられる。

さらに、気軽に相談できる場と、専門的な相談をできる場の選択肢を設けることが必要であると考えられる。「SNSによる相談」とは別に、「対面での相談」の方がよいという意見もあり、対面の相談と非対面の相談の場についても、選択肢が必要であると考えられる。

(4) 10代・20代に対する情報提供について

- 10代・20代の青少年の情報入手はSNSが主となっており、即時性・正確性・簡便性が重視されている。

ヒアリング調査では、ふだんの情報入手は、SNS、中でもTwitter検索を利用しているという回答が多く挙げられた。ウェブ検索とSNSを併用して情報収集をするという回答も多くあった。Twitter検索を利用する理由として、「リアルタイムの情報が得られる」、「情報の発信者が見えるため真偽を確かめやすい」、「文字数が少なく読みやすい」などが挙げられた。一方で、Twitterは基本的にはフォローしているアカウントからの情報しか届かないため、10代・20代に対する情報提供手段として利用するためには、行政がTwitterでただ発信する以上の工夫が必要である。

アンケート調査では、よく利用する情報の入手手段として、「LINE」、「YouTube」が約8割、「Twitter」が約7割の回答結果となり、SNSによる情報入手が主となっていることが確認さ

れた。また、情報入手の際に重視することとして、「必要な情報を素早く入手できること」、「正確な情報入手できること」が約6割、「最新の情報入手できること」、「楽に調べることができること」が約5割となっており、情報入手の即時性・正確性・簡便性が重視されていることが読み取れた。

- **横浜市の青少年施策に関する施設・機関を知らないと回答した割合は約7割だった。知っているとは回答した方が知ったきっかけは「学校からの配布物」が約5割となっている。**

アンケート調査回答者の約7割は、市の青少年施策に関する機関や施設を認知していなかった。一方、調査対象のいずれかの機関や施設を知っていると回答した方が、機関や施設を知ったきっかけは、「学校からの配布物」が最も多く約5割となっており、現状の広報手段の中では最も効果的な方法であると考えられる。

- **市の広報物ではカード型チラシの認知度が高い。広報物に対して「文字が多く読みにくい」、「メリットを分かりやすく示したほうがよい」、「紙は捨てられてしまう」などの指摘があった。**

ヒアリング調査では、横浜市の広報物のうち、学校から生徒に配布している手のひらサイズのカード型チラシは「見覚えがある」とした回答が多かった。学校に通う生徒への情報提供方法として、学校からのカード型チラシの配布は効果があることが確認された。

また、インターネット検索で表示される広告が有効との声はヒアリングの中で多く聞かれた。中でも、学校に来ない生徒や、学校での配布物がない大学生に対して活用を検討することが考えられる。

また、現状の市のチラシやパンフレットに対する具体的な意見として、「文字が多く読みにくい」、「一読して何ができるのかメリットをわかりやすく示したほうがよい」、「配架チラシを手取ることはない」、「紙を配ってもほとんどが捨てられてしまう」など、10代・20代の青少年向けの広報に関する具体的な指摘が寄せられた。

- **市の相談先を知ってもらう方法として、「SNSに情報を載せる」、「電車やバスなどの公共交通機関に情報を載せる」、「学校からチラシ等を配布する」を支持する意見が多い。**

アンケート調査で、10代・20代に市の相談先を知ってもらうための方法を尋ねたところ、

「SNS に情報を載せる」が最も多く、約 6 割が選択した。また、相談先を知ってもらうための方法として、悩みの回答数が多い方^(注 13)のうち約 4 割が、「電車やバスなどの公共交通機関に情報を載せる」、「学校からチラシ等を配布する」と回答した。

(注13) 設問 12 で悩みごとを 6 つ以上選択した者

(5) 調査から得られた知見

本調査から得られた知見として、調査対象である10代・20代の青少年の約8割が、「学校での勉強や成績のこと」、「進学のこと」、「就職のこと」など、何らかの困りごとや悩みごとを抱えていることがわかった。また、SNSやゲーム等の利用時間の増加に伴い、日常生活への影響や様々なトラブルが身近に生じていることが把握された。このことから、SNSやゲームに関する広報・啓発等の対策が必要である。

困りごとや悩みごとの相談相手としては、親や友達等の身近で信頼できる人を選ぶ傾向が確認された。公的な相談機関を利用したいと思う青少年は少なく、相談機関を利用しやすくするための工夫が必要である。無料で些細なことでも相談できることや匿名で相談できることの周知、事前に対応事例がわかるような広報、SNSでの相談など、相談機関を利用することへの抵抗感を減らすための方策についての意見があった。心理的・物理的なハードルを下げするために、青少年を対象とした相談に関する情報発信や手段等について、調査結果を踏まえた検討を行う必要がある。

アンケート調査回答者の約7割は、市の青少年施策に関する機関や施設を認知していなかった。ヒアリング調査とアンケート調査の結果から、10代・20代への情報提供の方法として、学校配布のカード型チラシの効果が認められた。学校から配られる情報は有益で安心できる、カード型チラシは見覚えがあるという意見等から、学校配布のカード型チラシは「信頼性」や「視認性」が高く、学校に通う生徒への情報提供方法として効果があると言える。一方で、この世代ではSNSによる情報入手が主となっていることから、チラシやパンフレット等の紙媒体よりも、インターネットやSNS等のメディアを通じた情報提供方法を支持する意見が多数を占める結果となった。10代・20代の青少年の相談支援の広報においては、多様な手段での情報発信が重要であると考えられる。

インターネットやSNSを情報提供方法として活用する際には、情報の「即時性」や「手軽さ」を重視する傾向があることから、10代・20代がふだんから利用し、目にする媒体を経由して情報を届ける工夫が必要である。広報物に掲載する情報については、文字情報が多いことを敬遠する意見や現状の広報物が分かりにくいという指摘がみられたため、写真や映像に加え、図やイラスト等を用いて情報を視覚的に表現するインフォグラフィックを活用するなど、10代・20代に向けてわかりやすい広報物の検討が必要だと思われる。

青少年が情報源として信頼している学校から支援機関について周知することも有効であり、学校の協力のもと、周知方法を検討するべきである。

本調査を通して、利用したいと思う相談の場、横浜市の広報物や情報提供の方法等に対して、10代・20代の目線からの率直で具体的な提案をいただいた。10代・20代の当事者から直接意見を聞く場や、一緒になって具体的な方法を検討する場を設けていくことは、本調査にとどまらず、今後も重要であると考えられる。

参考資料

1. アンケート調査票

横浜市青少年に関する調査

ご回答にあたって

- この調査は、市内の一部の高等学校や大学に在籍している方を対象に、10代、20代の青少年の日常生活や悩み事等について調べるためのアンケートです。調査結果は、今後の横浜市の青少年施策を検討するための基礎資料として活用します。ご協力くださいますようお願いいたします。
- 皆さまのご意見は、回答者が特定されないよう全体を集計します。また、回答内容や個人情報が上記の目的以外に使用されたり、外部に漏れたりすることはありません。
- この調査は、インターネットから回答する方法と、紙の調査票に記入する方法のいずれかで回答することができます。回答時間の目安は、5～10分程度です。
- インターネットでの回答にご協力をお願いします。この調査は、別紙に記載のURL、QRコードから回答することができます。お手持ちのスマートフォン等から気軽にアクセスしてください。
- 紙の調査票に回答する場合は、鉛筆または黒や青のボールペンで記入してください。回答は質問文の指示にしたがって、あてはまる番号に○をつけるか、枠内に数字を記入してください。
- 「その他」と回答した場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。()がない場合は、具体的な内容を記入する必要はありません。
- 名前は、書かないでください。また、答えたくない質問は、答える必要はありません。答えが思いつかない場合や答えたくない質問は、答えずに次に進んでください。回答に迷う場合は、あなたの気持ち、考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- インターネット調査、紙の調査ともに、回答期限は 2020年10月30日(金) (紙の調査は必着)です。それまでにご回答くださいますよう、ご協力をお願いします。

この調査は横浜市が実施し、データ入力・集計分析を株式会社浜銀総合研究所に委託しています。調査に関するお問い合わせ、ご意見などは、以下の横浜市役所の担当までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

横浜市子ども青少年局青少年育成課

Tel : 045-671-2324 (月～金 9:00～17:00)

E-mail : kd-ikusei@city.yokohama.jp

あなたのことについておたずねします

Q1 あなたの学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|--------|
| 1. 高校1年生 | 2. 高校2年生 | 3. 高校3年生 | | |
| 4. 大学1年生 | 5. 大学2年生 | 6. 大学3年生 | 7. 大学4年生 | 8. その他 |

インターネットやSNS、ゲーム等の利用状況についておたずねします

Q2 あなたは自分専用のスマートフォン、タブレット、携帯電話のいずれかを持っていますか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 持っている | 2. 持っていない |
|----------|-----------|

Q3 あなたが情報入手するためによく利用する手段を次の中から選んでください。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | |
|-------------|------------|--------------|-------------|
| 1. LINE | 2. Twitter | 3. Instagram | 4. Facebook |
| 5. TikTok | 6. YouTube | 7. Web 検索 | 8. ニュースアプリ |
| 9. テレビ | 10. 新聞・雑誌 | 11. ラジオ | |
| 12. その他 () | | | |

Q4 あなたが情報入手する際に重視することを次の中から選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 情報が多いこと | 2. 必要な情報を素早く入手できること |
| 3. 他人の評価を見ることができること | 4. 楽に調べることができること |
| 5. 好きな芸能人などの情報を見ることができること | 6. 最新の情報を入手できること |
| 7. 正確な情報を入手できること | 8. 知りたい情報だけを調べられること |
| 9. 写真や動画などで分かりやすいこと | 10. 関連情報も調べられること |
| 11. その他 () | |

Q5 SNS (LINE、Twitter、Instagram、YouTube 等) を週に何日程度利用するのか教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-------|-------|-------|------------------|
| 1. 1日 | 2. 2日 | 3. 3日 | 4. 4日 |
| 5. 5日 | 6. 6日 | 7. 毎日 | 8. 普段 SNS を利用しない |

Q6 SNS を1日に平均何時間程度利用しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段 SNS を利用しない人は、0時間と回答してください。(枠内に整数を記入)

平日

時間

休日

時間

Q7 ゲーム（ゲーム機、パソコン、スマートフォン等を使用したゲーム）を週に何日程度行うのか教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------------|
| 1. 1日 | 2. 2日 | 3. 3日 | 4. 4日 |
| 5. 5日 | 6. 6日 | 7. 毎日 | 8. 普段ゲームをしない |

Q8 ゲームを1日に平均何時間程度しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段ゲームをしない人は、0時間と回答してください。（枠内に整数を記入）

平日	<input type="text"/>	時間	休日	<input type="text"/>	時間
----	----------------------	----	----	----------------------	----

Q9 友人や家族との約束、学校の勉強や部活動など、大切な予定や必ずやらなくてはならないことを後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはありますか。次の中から選んでください。（あてはまる番号すべてに○）

- | | | |
|---|------------|-------------------|
| 1. 大切な予定等を後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはない | | |
| 2. ゲーム | 3. SNS | 4. ネットサーフィン |
| 5. 買い物 | 6. 動画サイト閲覧 | 7. パチンコ・競馬等のギャンブル |
| 8. その他（ <input type="text"/> ） | | |

Q10 過去12か月以内に、インターネットやゲームの利用によって、次のような問題が起きましたか。（あてはまる番号すべてに○）

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 次のような問題は起きなかった |
| 2. 昼夜逆転またはその傾向があった（過去12か月で30日以上） |
| 3. 朝起きられなかった（過去12か月で30日以上） |
| 4. 食事を定期的にとらなかった |
| 5. 学校やアルバイト先等に遅刻した（過去12か月で30日以上） |
| 6. 学校やアルバイトを欠席・欠勤した（過去12か月で30日以上） |
| 7. 学校の成績が下がった |
| 8. 現実の友人が減った |
| 9. 家にひきこもっていた（過去12か月で30日以上） |
| 10. 家で物に当たったり、こわしたりした |
| 11. 課金が多く、家族や他の人に注意された |
| 12. 家族に内緒で、家のお金を使ったり、家族のカードを使った |
| 13. 家族との関係が悪くなった |
| 14. 家族に暴力をふるった |

Q11 インターネットやスマートフォン等の利用で、次のようなトラブルを経験したことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1. インターネットやスマートフォン等の利用でトラブルを経験したことはない | |
| 2. アカウントを乗っ取られた | 3. 悪口を言われた(書き込まれた) |
| 4. 仲間外れにあった | 5. 個人情報(写真を含む)を勝手に公開された |
| 6. 間違った情報により、不利益を被った | 7. 投稿から個人を特定された |
| 8. 詐欺や架空請求にあった | 9. 弱みを握られ、脅迫された |
| 10. 知らない人から性的なアプローチを受けた | 11. その他 () |

あなたが現在困っていることや悩んでいることについておたずねします

Q12 あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 特に困っていることや悩みはない | |
| 2. 学校での勉強や成績のこと | 3. 進学のこと |
| 4. 就職のこと | 5. 友人や仲間との人間関係 |
| 6. 家族関係 | 7. 恋愛に関すること |
| 8. 気分や体調・健康のこと | 9. 性格のこと |
| 10. 容姿のこと | 11. 収入や生活費のこと |
| 12. 住宅のこと | 13. はっきりした悩みはないがなんとなく不安である |
| 14. その他 () | |

Q13 Q12 で選んだ選択肢のうち、新型コロナウイルスの影響で、困っていることや悩んでいることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1. 新型コロナウイルスの影響で困っていることや悩みはない | |
| 2. 学校での勉強や成績のこと | 3. 進学のこと |
| 4. 就職のこと | 5. 友人や仲間との人間関係 |
| 6. 家族関係 | 7. 恋愛に関すること |
| 8. 気分や体調・健康のこと | 9. 性格のこと |
| 10. 容姿のこと | 11. 収入や生活費のこと |
| 12. 住宅のこと | 13. はっきりした悩みはないがなんとなく不安である |
| 14. その他 () | |

横浜市の施策についておたずねします

Q18-1 次の機関や施設について、知っているものを選んでください。(あてはまる番号すべてに○)
 ※それぞれの機関や施設について、このページの下部分と右のページに説明を記載してあります。

- | | | |
|-------------------|---------------|-----------------|
| 1. 横浜市青少年相談センター | 2. 地域ユースプラザ | 3. 若者サポートステーション |
| 4. 青少年交流・活動支援スペース | 5. 青少年の地域活動拠点 | 6. 知っているものはない |

↓
Q19-1 (8 ページ) へ

Q18-2 Q18-1で「1~5」と答えた人にお聞きします。それらを知ったきっかけを教えてください。
 (あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|----------------|------------|------------------|
| 1. 家族 | 2. 友人 | 3. 学校からの配布物 |
| 4. 学校の先生 | 5. その他の大人 | 6. 横浜市の HP、SNS 等 |
| 7. その他のインターネット | 8. その他 () | |

→ Q19-1 (8 ページ) へ

青少年に関する相談・支援

1 横浜市青少年相談センター

「友人関係で悩んでいる」「学校へ行けない」「家族関係で困っている」など、様々な悩みについて相談できます。

【対象】概ね15歳~39歳の若者とそのご家族

所在地	南区浦舟町3-44-2 4階 (市営地下鉄「阪東橋駅」徒歩5分、 京急線「黄金町駅」徒歩10分)
電話	045-260-6615

・横浜市青少年相談センター
 ・地域ユースプラザ
 ・若者サポートステーション
 詳しくはこちら ⇒



2 地域ユースプラザ

居場所(フリースペース)で、様々な悩みの相談や仲間づくりができます。
 また、地域ユースプラザのスタッフが各区役所に出向き、月2回、ひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談を実施しています。

【対象】概ね15歳~39歳の若者とそのご家族

よこはま東部ユースプラザ		よこはま西部ユースプラザ	
所在地	鶴見区鶴見中央3-23-8 (JR「鶴見駅」、京急線「京急鶴見駅」徒歩10分)	所在地	旭区二俣川1-2 二宮ビル3階 (相鉄線「二俣川駅」徒歩2分)
電話	045-642-7001	電話	045-744-8344
よこはま南部ユースプラザ		よこはま北部ユースプラザ	
所在地	磯子区磯子3-4-23 浜田ビル2階 (JR「磯子駅」徒歩5分)	所在地	都筑区茅ヶ崎中央11-3 ウェルネスセンタープラザ南ビル3階A号室 (市営地下鉄「センター南駅」徒歩6分)
電話	045-761-4313	電話	045-948-5503

3 若者サポートステーション

働くことに自信が持てない方、働いた経験がない方、仕事が続かない方などを対象に、一人ひとりが抱えている課題に合わせた支援を行っています。

【対象】概ね15歳～49歳の方とご家族

よこはま若者サポートステーション	
所在地	西区北幸1-11-15 横浜STビル3階 (JR「横浜駅」徒歩7分)
電話	045-290-7234

よこはま若者サポートステーション 新横浜サテライト	
所在地	港北区新横浜3-18-6 新横浜TSビル5階 (JR・市営地下鉄「新横浜駅」徒歩2分)
電話	045-290-7234

湘南・横浜若者サポートステーション	
所在地	鎌倉市小袋谷1-6-1 川島ビル2階 (JR「大船駅」徒歩5分)
電話	0467-42-0203



青少年のための居場所

4 青少年交流・活動支援スペース（さくらリビング）

気軽に利用できる交流コーナー・学習コーナーや、多目的ルーム、音楽スタジオなどがあります。

【対象】25歳未満の青少年

所在地	中区桜木町1-1 ぴおシティ6階 (JR「桜木町駅」徒歩3分、市営地下鉄「桜木町駅」徒歩1分)
電話	045-263-8020



5 青少年の地域活動拠点

青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動を行うことができます。

【対象】中・高校生世代の青少年

詳しくはこちら ⇒



南区：M-base	
設置場所	南区睦町1-15-15 横浜青年館内 (市営地下鉄「吉野町駅」徒歩5分)
電話	045-308-6610

保土ヶ谷区：ハッピースクエア	
設置場所	保土ヶ谷区天王町1-30-17 MKビルディング1階 (相鉄線「天王町駅」徒歩7分、「星川駅」徒歩10分)
電話	045-334-3042

磯子区：イソカツ	
設置場所	磯子区磯子3-4-23 浜田ビル2階 (JR「磯子駅」徒歩5分)
電話	045-761-0167

金沢区：カナカツ	
設置場所	金沢区洲崎町2-6 アイワパークサイドビル1階 (京急線「金沢八景駅」徒歩8分)
電話	045-374-4035

都筑区：つづきMYプラザ	
設置場所	都筑区中川中央1-25-1 ノースポートモール5階 (市営地下鉄「センター北駅」徒歩3分)
電話	045-914-7171

栄区：フレンズ☆SAKAE	
設置場所	栄区桂町711 さかえ次世代交流ステーション2階 (JR「本郷台駅」徒歩15分)
電話	045-898-1400

Q19-1 相談したいことがあれば、「横浜市青少年相談センター」（南区、最寄り駅：阪東橋駅・黄金町駅）を利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 利用したい	2. 利用したいと思わない
----------	---------------

↓
Q20へ

Q19-2 Q19-1で「2. 利用したいと思わない」と答えた人にお聞きします。その理由を次の中から選んでください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 特に理由はない	2. 施設の場所が遠いから
3. 施設に行く時間がないから	4. 1人では行きづらいから
5. 相談を受ける人がどんな人か分からないから	6. 対面での相談をしたくないから
7. 相談事をうまく話すことができないから	8. 行っても解決できないと思うから
9. 何を聞かれるのか不安だから	10. 秘密を守ってくれるか不安だから
11. その他（	）

Q20 青少年相談センターなどの相談機関での相談について、どのようにすればあなたと同世代の方たちが、相談しやすくなると思うか、次の中から選んでください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 相談を受ける人がどんな人か事前に分かる	2. 名前を伏せて相談できる
3. 悩み事に関する支援の種類・内容が事前に分かる	4. 相談したいときにすぐ相談できる
5. SNSで相談ができる	6. 電話・メールで相談ができる
7. 親身になって話をじっくり聞いてくれる	8. 利用の仕方が事前に分かる
9. 悩み事について専門的な助言をくれる	10. 無料で相談できる
11. 同じ悩みを持つ（持っていた）人に相談できる	12. 学校や自宅から近い
13. 相談者数や実際に相談した人の口コミを知ることができる	
14. その他（	）

Q21 あなたと同世代の方たちに、悩んでいることや心配なことを相談できる相談先を知ってもらうための方法として、良いと思うものを次の中から選んでください。（あてはまる番号すべてに○）

1. SNSに情報を載せる	2. 人気 YouTuber・TikToker等から発信する
3. YouTubeに広告（お知らせ）を載せる	4. ラジオ番組で発信する
5. 電車やバスなどの公共交通機関に情報を載せる	6. 公共施設・公園・学校等のトイレに情報を掲示する
7. 学校からチラシ等を配布する	
8. 学校のカウンセリングルームや保健室等で情報を提供する	
9. その他（	）

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

参考資料

2. アンケート集計表

あなたのことについておたずねします

Q1 あなたの学年を教えてください。

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=2,005
高校1年生	350	17.2	17.5
高校2年生	841	41.4	41.9
高校3年生	368	18.1	18.4
大学1年生	139	6.8	6.9
大学2年生	95	4.7	4.7
大学3年生	82	4.0	4.1
大学4年生	71	3.5	3.5
その他	59	2.9	2.9
無回答・無効回答	28	1.4	-
全体	2,033	100.0	100.0

インターネットやSNS、ゲーム等の利用状況についておたずねします

Q2 あなたは自分専用のスマートフォン、タブレット、携帯電話のいずれかを持っていますか。

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=2,021
持っている	2,015	99.1	99.7
持っていない	6	0.3	0.3
無回答・無効回答	12	0.6	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q3 あなたが情報を入手するためによく利用する手段を次の中から選んでください。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=2,020
LINE	1,569	77.2	77.7
Twitter	1,428	70.2	70.7
Instagram	1,201	59.1	59.5
Facebook	95	4.7	4.7
TikTok	632	31.1	31.3
YouTube	1,578	77.6	78.1
Web検索	1,244	61.2	61.6
ニュースアプリ	437	21.5	21.6
テレビ	1,070	52.6	53.0
新聞・雑誌	214	10.5	10.6
ラジオ	112	5.5	5.5
その他	21	1.0	1.0
無回答・無効回答	13	0.6	-
全体	2,033	-	-

Q4 あなたが情報を入手する際に重視することを次の中から選んでください。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=2,005
情報が多いこと	743	36.5	37.1
必要な情報を素早く入手できること	1,237	60.8	61.7
他人の評価を見ることができること	656	32.3	32.7
案に調べることができること	1,000	49.2	49.9
好きな芸能人などの情報を見ることができること	611	30.1	30.5
最新の情報を入手できること	1,099	54.1	54.8
正確な情報を入手できること	1,143	56.2	57.0
知りたい情報だけを調べられること	628	30.9	31.3
写真や動画などでわかりやすいこと	887	43.6	44.2
関連情報も調べられること	530	26.1	26.4
その他	17	0.8	0.8
無回答・無効回答	28	1.4	-
全体	2,033	-	-

Q5 SNS（LINE、Twitter、Instagram、YouTube等）を週に何日程度利用するのか教えてください。

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=2,017
1日	31	1.5	1.5
2日	10	0.5	0.5
3日	11	0.5	0.5
4日	14	0.7	0.7
5日	22	1.1	1.1
6日	23	1.1	1.1
毎日	1,896	93.3	94.0
普段SNSを利用しない	10	0.5	0.5
無回答・無効回答	16	0.8	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q6 SNSを1日に平均何時間程度利用しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段SNSを利用しない人は、0時間と回答してください。【平日】

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,969
1時間未満	23	1.1	1.2
1～2時間未満	365	18.0	18.5
2～3時間未満	409	20.1	20.8
3～4時間未満	348	17.1	17.7
4～5時間未満	158	7.8	8.0
5～6時間未満	177	8.7	9.0
6時間以上	489	24.1	24.8
無回答・無効回答	64	3.1	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q6 SNSを1日に平均何時間程度利用しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段SNSを利用しない人は、0時間と回答してください。【休日】

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,964
1時間未満	19	0.9	1.0
1～2時間未満	206	10.1	10.5
2～3時間未満	263	12.9	13.4
3～4時間未満	290	14.3	14.8
4～5時間未満	227	11.2	11.6
5～6時間未満	211	10.4	10.7
6時間以上	748	36.8	38.1
無回答・無効回答	69	3.4	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q7 ゲーム（ゲーム機、パソコン、スマートフォン等を使用したゲーム）を週に何日程度行うのか教えてください。

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=2,012
1日	75	3.7	3.7
2日	78	3.8	3.9
3日	97	4.8	4.8
4日	79	3.9	3.9
5日	78	3.8	3.9
6日	62	3.0	3.1
毎日	1,010	49.7	50.2
普段ゲームをしない	533	26.2	26.5
無回答・無効回答	21	1.0	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q8 ゲームを1日に平均何時間程度しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段ゲームをしない人は、0時間と回答してください。

【平日】

	件数	割合	
		N=2,033	割合(除無回答・無効回答) N=1,993
1時間未満	638	31.4	32.0
1～2時間未満	473	23.3	23.7
2～3時間未満	311	15.3	15.6
3～4時間未満	219	10.8	11.0
4～5時間未満	96	4.7	4.8
5～6時間未満	91	4.5	4.6
6時間以上	165	8.1	8.3
無回答・無効回答	40	2.0	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q8 ゲームを1日に平均何時間程度しますか。平日と休日に分けてそれぞれ教えてください。普段ゲームをしない人は、0時間と回答してください。

【休日】

	件数	割合	
		N=2,033	割合(除無回答・無効回答) N=1,990
1時間未満	592	29.1	29.7
1～2時間未満	308	15.2	15.5
2～3時間未満	261	12.8	13.1
3～4時間未満	196	9.6	9.8
4～5時間未満	153	7.5	7.7
5～6時間未満	123	6.1	6.2
6時間以上	357	17.6	17.9
無回答・無効回答	43	2.1	-
全体	2,033	100.0	100.0

Q9 友人や家族との約束、学校の勉強や部活動など、大切な予定や必ずやらなくてはいけないことを後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはありますか。次の中から選んでください。(複数回答)

	件数	割合	
		N=2,033	割合(除無回答・無効回答) N=1,863
大切な予定等を後回しにしてまでも、やめられない状態が続いているものはない	1,425	70.1	76.5
ゲーム	178	8.8	9.6
SNS	208	10.2	11.2
ネットサーフィン	65	3.2	3.5
買い物	48	2.4	2.6
動画サイト閲覧	187	9.2	10.0
パチンコ・競馬等のギャンブル	6	0.3	0.3
その他	40	2.0	2.1
無回答・無効回答	170	8.4	-
全体	2,033	-	-

Q10 過去12か月以内に、インターネットやゲームの利用によって、次のような問題が起きましたか。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=1,952
次のような問題は起きなかった	1,066	52.4	54.6
昼夜逆転またはその傾向があった(過去12か月で30日以上)	622	30.6	31.9
朝起きられなかった(過去12か月で30日以上)	521	25.6	26.7
食事を定期的にとらなかった	267	13.1	13.7
学校やアルバイト先等に遅刻した(過去12か月で30日以上)	120	5.9	6.1
学校やアルバイトを欠席・欠勤した(過去12か月で30日以上)	84	4.1	4.3
学校の成績が下がった	144	7.1	7.4
現実の友人が減った	53	2.6	2.7
家にひきこもっていた(過去12か月で30日以上)	219	10.8	11.2
家で物に当たったり、こわしたりした	52	2.6	2.7
課金が多く、家族や他の人に注意された	34	1.7	1.7
家族に内緒で、家のお金を使ったり、家族のカードを使った	13	0.6	0.7
家族との関係が悪くなった	36	1.8	1.8
家族に暴力をふるった	2	0.1	0.1
無回答・無効回答	81	4.0	-
全体	2,033	-	-

Q11 インターネットやスマートフォン等の利用で、次のようなトラブルを経験したことがありますか。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=1,887
インターネットやスマートフォン等の利用でトラブルを経験したことはない	1,299	63.9	68.8
アカウントを乗っ取られた	155	7.6	8.2
悪口を言われた(書き込まれた)	222	10.9	11.8
仲間外れにあった	62	3.0	3.3
個人情報(写真を含む)を勝手に公開された	111	5.5	5.9
間違った情報により、不利益を被った	48	2.4	2.5
投稿から個人を特定された	31	1.5	1.6
詐欺や架空請求にあった	102	5.0	5.4
弱みを握られ、脅迫された	21	1.0	1.1
知らない人から性的なアプローチを受けた	221	10.9	11.7
その他	14	0.7	0.7
無回答・無効回答	146	7.2	-
全体	2,033	-	-

あなたが現在困っていることや悩んでいることについておたずねします

Q12 あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=1,985
特に困っていることや悩みはない	457	22.5	23.0
学校での勉強や成績のこと	685	33.7	34.5
進学のこと	666	32.8	33.6
就職のこと	537	26.4	27.1
友人や仲間との人間関係	382	18.8	19.2
家族関係	187	9.2	9.4
恋愛に関すること	250	12.3	12.6
気分や体調・健康のこと	417	20.5	21.0
性格のこと	325	16.0	16.4
容姿のこと	336	16.5	16.9
収入や生活費のこと	320	15.7	16.1
住宅のこと	68	3.3	3.4
はっきりした悩みはないがなんとなく不安である	408	20.1	20.6
その他	78	3.8	3.9
無回答・無効回答	48	2.4	-
全体	2,033	-	-

Q13 Q12 で選んだ選択肢のうち、新型コロナウイルスの影響で、困っていることや悩んでいることがありますか。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=1,937
新型コロナウイルスの影響で困っていることや悩みはない	919	45.2	47.4
学校での勉強や成績のこと	267	13.1	13.8
進学のこと	239	11.8	12.3
就職のこと	258	12.7	13.3
友人や仲間との人間関係	165	8.1	8.5
家族関係	56	2.8	2.9
恋愛に関すること	63	3.1	3.3
気分や体調・健康のこと	208	10.2	10.7
性格のこと	47	2.3	2.4
容姿のこと	49	2.4	2.5
収入や生活費のこと	173	8.5	8.9
住宅のこと	27	1.3	1.4
はっきりした悩みはないがなんとなく不安である	231	11.4	11.9
その他	60	3.0	3.1
無回答・無効回答	96	4.7	-
全体	2,033	-	-

Q14 あなたが、「友人、知人との人間関係」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。(複数回答)

	件数	割合 N=2,033	割合(除無回答・ 無効回答) N=1,980
友人、知人との人間関係で心配になったり困ったりすることはない	597	29.4	30.2
特に何もしない	163	8.0	8.2
家族に相談する	532	26.2	26.9
友達等の同世代の人に相談する	717	35.3	36.2
先生(学校)に相談する	124	6.1	6.3
家族・先生以外の大人に相談する	75	3.7	3.8
SNS等でつながった人に相談する	119	5.9	6.0
SNS等で悩みを投稿する	102	5.0	5.2
解決方法をインターネット等で調べる	180	8.9	9.1
自分で考えて解決する	528	26.0	26.7
その他	13	0.6	0.7
無回答・無効回答	53	2.6	-
全体	2,033	-	-

Q15 あなたが、「勉強・成績・進路のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,980
勉強・成績・進路のこと	318	15.6	16.1
特に何もしない	172	8.5	8.7
家族に相談する	814	40.0	41.1
友達等の同世代の人に相談する	724	35.6	36.6
先生（学校）に相談する	595	29.3	30.1
家族・先生以外の大人に相談する	179	8.8	9.0
SNS等でつながった人に相談する	80	3.9	4.0
SNS等で悩みを投稿する	63	3.1	3.2
解決方法をインターネット等で調べる	294	14.5	14.8
自分で考えて解決する	476	23.4	24.0
その他	6	0.3	0.3
無回答・無効回答	53	2.6	-
全体	2,033	-	-

Q16 あなたが、「家族のこと」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,973
家族のこと	854	42.0	43.3
特に何もしない	241	11.9	12.2
家族に相談する	234	11.5	11.9
友達等の同世代の人に相談する	373	18.3	18.9
先生（学校）に相談する	102	5.0	5.2
家族・先生以外の大人に相談する	84	4.1	4.3
SNS等でつながった人に相談する	63	3.1	3.2
SNS等で悩みを投稿する	71	3.5	3.6
解決方法をインターネット等で調べる	127	6.2	6.4
自分で考えて解決する	404	19.9	20.5
その他	14	0.7	0.7
無回答・無効回答	60	3.0	-
全体	2,033	-	-

Q17 あなたが、「自分のこと（身体的特徴・性格・健康状態など）」で心配になったり、困ったりした時の行動や相談先を次の中から選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,981
自分のこと（身体的特徴・性格・健康状態など）	534	26.3	27.0
特に何もしない	210	10.3	10.6
家族に相談する	621	30.5	31.3
友達等の同世代の人に相談する	477	23.5	24.1
先生（学校）に相談する	107	5.3	5.4
家族・先生以外の大人に相談する	67	3.3	3.4
SNS等でつながった人に相談する	71	3.5	3.6
SNS等で悩みを投稿する	97	4.8	4.9
解決方法をインターネット等で調べる	360	17.7	18.2
自分で考えて解決する	520	25.6	26.2
その他	22	1.1	1.1
無回答・無効回答	52	2.6	-
全体	2,033	-	-

横浜市の施策についておたずねします

Q18-1 次の機関や施設について、知っているものを選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,922
横浜市青少年相談センター	459	22.6	23.9
地域ユースプラザ	94	4.6	4.9
若者サポートステーション	32	1.6	1.7
青少年交流・活動支援スペース	98	4.8	5.1
青少年の地域活動拠点	59	2.9	3.1
知っているものはない	1,393	68.5	72.5
無回答・無効回答	111	5.5	-
全体	2,033	-	-

【Q18-1でいずれかの機関や施設を知っている（「1～5」を選択した）人にお聞きします。】

Q18-2 それらを知ったきっかけを教えてください。（複数回答）

	件数	割合 N=529	割合（除無回答・ 無効回答） N=507
家族	65	12.3	12.8
友人	41	7.8	8.1
学校からの配布物	274	51.8	54.0
学校の先生	62	11.7	12.2
その他の大人	31	5.9	6.1
横浜市のHP、SNS等	67	12.7	13.2
その他のインターネット	74	14.0	14.6
その他	33	6.2	6.5
無回答・無効回答	22	4.2	-
全体	529	-	-

Q19-1 相談したいことがあれば、「横浜市青少年相談センター」（南区、最寄り駅：阪東橋駅・黄金町駅）を利用したいと思いますか。

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,896
利用したい	285	14.0	15.0
利用したいと思わない	1,611	79.2	85.0
無回答・無効回答	137	6.7	-
全体	2,033	100.0	100.0

【Q19-1で「2. 利用したいと思わない」と答えた人にお聞きします。】

Q19-2 その理由を次の中から選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=1,611	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,456
特に理由はない	710	44.1	48.8
施設の場所が遠いから	325	20.2	22.3
施設に行く時間がないから	214	13.3	14.7
1人では行きづらいから	260	16.1	17.9
相談を受ける人がどんな人か分からないから	257	16.0	17.7
対面での相談をしたくないから	134	8.3	9.2
相談事をうまく話すことができないから	187	11.6	12.8
行っても解決できないと思うから	247	15.3	17.0
何を聞かれるのか不安だから	132	8.2	9.1
秘密を守ってくれるか不安だから	103	6.4	7.1
その他	94	5.8	6.5
無回答・無効回答	155	9.6	-
全体	1,611	-	-

Q20 青少年相談センターなどの相談機関での相談について、どのようにすればあなたと同世代の方たちが、相談しやすくなると思うか、次の中から選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,552
相談を受ける人がどんな人か事前に分かる	599	29.5	38.6
名前を伏せて相談できる	811	39.9	52.3
悩み事に関する支援の種類・内容が事前に分かる	326	16.0	21.0
相談したいときにすぐ相談できる	497	24.4	32.0
SNSで相談ができる	651	32.0	41.9
電話・メールで相談ができる	458	22.5	29.5
親身になって話をじっくり聞いてくれる	521	25.6	33.6
利用の仕方が事前に分かる	422	20.8	27.2
悩み事について専門的な助言をくれる	324	15.9	20.9
無料で相談できる	762	37.5	49.1
同じ悩みを持つ（持っていた）人に相談できる	427	21.0	27.5
学校や自宅から近い	414	20.4	26.7
相談者数や実際に相談した人の口コミを知ることができる	281	13.8	18.1
その他	34	1.7	2.2
無回答・無効回答	481	23.7	-
全体	2,033	-	-

Q21 あなたと同世代の方たちに、悩んでいることや心配なことを相談できる相談先を知ってもらうための方法として、良いと思うものを次の中から選んでください。（複数回答）

	件数	割合 N=2,033	割合（除無回答・ 無効回答） N=1,694
SNSに情報を載せる	1,170	57.6	69.1
人気YouTuber・TikToker等から発信する	509	25.0	30.0
YouTubeに広告（お知らせ）を載せる	500	24.6	29.5
ラジオ番組で発信する	106	5.2	6.3
電車やバスなどの公共交通機関に情報を載せる	522	25.7	30.8
公共施設・公園・学校等のトイレに情報を掲示する	307	15.1	18.1
学校からチラシ等を配布する	550	27.1	32.5
学校のカウンセリングルームや保健室等で情報を提供する	487	24.0	28.7
その他	24	1.2	1.4
無回答・無効回答	339	16.7	-
全体	2,033	-	-

横浜市青少年に関する調査報告書 令和3年3月

発行：横浜市こども青少年局青少年育成課

横浜市中区本町6丁目 50 番地の 10

電話：045-671-2324

調査・分析：株式会社浜銀総合研究所

横浜市西区みなとみらい3丁目1番地の1